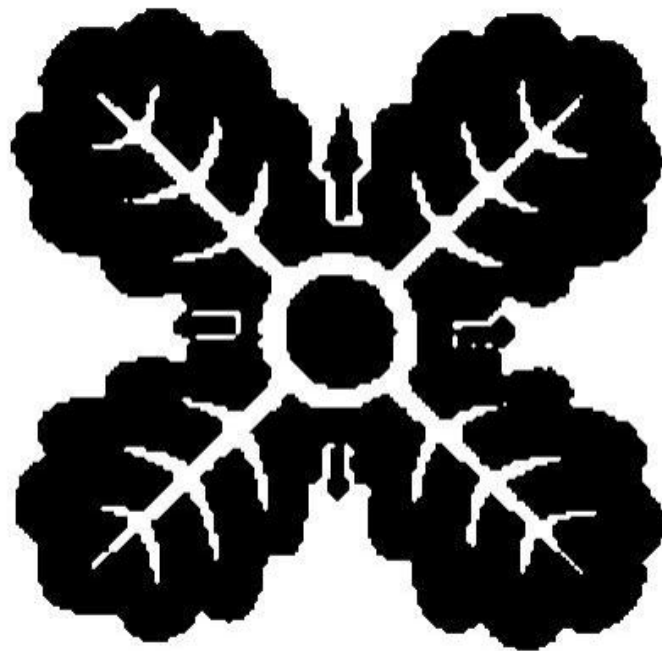


令和7年度
年間授業計画



東京都立戸山高等学校
全日制課程

目 次

(1年)

現代の国語
言語文化
地理総合
歴史総合
公共
数学Ⅰ
数学Ⅱ
数学A
生物基礎
地学基礎
体育
保健
音楽Ⅰ
美術Ⅰ
書道Ⅰ
英語コミュニケーションⅠ
論理表現Ⅰ
情報Ⅰ

(2年)

論理国語
古典探究
日本史探究
世界史探究
数学Ⅱ
数学B
数学C
物理基礎
化学基礎
体育
保健

英語コミュニケーションⅡ

論理表現Ⅱ

家庭基礎

情報Ⅰ

(3年)

論理国語

政治・経済

体育

英語コミュニケーションⅢ

論理表現Ⅲ

年間授業計画

科目(講座名)	言語文化	3単位	必修	学年	1年
教科書 副教材	「精選言語文化」(三省堂) 「新訂総合国語便覧」(第一学習社) 「体系古典文法九訂版」(数研出版) 「体系漢文三訂版」(数研出版) 「Key&Point 古文単語 330 四訂版」(いっずな書店) 「古文用言・漢文書き下しマスターノート 新版」(数研出版) 「古文助動詞・漢文句法マスターノート新版」(数研出版) 「新成古典 大学入学共通テスト対策 新装版」(尚文出版) 「小説速読トレーニング」(数研出版)	教科担当			

1 教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 科目の目標

上代(万葉集の歌が詠まれた時代)から近現代につながる文学作品に触れ、日本の伝統や文化が育んできた言語文化を理解し、これを継承していく一員として、自身の言語による諸活動に活かす能力を身につける。また人物の心情や情景、表現の仕方等を味わい評価することを通して、感性・情緒を深めると同時に、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究する「古典探究」を学ぶための基礎力をつける。

3 授業内容と学習方法

授業内容:日本の上代以降の古文だけでなく、中国に由来する漢文、近現代における文学作品まで、文化の成立や成熟に深い関わりのある言語の側面から日本文化の理解にアプローチする。作者が言語で表した一つの形を、時代的背景を加味しながら解釈するとともに現代に生きる自分の見方、捉え方を通して、言語表現の奥深さを感じてほしい。また現代に残る表現が私たちの感性や生活に根付いていることも知り、表現の多様性にも注目してほしい。

学習方法:解釈の基礎となる文法的事項への理解がまずは肝要となる。予習や小テスト等を通じて古典を現代語で解釈をする力を養い、読解力を向上させ、授業で提起される問いに向き合えるよう努めてほしい。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達 目標並び に評価の 観点	・古典を読むために必要な文法、句法、語句、歴史的・文化的背景などを理解している。 ・古典における語句や文体の変化や、内容について、通時的、共時的にまた地理的な側面から捉え、現代語や日本文化とのつながりについて理解を深めている。 ・創作活動を通じて、言語が文化そのものであることを理解している。 ・常用漢字や既習の語句等を使用して、高度な表現を追求している。 ・読書の意義と効用について理解を深めている。	・内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉え、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を理解している。また日本の言語文化について自分の考えを持っている。 ・作品が成立した歴史的背景を踏まえて、解釈を深めている。 ・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。また、その体験や思いが効果的に伝わるよう、表現の仕方を工夫している。 ・創作活動において、自分の感じたことや発見したことを文学的な形式を用いて表現している。	・予習や課題に対して積極的に取り組み、学習の成果を出すとともに、次の学習に活かそうとしている。 ・課題に対する成果をまとめ、他者への伝え方としてわかりやすさや方法について工夫を追求しようとしている。 ・課題に対して他者と協働して答えを導き、作品や文章、言語文化について理解を深めようとしている。
評価方法	定期テスト、小テスト、提出物、発表活動	定期テスト、小テスト、提出物、発表活動	提出物、グループワーク、発表活動

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	【古文編】 一 古文入門	古文の基礎知識の習得 宇治拾遺物語	知	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 古典に特徴的な語句について理解している。 古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解している。	16
	5	【漢文編】 一 漢文入門 二 故事成語	「児のそら寝」 「絵仏師良秀」 竹取物語 「かぐや姫の誕生」 「黄金ある竹」 漢文の基礎知識の習得 故事成語 「借虎威」「朝三暮四」	思	内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 作品や文章の成立した背景などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	
				主	予習や課題に対して積極的に取り組み、学習の成果を出すとともに、次の学習に活かしている。 課題に対する成果をまとめ、他者への伝え方としてわかりやすさや方法について工夫を追求している。 課題に対して他者と協働して答えを導き、作品や文章、言語文化について理解を深めている。	
	6	【古文編】 三 物語	徒然草 「ある人弓射ることを習ふに」 「丹波に出雲といふ所あり」 「奥山に、猫またといふものありて」 史話 「先従隗始」 文章 「雑説」	知	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 古典に特徴的な語句について理解している。 古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解している。 日本の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。	20
	7			思	内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 作品や文章の成立した背景などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味を吟味して、表現したいことを明確にしている。	
		【漢文編】 二 故事成語		主	予習や課題に対して積極的に取り組み、学習の成果を出すとともに、次の学習に活かしている。 課題に対する成果をまとめ、他者への伝え方としてわかりやすさや方法について工夫を追求している。 課題に対して他者と協働して答えを導き、作品や文章、言語文化について理解を深めている。	
2 学期	8	【近代以降の文章編】 二 詩	詩 「サーカス」 「シジミ」 「I was born」	知	詩における表現の技法とその効果について理解している。 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 古典に特徴的な語句について理解している。 古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解している。 常用漢字の読みに慣れ、文や文章の中で使っている。	21
	9			思	内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 作品や文章の成立した背景などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、日本の言語文化について自分の考えを持っている。 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味を吟味して、表現したいことを明確にしている。 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。	
	10	【古文編】 三 物語 【漢文編】 三 史話	枕草子 「ありがたきもの」 史話 「鶏鳴狗盗」「臥薪嘗胆」	主	予習や課題に対して積極的に取り組み、学習の成果を出すとともに、次の学習に活かしている。 課題に対する成果をまとめ、他者への伝え方としてわかりやすさや方法について工夫を追求している。 課題に対して他者と協働して答えを導き、作品や文章、言語文化について理解を深めている。	
	11	【古文編】 三 物語 六 日記・紀行	伊勢物語 「芥川」「東下り」 奥の細道 「旅立ち」「立石寺」 万葉集 古今和歌集 新古今和歌集	知	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 古典に特徴的な語句について理解している。 古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解している。 古典に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 日本の言語文化の特質や外国の文化との関係について理解している。 創作活動を通して、言葉には文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 常用漢字の読みに慣れ、文や文章の中で使っている。	21
	12	【漢文編】 三 史話 四 漢詩 【近代以降の文章編】 日本語の内と外	漢詩	思	内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 作品や文章の成立した背景などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、日本の言語文化について自分の考えを持っている。 創作活動を通じて、感じたことや発見したことを文学的な形式を用いて表現している。	

			「月の誤訳」	主	予習や課題に対して積極的に取り組み、学習の成果を出すとともに、次の学習に活かしている。 課題に対する成果をまとめ、他者への伝え方としてわかりやすさや方法について工夫を追求している。 課題に対して他者と協働して答えを導き、作品や文章、言語文化について理解を深めている。	
3 学 期	1	【古文編】 五 軍記 四 和歌 【漢文編】 三 史話 六 思想 【近代以降の文章編】 四 短歌と俳句 日本語の内と外	土佐日記 「門出」「帰京」 平家物語 「木曾の最期」 論語 短歌・俳句 「日本語の部屋」	知	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 古典に特徴的な語句について理解している。 古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解している。 古典に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 時間の経過や地域・文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解している。 日本の言語文化の特質や外国の文化との関係について理解している。 創作活動を通して、言葉には文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 常用漢字の読みに慣れ、文や文章の中で使っている。	27
	2			思	内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 作品や文章の成立した背景などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、日本の言語文化について自分の考えを持っている。 創作活動を通じて、感じたことや発見したことを文学的な形式を用いて表現している。	
	3			主	予習や課題に対して積極的に取り組み、学習の成果を出すとともに、次の学習に活かしている。 課題に対する成果をまとめ、他者への伝え方としてわかりやすさや方法について工夫を追求している。 課題に対して他者と協働して答えを導き、作品や文章、言語文化について理解を深めている。	

6 学習者へのメッセージなど

日本語は習得が難しい言語だと言われます。確かに助詞の使い方一つで文章のニュアンスが変わりますし、同じ意味を指す言葉が多くあったり、敬語には大人であっても悩まされたり、そもそも表記の仕方は3つもあったりして、日本語を作った先人たちを恨めしく思うこともあります。しかし日本語は「先人たち」だけが作るものではありません。「言語は変化するもの」とよく耳にしますが、グローバル化など社会の動向やSNSのような情報通信手段の普及、発展によって、新しい言葉がどんどん生まれています。少し前の「やばい」と現在の「やばい」の意味は違っています。状況の捉え方、感じ方をぴったりと反映する言葉を選び、表現するという日々の営みの中で私たちもまた言葉を作り出しているのです。変化の中に身が置かれていること、だからこそ感じられる先人たちが残した心や文化を、言語を通して楽しんでもほしいと思います。

年間授業計画

科目(講座名)		現代の国語	2単位	必修	学年	1年
教科書 副教材	「現代の国語」(筑摩書房) 「新訂総合国語便覧」(第一学習社) 「上級入試漢字・語彙」(桐原書店) 「ちくま評論入門 二訂版」(筑摩書房) 「現代文長文記述問題集2読解力養成編三訂版」(いっずな書店)		教科担当			

1 教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 科目の目標

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 授業内容と学習方法

授業(学習)内容

- ・論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、要約等しながら論述したり、話し合ったりして考察を深める。
- ・異なる形式で書かれた複数の文章や図表等を伴う文章を読み、解釈したことをまとめたり、発表したりして情報活用能力、発信力を伸ばす。
- ・漢字や語彙の学習、話し合いや意見の発表等の学習活動を通して、語彙力や表現力、論述力、行動力、創造力を伸ばす。

学習方法

- ・論理的な文章の構成を意識して筆者の主張を的確に読み取り、論理的な思考力を高める。
- ・文章や話に含まれている情報について主張と論拠、推論、妥当性等、情報と情報の関係について理解を深める。
- ・課題を解決したり考えを深めたりするために、話を聴き合う場をつくり、表現に留意した上で話し合いを行う。
- ・要約や自分の考えをまとめることを通して、説得力のある文章を書く。
- ・ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするために、語彙を増やし、読書に親しむことを継続する。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達 目標並び に評価の 観点	実社会に必要な、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、言語文化に関することや読書等、国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。また、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言語文化に関心をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	言葉や漢字、情報、知識等の獲得について、定期考査、課題に対する取り組み状況、提出物、小テスト、出席状況・学習態度などをもとに評価する。	知識や技能を活用して上記の目標達成を評価するために、定期テストや小テストに加えて論述や課題の作成、話し合いや発表等の活動、出席状況・学習態度などをもとに判断する。	知識・技能の獲得や思考力、判断力、表現力等を身に付けるための取り組みや試行錯誤を行おうとしていることを評価するために、定期考査、課題、提出物、小テスト、レポート、アンケート、出席状況・学習態度等をもとに総合的に判断する。

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	ガイダンス 〈言葉の働き〉 「境目」 (川上弘美)	・本文を読み、「～の境目」ということばで表現できる過去の経験や出来事について言葉で書き出す。 ・書き出した内容をグループで話し合い、発表する。	知 思 主	「境目」という言葉を通して、言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。具体例と主張など情報を効果的にまとめる方法を理解している。 目的や場に応じて、実社会や体験の中から適切な話題を選択し、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を考え、表現している。 教材の内容、他者との関係、「境目」に関心をもとうとしている。発表の態度は積極的で、他の人の発表も注意深く聞き、ものの見方、考え方を深めようとしている。	4
	5	「ことばとは何か」 (内田樹) 「名づけと所有」 (西谷修)	・他の言語と日本語との間の言葉に含まれる意味の違いについてグループで調べ、発表する。 ・名づけという言葉の働きについて本文を踏まえてまとめる。	知 思 主	ことばについて書かれた教材を通して、内容を理解するとともに、言葉に関する知識を増やし、活用する方法を理解している。 評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確に捉え、要旨や要点を把握している。 教材の「ことば」について関心を持ち、調べようとしている。積極的に意見を言い、他の人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、深めようとしている。	8
	6	〈自分を捉え直す〉 「ことばがつくる女と男」 (中村桃子)	・文章の構成とその効果について考え、自分が文章を書く際に意識する点をまとめる。 ・言語行為がアイデンティティを作る例を身の回りの表現から探して、それらの「指標性」について分析する。	知 思 主	言葉の働きなどについて理解するとともに、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて把握している。 「構築主義」や「指標性」といった言葉を通して、また、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて把握し、根拠と主張の活用など情報を伝える工夫を理解している。 言語の働きについて関心を持ち、既習事項と関連付けて考えたり調べたりしようとしている。積極的に意見を言い、他の人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、深めようとしている。	4
	7	「主体という物語」 (小坂井敏晶)	・筆者の主張する主体像について、その根拠とのつながりを意識して読み取りまとめる。 ・仮説を立てて、それを裏付ける論拠を集める方法を考える。	知 思 主	教材に用いられた「主体」「合理化」などについて理解するとともに、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて把握し、根拠と主張がどのような関係で説得力のある情報になるかを理解している。 評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて根拠と主張のつながりに着目して、叙述をもとに的確に捉え、要旨や要点を把握している。 教材内の人間の意識に関心を持ち、調べようとしている。主張の組み立て方を自ら実践しようとしている。	4
		〈芸術という視点〉 「サイエンスの視点、アートの視点」 (齋藤亜矢)	・「サイエンス」と「アート」の共通点と相違点をまとめ、それぞれの視点がどのように生かされるか考える。 ・日常で見つけた「！」について発表し、どのような「？」を生み出せるか協働して考える。	知 思 主	教材に用いられた「！」「？」「サイエンス」と「アート」の違いなどについて理解するとともに、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて把握している。 「！」「？」といった表現を具体化することを通して、また、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて把握し、根拠と主張の活用など情報を伝える工夫を理解している。 「アート」について述べた教材の内容に関心を持ち、論理の展開を考えてまとめようとしている。態度は積極的で、他の人の発表も注意深く聞き、ものの見方、考え方を深めようとしている。	4
2 学期	9	〈よりよい対話へ〉 「会話と対話」 (長田弘) 「ポスト真実時代のジャーナリズム」 (国谷裕子)	・様々な話し合いの形態について、それぞれの目的と問題点を整理する。 ・実際の社会問題を取り上げて、実際に話し合いながら、現代的な事情も踏まえて、効果的な対話のための条件を考える。	知 思 主	教材に用いられた「科学技術」について理解し、言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。本文中の根拠と主張について把握している。 「科学技術」や「魔術」といった言葉を通して、また、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて把握し、根拠と主張の活用など情報を伝える工夫を理解している。 教材の内容に関心をもっている。具体例や理由を示し、説明しようとしている。発表の態度は積極的で、他の人の発表も注意深く聞き、ものの見方、考え方を深めようとしている。	8
	10	「来るべき民主主義」 (國分功一郎)	・民主主義や政治について論じるにあたって、筆者が参照している意見とのつながりを読み取り、他者を説得する方法について考える。 ・身近な問題について、他者の意見を引用して論じ合い、見方を深める。	知 思 主	教材に用いられた〈労働〉〈仕事〉〈活動〉などの区別について理解するとともに、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて把握し、他者の意見の引用など情報を伝える工夫を理解している。 「政治」というテーマについて、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて把握し、根拠と主張の活用など情報を伝える工夫を理解している。 教材の内容に関心をもっている。具体例や理由を示し、説明しようとしている。発表の態度は積極的で、他の人の発表も注意深く聞き、ものの見方、考え方を深めようとしている。	4
	11	〈自文化と異文化〉 「開かれた文化」		知	2つの「文化相対主義」について理解し、言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。対比や具体例と主張の関連など情報を読み取る際の工夫を理解している。	3

3 学 期	12	(岡真理) 〈科学という視点〉 「魔術化する科学技術」 (若林幹夫)	・ことばの意味が、用いられ方によって異なることを理解し、その違いを説明する。 ・異文化理解に向けて、どのような行動が必要になるか話し合い、実行した結果を発表しあう。	思	「文化相対主義」という言葉を通して、内容や構成、論理の展開などについて把握し、根拠と主張の活用など情報を伝える工夫を理解している。	9
			・段落構成に注目して作者の論理や主張をつかむ。 ・各意味段落の内容を統合して要約文を作成する。 ・身の回りの科学技術について、どのような不透明さがあるか話し合い、発表する。	主	教材の内容に関心をもち、論理の展開を考えてまとめようとしている。態度は積極的で、他の人の発表も注意深く聞き、ものの見方、考え方を深めようとしている。	
				知	教材に用いられた「科学技術」について理解し、言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。本文中の根拠と主張について把握している。	
				思	「科学技術」や「魔術」といった言葉を通して、また、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて把握し、根拠と主張の活用など情報を伝える工夫を理解している。	
				主	教材の内容に関心をもち、具体例や理由を示し、説明しようとしている。発表の態度は積極的で、他の人の発表も注意深く聞き、ものの見方、考え方を深めようとしている。	
3 学 期	1 2 3	〈現代をよく知る〉 「リスクと近代社会」 (大澤真幸) 「〈私〉時代のデモクラシー」 (宇野重規) 「マルジャーナの知恵」 (岩井克人)	・現代社会の具体的なリスクを挙げ、「リスク社会」に生きる私たちに求められていることは何か、本文をふまえた上で考察を深める。 ・「近代社会」と「伝統的な社会」を比較して、現代社会がどのようなものであるか理解を深め、「デモクラシー」の実現のために必要なことを考える。	知	「リスク社会」について理解し、言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。対比や具体例と主張の関連など情報を読み取る際の工夫を理解している。	14
				思	「リスク社会」といった言葉を通して、また、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確に捉え、要旨や要点を把握している。異なる意見を対比して物事を考察している。	
				主	教材の内容に関心をもち、それを契機に世界や社会の問題を考えようとしている。対比や具体例や根拠を活用し、まとめようとしている。発表の態度は積極的で、他の人の発表も注意深く聞き、ものの見方、考え方を広げ、深めようとしている。	
			・エピソードを用いて、筆者が展開している主張を、その表現の効果に着目して読み取る。 ・「ポスト産業資本主義」と呼ばれる現代の特徴について考察する。	知	「資本主義」「差異」といったキーワードについて理解し、言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。対比や具体例と主張の関連など情報を読み取る際の工夫を理解している。	4
				思	評論文という文章の種類を踏まえて、内容の読み取りや情報の妥当性について判断することができている。	
				主	教材の内容に関心をもち、自らの意見を言い、他の人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	

6 学習者へのメッセージなど

言葉によって理解し、表現する力を伸ばすために、教材をより深く理解し、読解力、思考力、判断力、表現力を高める努力をしましょう。漢字小テスト、読書、身の回りの言語表現などを通して語彙を増やし、副教材「ちくま評論入門」での学習、休業中の課題等を活用して考えを整理して表現する練習を積むことで自らの言語運用力を高めてください。

様々な文章に触れ、他者と話し合い、自ら考えていくことで、情報を選ぶ力と発信する力がつき、社会で生きる力が育まれます。本校で友人とともに学ぶことがみなさんの成長につながることを願っています。

(なお上記教材は、省略したり、学ぶ順番を入れ替えたりする場合があります。)

年間授業計画

科目(講座名)	地理総合	単位	必修	学年	1年
教科書 副教材	『地理総合』東京書籍 『新詳高等地図』帝国書院 『最新地理図表 GEO』第一学習社 『地理統計 Plus - Web GIS 付き - 2025 年版』帝国書院	教科担当			

1 教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 科目の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

3 授業内容と学習方法

【学習内容】地図や地理情報システム（GIS）などを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する。そのうえで、自然環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する。グローバルな視点からは国際理解や国際協力のあり方を、地域的な視点からは防災などの諸課題への対応を扱う。作業的や具体的な体験をともなう学習を重視し、さまざまな諸課題を日常生活と関連づけて取り扱いながら、地理的な技能を身に付ける。

【学習方法】授業では、地図や統計、写真などの読み取り方に重点を置いて学習を進める。地名や語句の意味を正確に理解する力も必要だが、資料から情報を正確に読み取る力や、知識と読み取った情報を組み合わせて考察する力を身に付けられるように授業を行う。自分で学習する際には、復習を重視し、語句の意味や事象の内容を説明できるようにするとともに、事象の変化や違いについても論理的に説明できるように地図や資料を用いながら学習すると良い。暗記だけに頼らないこと。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	地理に関わる様々な事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解する。また、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や資料からさまざまな情報を適切に調べ、まとめる技能を身に付ける。	地理に関わる事象の意味や特色、相互関連について、位置や分布、人間と自然環境との相互関係、地域などに着目して、多面的・多角的に考察する。また、地理的な課題の解決に向けて構想する力や、考察したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる事象について、そこで見られる課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。また、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、社会に生きる公民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする自覚などを深める。
評価方法	定期テスト 小テスト	定期テスト レポート	定期テスト レポート アンケート

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	地図や地理情報システムでとらえる現代世界	私たちが暮らす世界	知	・世界地図や地球儀での表現方法ならびに日本の位置や領域についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	3
	思			・地球上の位置に関する事柄について、緯度・経度や世界地図・地球儀や領域の特徴をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。		
	主			・地球上の位置に関する事柄に対する関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、捉えようとしている。		
	5	地図や地理情報システムの役割	知	・地図についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	4	
			思	・さまざまな地図について、縮尺・媒体・用途などに着目し、適切に整理している。 ・さまざまな統計数値を、適切な主題図で表現している。 ・GIS を操作し計測結果や主題図を表示している。		
			主	・紙の地図や GIS に対する関心を高め、閲覧や作業を通して、それらの特徴を捉えようとしている。		
	6	資料から読み取る現代世界	知	・交通・通信技術の発展と国境を越えたさまざまな結び付きについて、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・交通・通信手段や貿易構造の変化、世界の国家群の特徴などについて、地図や図表の読み取りを通じて理解を深めている。 ・交通・通信の利用・整備の状況や国境をこえた人・モノ・情報の移動、世界の国家群などについて、地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	5	
			思	・交通・情報通信が国境をこえて結び付き、その結び付きがますます強固になっていることについて、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・貿易や観光などにみられる国境をこえたモノや人の動きについて、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・グローバル化の加速によって形成された地域経済圏や国家群について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。		
			主	・交通・通信の発達による社会の変化と、それとともに起こるようになった諸問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 ・グローバル化の進む現代世界において、政治的・経済的な国家間の結び付きが強まっていることに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。		

1 学期	6	国際理解と 国際協力	人々の生活文化と 多様な地理的環境	知	・世界にみられる多様な文化について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・さまざまな産業とそれらの分布について基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	14
	7			思	・文化の違いがなぜ生じるかということについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・世界各地で多様な地形や気候・植生がみられることについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・さまざまな産業の特徴や産業立地、それらの変化について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・地域の文化や人々の暮らし、産業の違いを、それぞれの地域の自然環境との関連に着目しながら多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	
	9			主	・文化の多様性と異なる文化の理解や共存に関して関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、捉えようとしている。 ・さまざまな自然環境に対応した人々の生活や産業の工夫について関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、捉えようとしている。 ・技術の発展やグローバル化などによってどのように産業が発展・変容してきたかについて、関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、捉えようとしている。	
	10			知	・さまざまな要因がからむ地球的な課題についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	
2 学期	11	さまざまな地球的課題と国際協力	さまざまな地球的課題と国際協力	思	・地球的な課題について、地域性や歴史的背景、日常生活との関連や国際社会の変化をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	10
	12			主	・各国の社会状況にあった具体的な解決が求められる地球的な課題に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、捉えようとしている。	
3 学期	1	持続可能な地域づくりと私たち	自然環境と防災	知	・変化に富んだ日本列島の自然環境、大きな被害をもたらす自然災害について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・多発している日本列島の自然災害とその克服について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	9
	2			思	・日本列島の地形や気候と自然災害について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・日本列島のさまざまな自然災害と防災対策について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	
				主	・日本列島の豊かな自然環境と近年増大している自然災害に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 ・深刻な日本列島の自然災害と防災に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	

	3		生活圏の調査と地域の展望	知	・地域調査の手順や注意すべきことを理解している。 ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめている。	4
				思	・身近な地域の特徴を、設定したテーマに沿って捉え、明らかになったことを適切に表現している。	
				主	・身近な地域の特徴を明らかにするために、意欲的に地域調査に取り組もうとしている。	

6 学習者へのメッセージなど

地理は、空間の視点から現代の社会を理解したり、社会の課題について考察したりする科目です。特に「地理総合」では、Google earth に代表されるような地理情報をコンピュータで処理して表現するGIS（地理情報システム）や、近年頻発している自然災害と防災など、私たちの日常生活に深くかわる内容を扱います。物事を空間的に把握することは、居住地選択や企業の立地展開など、将来皆さんが直面する様々な「場所を選ぶ」ことに役立つとともに、旅行などで景色を見る際にもより楽しめる教養を身につけることにつながります。地理を理解するためには、新聞やニュース等をよく見て、地理で学習した内容が現代社会にどのように関わっているのかを考えることが効果的です。また、歴史や倫理・政治経済などの他科目や、地学や保健、家庭科などの他教科の知識も地理の理解を深めてくれます。ぜひ全ての教科・科目をしっかりと学習し、それらを活用して地理の深い理解につなげてください。

年間授業計画

科目(講座名)		歴史総合	2単位	必修	学年	1年
教科書	東京書籍『詳解歴史総合』		教科担当			
副教材	帝国書院『明解 歴史総合図説 シンフォニア』					

1 教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、自ら課題を設定し、追究し解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目標とする。その際、現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開への理解、調査や諸資料を調べまとめる技能、課題の構想力、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重する態度を深めていく。

2 科目の目標

人間の歩みについて、近代・現代に焦点をあて、世界とそこにおける日本の歩みと関連づけながら、今日の日本と世界の国々の政治・経済・社会・文化あるいはそれらの相互作用を考察し、学びを深めていくことを目標とする。社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究し、解決する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会を歴史とともにとらえ、主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。

その際、近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそこの中の日本を広く相互的な視野から捉え、近現代の歴史を理解し諸史資料を調べまとめる技能、歴史を時期や推移に着目して事象同士を因果関係などで関連付けられる力を養い、国際社会の動きの中で日本を理解し、地域社会や身の回りの事象と関連させて課題を追究し解決する活動を深めていく。

3 授業内容と学習方法

近現代の世界の歴史と日本の歴史を、相互的な視野から考察できるよう授業を構成する。考察するための知識や史資料を読み取る技能を身に付け、人々の生活や社会の在り方の変化を、「近代化」・「国際秩序の変化」・「グローバル化と私たち」の3つの主題を中心に進める。史資料に基づいて歴史が叙述されていることから知識を得た上で、授業において「問い(課題)」を提示し、問いの答え(解決策)の追究を主体的に行う。答えは、自ら考え、自ら見つけることができるように、各自が問いに対し、主体的に関わっていく。そのために、史資料を活用し、生徒同士で議論し、文章や言語で表現し、考察の結果をまとめていく。発表は一人1台端末などICTを用いてグループ、ペア、個人形式にて行う。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	近現代の歴史の変化について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の歴史的背景を理解する。 諸資料から歴史に関する情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色を、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力や、考察、構想したことを効果的に説明し議論する力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養い、我が国の歴史に対する理解をすすめる、他国や他国の文化を尊重する姿勢を深める。
評価方法	・定期考査における知識問題 ・歴史資料の調べ学習と読み取り学習	・定期考査における資料読みとりなどの応用問題 ・史資料のまとめ学習 ・リアクションペーパーの提出 ・グループ協議やペアワークによる意見交換および発表	・発表活動 ・「問い(課題)」に対する(教科を越えた)多面的・多角的な考察、発表活動 ・提出レポート ・リアクションペーパーの提出

5 授業計画(あくまで予定です。発表を中心に行いますので発表次第で変更があります)

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時 数
1 学 期	4	<結びつく世界と日本の開国> ・世界経済の変化と日本の産業革命 <国民国家と明治維新> ・市民革命と近代社会	・近代について歴史的視点および教科横断的な視点に基づき、史資料を活用しながら理解を深める。 【テーマ】 ・産業革命の波及 ・交通・通信革命と新産業の発展 ・アジアの工業化と日本の産業革命 ・市民革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命とナポレオン体制 ・ヨーロッパ諸国とウィーン体制の成立	知 思 主	・題材について、資料の種類・特性や作成の時期・場所・主体・目的・脈絡等をふまえた批判的な読みとりと吟味が重要であることを理解している。 ・諸資料や地図、図版などから適切に情報を読みとり、その時代の様子や現代との異同を判断している。 ・資料を読みとる際の注意点を整理し、学習への見通しを立てようとしている。身近な題材に対して自ら「問い」を立て、歴史との関連を追究しようとしている。	5
	5	<国民国家と明治維新> ・自由主義とナショナリズム ・アジアの諸国家とその変容 ・明治維新と東アジアの国際関係 ※グループ発表	・近代について歴史的視点および教科横断的な視点に基づき、史資料を活用しながら理解を深める。 ・連休中にレポートをまとめる。 ・テーマに沿ってグループ毎に調査内容・考察結果の発表 【テーマ】 ・アジア諸国と対外関係 ・幕末日本の動揺 ・明治日本の諸改革 ・東アジアの国際関係	知 思 主	・テーマ別にグループに分かれ、討議を通して理解を深めている。 ・日本が関わった近現代の戦争について概観し理解している。 ・帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響に着目し、日本の歴史を位置づけている。 ・ICTを活用する技能を向上させている。 ・諸資料の読みとりを通して、日清戦争前後にみられる日本人のアジア観の変化について考察している。 ・中国・朝鮮・日本の変容の歴史的経緯について、欧米列強の動きと関連づけて考察する。 ・日清・日露戦争を通して日本国民の対外意識が変化したことについて理解している。 ・資料の読みとりを生徒相互に発表し、対話し、資料にもとづいた考察をしている。 ・選んだテーマについて、課題を見つけ、グループで協議を行い主体的に関わっている。	4
	6	<国民国家と明治維新> ・立憲制の広まり ・帝国主義と植民地 ・日清戦争と華夷秩序の解体 ・帝国主義諸国の競争と国際関係 ・植民地支配と植民地の近代 ・20世紀はじめの世界 ※グループ発表	・近代について歴史的視点および教科横断的な視点に基づき、史資料を活用しながら理解を深める。 ・テーマに沿ってグループ毎に調査内容・考察結果の発表 【テーマ】 ・立憲制の広まり ・アジアにおける立憲制と大日本帝国憲法 ・帝国主義とその諸原因 ・世界分割の進行と世界秩序の変容 ・日清戦争と華夷秩序の崩壊 ・日清戦争と東アジアのナショナリズム ・帝国主義諸国間の対立 ・義和団から日露戦争へ ・植民地支配の政治的・経済的支配 ・日本の植民地支配 ・国民統合と帝国主義批判	知 思 主	・日露戦争における日本の勝利が、アジア諸民族の独立や近代化の動きに刺激を与えたこと、およびその後の変容について理解している。 ・韓国の植民地化や辛亥革命による清の滅亡と中華民国の建国などの東アジアの変容について、帝国主義政策を結びつけて理解している。 ・教科書の本文、諸資料などから、第一次世界大戦が当初の予想よりも長期化した要因を理解している。 ・諸資料の読みとりを通して、帝国主義への反発とアジアの動向に関する考察を通して国際関係の構造を分析する。 ・韓国の植民地化や辛亥革命による清の滅亡と中華民国の建国などの東アジアの変容について、帝国主義政策を結びつけて思考している。 ・地図、史資料から日本の参戦と東アジアにおける勢力拡大の関係について思考しようとしている。 ・日本の参戦の背景と影響に着目して、主題を設定し、第一次世界大戦の性格と惨禍について考察し、表現している。 ・19世紀末から20世紀初頭の日本と国際秩序の変化について課題（問い）を設定し、戦争の長期化・大規模化の視点を持ち、その後の学習につなげようとしている。 ・対立・協調について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりや課題を見出そうとしている。	9

			・国際関係の再編とアジア諸国の動向			
	7	<第一次世界大戦と大衆社会> ・第一次世界大戦の展開 ・夏休み課題の説明 ※グループ発表	・近代について歴史的視点および教科横断的な視点に基づき、史資料を活用しながら理解を深める。 ・テーマに沿ってグループ毎に調査内容・考察結果の発表 ・期末考査 ・グループ毎に課題を設定して夏休みを通して研究する。 【テーマ】 ・大戦の背景と経緯 ・総力戦体制	知 思 主	・諸資料を通して第一次世界大戦がもたらした国際経済への影響、文化形成を視覚的に理解する。 ・第一次世界大戦期に資本主義社会における現在の特徴の多くが形成されたことを考察する。 ・1学期の授業から、夏休みに探究したいテーマを見つけ、積極的にグループ協議を行っている。 ・探究のための参考文献や資料探しに取り組もうとしている。	3
	8	課題のまとめ	・各自レポートをまとめ I C T を活用して、発表に備える。	知 思 主	・レポート作成を通して、「問い（課題）」に対する理解を深め、発表できるよう知識を体系化している。 ・プレゼンテーションソフトを用いて、グループの発表が円滑に進むよう表現方法について工夫をしている。 ・近代日本が関わった戦争について、世界史的視野を持ちながら、グループで協議し、他者に伝わる発表について追究しようとしている。	1
2 学期	9	<第一次世界大戦と大衆社会> ・第一次世界大戦の展開 ・大衆社会の時代 ・国際協調体制の形成 ・ソヴィエト連邦の成立と社会主義 ※ペア発表	・近代について歴史的視点および教科横断的な視点に基づき、史資料を活用しながら理解を深める。 ・テーマに沿ってペアで調査内容・考察結果の発表 【テーマ】 ・戦争への不満と終戦 ・近代化から大衆化へ ・大衆化と総力戦 ・ヴェルサイユ体制と国際連盟 ・ワシントン体制と軍縮 ・ロシア革命とソヴィエト連邦の成立 ・社会主義運動の拡大	知 思 主	・発表内容について各自の担当箇所だけでなく、他のグループメンバーの担当した分野についても、深い理解をしている。 ・総力戦の直接的な影響を受けなかった日米両国が経済成長する要因を理解している。 ・自らの発表と他グループの発表を通して、近代日本の歴史を多面的・多角的に考察し、そこに見られる課題を把握し効果的に説明し議論する力を養っている。 ・諸資料の読みとりを通して、日本の経済状況の変化について、時期を区分して考察し、表現している。 ・日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特色などを多面的に考え、自分の探究テーマとの関連について主体的に向き合っている。 ・高揚したアジアのナショナリズムについて、学習の見通しをもって取り組み、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。	8
	10	<第一次世界大戦と大衆社会> ・アメリカ合衆国の台頭と大衆消費社会 ・アジアの経済成長と移動する人々 ・反植民地主義の高揚と国際秩序の変容 ・民族主義の拡大と社会変革の動き ・マスメディアの発達と日常生活	・近代について歴史的視点および教科横断的な視点に基づき、史資料を活用しながら理解を深める。 ・テーマに沿ってペアで調査内容・考察結果の発表 【テーマ】 ・アメリカの繁栄の光と影 ・大衆文化の広がり ・アジアの経済発展 ・国境をこえて移動する人々 ・民族運動と植民地統治の変容 ・対立へと向かう日中関係	知 思 主	・アジアのナショナリズムを領域別にその特徴を理解している。 ・1920年代に続いた恐慌への、政府の対応策の特徴について理解している。 ・グラフや統計などの諸資料を読みとり、経済状況の画期や政策の転換点について考察し、表現している。 ・恐慌対策である積極財政と緊縮財政の相違点、および長所と短所について考察し、表現している。 ・第一次世界大戦が世界経済・外交に与えた影響を考察し多面的に探究しようとしている。	6

		※グループ発表	・世界における民主主義の進展 ・大正デモクラシー ・マスメディアの発達と大衆社会の成立 ・日常生活に対する関心の高まり			
11	＜経済危機と第二次世界大戦＞ ・世界恐慌 ・国際協調体制の崩壊 ・日中戦争と深刻化する世界の危機 ・第二次世界大戦の勃発 ※ペア発表	・近代について歴史的視点および教科横断的な視点に基づき、史資料を活用しながら理解を深める。 ・テーマに沿ってペアで調査内容・考察結果の発表 【テーマ】 ・発生の原因 ・各国の対応 ・アジア・アフリカの自立化の模索 ・大衆社会と大衆運動 ・ヨーロッパにおけるファシズムの伸長 ・満洲事変と日本における軍部の台頭 ・日中戦争 ・ファシズムの対外膨張 ・第二次世界大戦の勃発	知	・満洲事変と日中戦争がもつ共通点と相違点について、国際関係の変化を含めて理解している。 ・日本政府と軍部の関係性、諸外国の対応、中国国内の政治体制の各変化について関連づけて理解している。 ・戦争を抑止できず拡大に向かった要因について理解している。		
			思	日本外交と欧州情勢を結び付け、ヨーロッパで始まった第二次世界大戦にアメリカ合衆国と日本がどのように関与したのか考察し、表現している。 何が太平洋戦争勃発の要因となったのかについて考察し、表現している。		
			主	・ファシズムの伸長とヴェルサイユ体制の崩壊、共産主義勢力の対応について、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。	8	
12	＜経済危機と第二次世界大戦＞ ・冬休み課題	・近代について歴史的視点および教科横断的な視点に基づき、史資料を活用しながら理解を深める。 ・テーマに沿ってペアで調査内容・考察結果の発表 ・期末考査 ・冬休み課題について個人探究	知	・戦争を抑止できず拡大に向かった要因について理解している。		
			思	冬休みグループ学習に向けて、2学期の学習内容から判断した自らの課題について、探究をすすめていく方法を検討している。		
			主	冬休み学習をその後の学年末発表につなげて追究しようとしている。	8	
1	＜経済危機と第二次世界大戦＞ ・第二次世界大戦の勃発 ・第二次世界大戦における連合国と戦後構想 ・アジア太平洋戦争と日本の敗戦	・近代について歴史的視点および教科横断的な視点に基づき、史資料を活用しながら理解を深める。 ・テーマに沿って個人で調査内容・考察結果の発表 【テーマ】 ・結びつく日中戦争と第二次世界大戦 ・第二次世界大戦の終結 ・新たな国際秩序と人権の理念 ・アジア戦線の拡大と人々の生活 ・大日本帝国の崩壊	知	・地図を活用して、太平洋戦争の主戦場とその戦いの特徴を理解している。		
			思	・大戦末期の日本の状況とそれを取り巻く米・英・ソの認識、原爆の投下について考察し、表現している。		
			主	・地図や諸資料の読みとりを通して、満洲事変と日中戦争がどこで展開し、どのような被害があったかについて考察し、表現している。 ・第二次世界大戦中の戦後構想や原爆の投下が、その後の世界に何をもたらしたのかという視点を持ち、その後の学習につなげようとしている。	5	
	＜経済危機と第二次世界大戦＞	・近代について歴史的視点および教科横断的な視点に基づ	知	・諸資料を利用して、冷戦のはじまりに関する重要人物や政策の内容を理解している。		7

	2	・連合国の占領政策と日本の戦後改革 ・冷戦のはじまりと東アジアにおける展開 ・再編されるアジア	き、史資料を活用しながら理解を深める。 ・テーマに沿って個人で調査内容・考察結果の発表 【テーマ】 ・連合国の占領政策 ・日本の戦後改革 ・冷戦と東アジア ・日本の主権回復 ・ナショナリズムと冷戦 ・民族の独立	思	・核兵器数の推移や保有状況の資料を利用して、冷戦の展開を理解している。	
				主	・年間の学びから各自の課題に対する答えを見つけるため、資料を活用し、文献を参照し、学年末の発表の準備、表現方法について工夫している。 ・年間の学びと各グループの発表から、日本が関わった戦争とそこから得られる今日の課題について、主体的に取り組み、自らの人間性を高め、将来のわが国を担う力を育んでいる。	
	3	まとめ	・学年末考査 ・「問い（課題）」に基づいた年間総括を行う。	知	一連の近代化の日本を含めた世界各国の動向について年間の学びを振り返り、次年度以降の日本史探究、世界史探究につながる、そして生徒が国際社会でリーダーとなっていくうえで必要な知識を得ている。	5
				思	・資料を活用し、文献を参照し、自らの問いに基づいた発表を行う。発表を通して年間の学びを体現し、またクラスメイトの発表を通して多様な角度から考えを深めている。	
				主	・年間の学びと各グループの発表から、日本が関わった戦争とそこから得られる今日の課題について、主体的に取り組み、自らの人間性を高め、将来のわが国を担う力を育んでいる。	

6 学習者へのメッセージなど

ここ数百年の日本の歴史は、国際世界の動きのなかで理解することが最も大切です。歴史総合では、日本と世界のつながりを中心に、19 世紀末から 20 世紀にかけて、日本が関わったいくつかの戦争を学び、その中から課題を見つける科目です。その学びの過程は、今日に生きるわたしたちにとって、とても大切なものになるでしょう。あわせて、新聞をよく読み、報道やニュースに注目し、現代世界がどのように成り立っているのかを常に考えて毎日进行して下さい。

また、歴史的な事象および現代事象をとらえるためには地理的学び、公共的な学びはもちろんのこと、言語的な学び、理数的な学び等、教科を横断した学びが重要となります。教科横断型の授業を展開しますのでみなさんもそのつもりで授業に臨み、視野を広げて歴史学習に取り組んでください。

年間授業計画

科目(講座名)	公共	単位	必修	学年	1年
教科書	『詳述 公共』 実教出版	教科担当			
副教材	『最新図説 公共』 浜島書店				

1 教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 科目の目標

- (1) 現代社会の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

3 授業内容と学習方法

【学習内容】まず、「公共の扉」で、人間とは、自分自身とはについて、多面的・多角的に考察する。具体的には、青年期における様相、倫理主体としての個人について学ぶ。公共的な空間における原理として、幸福、正義、公正などに着目して、民主主義や法の支配、自由・権利と責任・義務などについて考えていく。そのうえで、法、政治、経済などの側面を関連させて、自立した主体としての解決が求められる課題を学んでいく。

【学習方法】授業では、原典や統計、写真、図などを用いて、その解釈を学ぶ。また、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を取り入れたり、自分の考えを表現する機会を設けたりする。具体的な課題の探究に関しては、ICTを活用して学習する。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	現代の諸課題を考察し、選択・判断する手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に収集し、調べてまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や合意形成・社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、公共的な空間に生き、国民主権を担う公民として平和を維持すること、国境を越えて市民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。
評価方法	定期考査 小テスト	定期考査 レポート ペアワーク発表 グループ討論	レポート 口頭発表 学習の振り返り

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	第1編 公共の扉	第1章 社会を作る私たち	知	青年期の意義と特徴、防衛機制について理解している。社会参加やボランティアの意義、他者とともに協働して生きることの重要性について理解している。日本人の伝統的な自然観や倫理観について理解している。	4
	思			望ましい自己のあり方や自己形成について、多面的に考察し、適切に表現している。国際社会に生きるため、日本人が身に付けるべきものは何かを多面的に考察し、適切に表現している。		
	主			自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間として、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。		
	5	第2章 人間としてよく生きる	知	古代ギリシア人の追求した理想的な人間、三大世界宗教の教えの特徴、ルネサンスや宗教改革によって生まれた新しい人間観、カントやヘーゲル、功利主義、社会主義、実存主義、現代の思想家たちの幸福、公共性、公正、正義などについての考え方を理解している。	9	
			思	倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。		
			主	思考実験などに積極的に取り組んだり、先哲の考え方への深い理解を通して、公共的な空間における人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとしている。		
	6	第3章 社会とは何か	知	公共的な空間における基本原理として、人間の尊厳と平等、個人の尊重、自由・権利と責任・義務などについて理解している。世代間倫理の考え方を理解している。	4	
			思	差別や偏見を是正するための取り組みについて、資料の読み取りなども行い、考察し、表現している。最後通牒ゲームを利用して、協働的に考察・構想し、適切に表現している。		
			主	思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動に積極的に取り組み、よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間における基本的な原理について意欲的に理解しようとしている。		
	7	第4章 民主国家における基本原理	知	社会契約説、権力分立、法の支配、基本的人権の保障の拡大など、民主政治の誕生と発展について理解する。民主政治の諸原理は、議院内閣制、大統領制にどう反映しているか理解している。	3	
			思	アメリカ独立宣言やフランス人権宣言などの資料から民主政治の基本原則について考察し、表現している。多数決の長所と短所について、協働的に考察・構想し、適切に表現している。		
			主	資料の読解やペアワークに積極的に取り組み、民主政治の基本原則について意欲的に理解しようとしている。		
2 学期	8	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち	第1章 日本国憲法の基本的性格	知	法や規範の意義、大日本憲法と日本国憲法の相違点、平和主義、基本的人権(自由権、平等権、社会権、新しい人権)の保障についてその背景や課題とともに理解している。	7
	思			沖縄の基地問題、死刑制度の是非、在日外国人の権利などについて、協働的に考察・構想し、適切に表現している。		
	主			憲法や、我が国の安全保障、基本的人権について、主体的に追及して、その課題を意欲的に解決しようとしている。		
	9	第2章 日本の政治機構と政治参加	知	国会、内閣、裁判所、地方自治の役割について理解している。我が国の選挙の特徴と課題、メディアやSNSが世論の形成にもたらす影響について理解している。	8	
			思	日本の政治機構や違憲審査の在り方や裁判員裁判の課題、都市と地方の格差、公正な選挙のあり方、国政への民意の反映について、協働的に考察し、適切に表現している。		
			主	よりよい社会の実現を視野に、司法参加や政治参加の意義や、公正な世論の形成など現代社会の課題を主体的に追究して、意欲的に解決しようとしている。		

3 学期	11 12		第3章 現代の経済社会	知	資本主義経済における市場のしくみ、現代の企業、GDP や国富、景気循環、物価、金融、財政について、役割や影響を理解している。	9
				思	大きな政府と小さな政府、需要と供給、市場の限界、CSR、GDP と豊かさ、金融政策と財政政策、キャッシュレス社会などについて、図やグラフを用いて考察したり、協働的に考察したりして、それらを適切に表現している。	
				主	市場メカニズムや豊かさの指標、中央銀行の役割、政府の役割などについて、主体的に追究して、課題を意欲的に解決しようとしている。	
			第4章 経済活動のあり方と国民福祉	知	消費者の権利と責任、雇用と労働、環境保全、日本の社会保障制度などについて理解している。	9
				思	環境保全と経済成長、消費者主権、ワークライフバランス、社会保障制度の在り方などについて、多面的・多角的に考察し、協働的に考察・判断をし、適切に表現している。	
				主	将来世代も安心して暮らせる社会について、主体的に追究して、よりよい社会の実現を視野に、課題を意欲的に解決しようとしている。	
1 2 3		第5章 国際政治の動向と課題 第6章 国際経済の動向と課題	知	主権国家と国際法、国連の活動について理解している。自由貿易のメリットと国際経済体制について理解している。	8	
			思	安全保障のジレンマや難民問題、比較生産費説について理解し、現実の国際社会の課題について、協働的に考察し、適切に表現している。		
			主	難民問題や保護主義的な動きなど近年のニュースに取り上げられている課題について関心を持ち、主体的に追究して意欲的に検討しようとしている。		
	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	第3編 発表を行う	知	第一編で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本原理などを活用することができている。第1編、第2編で習得した知識や技能を活用することができている。	3	
			思	現代社会の諸課題の解決に向けて、必要な情報を収集し、読み取っている。また、事実を基に協働して考察・構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを適切に説明している。		
			主	よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする学びに積極的に取り組もうとしている。		

6 学習者へのメッセージなど

今、社会は大きく変化しています。今後も情報化やグローバル化のスピードは速く、様々な変化がもたらされることでしょう。そんな中で、自ら情報を収集・分析し、課題を見つけ考察できることは、よりよく生きるために一生必要なことです。まずは、社会に興味を持って、ニュースに触れ、多角的に考える習慣をつけるようにしてください。そして、他者と協働する活動を楽しみながら、授業に参加してください。大学入学共通テストなど受験に利用する人は、3年次に必修で「政治・経済」を学ぶほか、選択科目として、「倫理」または「公共、政治・経済プラス」を選ぶと漏れがありません。

年間授業計画

科目(講座名)		数学 I	3単位	必修	学年	1年
教科書	数研出版 数学 I	教科担当				
副教材	数研出版 チャート式基礎からの数学 I + A					
	数研出版 サクシード数学 I + A					
	数研出版 データの分析ノート(短期完成)					

1 教科の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的に論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 科目の目標

数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
--

3 授業内容と学習方法

数と式、図形と計量、二次関数およびデータの分析について、中学校で学んだ初歩的な知識を土台として、さらに深く学ぶ。授業では予習と復習を前提とし、「例」と「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。また、サクシードやチャートおよび大学入試の問題も扱い、教科書で学んだことの習熟を図り、応用力をつける。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
学習到達目標並びに評価の観点	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価方法	・定期考査, 課題テスト	・定期考査, 課題テスト	・ノートやレポートなどの提出物 ・出席状況, 学習態度, 授業時間中における問題の取り組み方

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学 期	4	第1章 『数と式』	第1節「式の計算」 1. 多項式 2. 多項式の加法と減法および乗法 3. 因数分解	知 思 主	○多項式に関する用語を理解し、加法・減法・乗法について理解している。 ○公式を利用して展開や因数分解することができる。 ○式の形の特徴に着目して変形し、展開の公式が適用できるようにすることができる。また、因数分解を行うのに、文字のおき換えを利用することができる。 ○式の展開は分配法則を用いると必ずできることを理解している。 ○式を1つの文字におき換えることによって、式の計算を簡略化することができる。 ○複雑な式についても、項を組み合わせる、降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで、因数分解をすることができる。 ○式の形の特徴に着目して変形し、因数分解の公式が適用できるようにすることができる。 ○単項式、多項式とその整理の仕方に関心をもち、考察しようとする。 ○多項式の加法・減法・乗法には、数の場合と同様に交換・結合・分配法則が使えることに関心をもち、考察しようとする。 ○式の変形、整理などの工夫において、よりよい方法を考察しようとする。 ○展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。	7
			第2節「実数」 4. 実数 5. 根号を含む式の計算	知 思 主	○分数を循環小数で、循環小数を分数で表すことができる。 ○有理数、無理数、実数の定義を理解し、各範囲での四則計算の可能性について理解している。 ○絶対値の意味と記号表示を理解している。 ○根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる。また、分母の有理化ができる。 ○実数を数直線上の点の座標として捉えられる。また、実数の大小関係と数直線を関係づけて考察することができる。 ○数直線上の2点間の距離を絶対値を用いて考えることができる。また、2つの実数の差の絶対値を数直線上の距離とみることができる。 ○根号を含む式の計算について、一般化して考察することができる。 ○対称式の値を求めるのに、分母の有理化や、式の変形を活用して考察することができる。 ○今まで学習してきた数の体系について整理し、考察しようとする。 ○根号を含む式の計算公式を証明しようとする。 ○対称式、基本対称式の性質について考察しようとする。	5
			第3節「1次不等式」 6. 1次不等式 7. 1次不等式の利用	知 思 主	○不等式の意味や性質を理解し、1次不等式を解くことができる。 ○連立不等式の意味を理解し、連立1次不等式を解くことができる。 ○絶対値の意味から絶対値を含む方程式や不等式を解くことができる。 ○不等式の性質を、数直線上の点と対応させて考察することができる。 ○$A < B < C$ を $A < B$ かつ $B < C$ として捉えることができ、不等式を解くことができる。 ○身近な問題について、必要な条件を判断して1次不等式の問題に帰着させ、問題を解決することができる。 ○不等式における性質について、等式の性質と比較して、考察しようとする。 ○不等式における解の意味について、方程式の解と比較して考察しようとする。 ○絶対値記号を含むやや複雑な方程式や不等式を解くことに取り組む意欲がある。	7
	5	第2章 『集合と命題』	2. 命題と条件 3. 命題と証明	知 思 主	○命題の真偽、反例の意味を理解し、集合の包含関係や反例を調べることで、命題の真偽を決定することができる。 ○必要条件、十分条件、必要十分条件、同値の定義を理解している。 ○条件の否定、ド・モルガンの法則を理解しており、複雑な条件の否定が求められる。 ○命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解しており、それらの真偽を調べることができる。 ○対偶による証明法や背理法のしくみを理解している。 ○命題の真偽を、集合の包含関係に結び付けて捉えることによって考察することができる。 ○命題が偽であることを示すには、反例を1つあげればよいことが理解できている。 ○命題の条件や結論に着目し、命題に応じて対偶の利用や背理法の利用を適切に判断することで、命題を証明することができる。 ○条件を満たすものの集合の包含関係が、命題の真偽に関連していることに着目し、命題について調べようとする態度がある。 ○命題の逆・裏・対偶の関係が条件を満たす集合の関係に対応していることに着目し、これらについて考察しようとする。 ○直接証明法では難しい命題も、対偶を用いた証明法や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味・関心をもち、実際に証明しようとする。	8

2 学 期	6	第 3 章 『二次関数』	第 1 節「2 次関数と グラフ」 1. 関数とグラフ 2. 2 次関数のグラフ 3. 2 次関数の最大と 最小 4. 2 次関数の決定	知	○平方完成を利用して、2 次関数のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。 ○放物線の平行移動や対称移動の一般公式を活用して、移動後の放物線の方程式を求めることができる。 ○2 次関数の定義域に制限がある場合に、最大値、最小値を求めることができる。 ○2 次関数の決定において、与えられた条件を関数の式に表現し、2 次関数を決定することができる。 ○連立 3 元 1 次方程式の解き方を理解している。	15
				思	○2 次関数の特徴について、表、式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。 ○定義域が変化するときや、グラフが動くときの最大値や最小値について、考察することができる。 ○具体的な事象の最大・最小の問題を、2 次関数を用いて表現し、処理することができる。 ○2 次関数の決定において、条件を処理するのに適した式の形を判断することができる。	
	7		第 2 節「2 次方程式と 2 次不等式」 5. 2 次方程式 6. グラフと 2 次方程式 7. グラフと 2 次不等式	主	○放物線の平行移動や対称移動の一般公式を考察しようとする。 ○日常生活における具体的な事象の考察に、2 次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。 ○2 次関数の決定条件に興味、関心をもち、考察しようとする。	14
				知	○2 次方程式の解き方として、因数分解、解の公式を理解している。 ○2 次方程式において、判別式の符号と実数解の個数の関係を理解している。 ○2 次関数のグラフと x 軸の共有点の座標や個数を求めることができる。 ○2 次不等式を解くことができる。 ○2 次の連立不等式を解くことができる。 ○2 次不等式を利用する応用問題を解くことができる。	
2 学 期	9	第 5 章 『データの分析』	1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと 四分位範囲 4. 分散と標準偏差 5. 2 つの変量の間の 関係 6. 仮説検定の考え方	思	○2 次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。 ○2 次関数のグラフと x 軸の共有点の個数や位置関係を、判別式の符号から考察することができる。 ○2 次関数の値の符号と 2 次不等式の解を相互に関連させて考察することができる。 ○2 次式が一定の符号をとるための条件を、グラフと関連させて考察することができる。	9
				主	○2 次方程式がどんな場合でも解けるように、解の公式を得て、それを積極的に利用しようとする。 ○2 次関数のグラフと x 軸の位置関係を調べ、その意味を探ろうとする。 ○1 次関数と 1 次不等式の関係から、2 次不等式の場合を考えようとする。 ○身近な問題を 2 次不等式で解決しようとする。	
				知	○度数分布表、ヒストグラムについて理解している。 ○平均値や中央値、最頻値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 ○範囲や四分位範囲の定義やその意味を理解し、それらを求めることができる。 また、データの散らばりを比較することができる。 ○箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。 ○分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。 ○相関係数の定義とその意味を理解し、定義にしたがって求めることができる。 ○仮説検定の考え方を理解し、具体的な事象に当てはめて考えることができる。	
				思	○データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察することができる。 ○データの中に他の値から極端にかけ離れた外れ値が含まれる場合について、外れ値の背景を探ることの利点を考察することができる。 ○外れ値を見出す意義を理解し、外れ値の統計量への影響について考察することができる。 ○変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察することができ、それらの性質を活用して平均値や分散を見通しよく計算することができる。 ○データの相関について、散布図や相関係数を利用してデータの相関を的確に捉えて説明することができる。 ○複数のデータを、散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析し、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。 ○不確実な事象の起こりやすさに着目し、実験などを通して、問題の結論について判断したり、その妥当性について批判的に考察したりすることができる。	
2 学 期				主	○データを整理して全体の傾向を考察しようとする。 ○データの代表値から、その特性や傾向などを考察しようとする。 ○データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。 ○変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するか、考察しようとする。 ○相関関係の大きさを数値化する方法を考察しようとする。	

				主	○相関関係と因果関係の違いについて考察しようとする。 ○身近な事柄において、仮説検定の考え方を活用して判断しようとする態度がある。	
	10	第4章 『図形の計量』	第1節「三角比」 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張	知	○直角三角形において、正弦、余弦、正接が求められる。 ○直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解し、測量などの応用問題に利用できる。 ○座標を用いた三角比の定義を理解し、一般角の三角比を求めることができる。 ○一般角まで拡張されても、三角比の値から θ を求めることができる。また、相互関係を活用して1つの三角比の値から残りの値を求めることができる。 ○三角比の性質の公式が利用できる。	9
	11			思	○具体的な事象を三角比の問題として捉えることができる。 ○三平方の定理をもとに三角比の相互関係を考察することができる。 ○既知である鋭角の三角比を、一般角に拡張して考察することができる。 ○直線とx軸とのなす角を、三角比を用いて考察することができる。	
	12			主	○日常の事象や社会の事象などに三角比を活用しようとする。 ○三角比の相互関係を調べようとする。 ○これまでに学習している数や図形の性質に関する拡張と対比し、三角比を鋭角から一般角まで拡張して考察しようとする。	
			第2節「三角形への応用」 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用	知	○正弦定理や余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ○三角比を用いた三角形の面積を求める公式を理解している。 ○3辺が与えられた三角形の面積を求めることができる。 ○3辺が与えられた三角形の内接円の半径を求めることができる。 ○三角比を利用して、正四面体などの体積を求めることができる。 ○三角比を測量に応用できる。	12
				思	○三角形の辺と角、外接円の半径の間に成り立つ関係式として、正弦定理を導くことができる。 ○三角形の辺と角の間に成り立つ関係式として、余弦定理を導くことができる。 ○三角形の辺の長さや角の大きさと余弦定理との関係を考察することができる。 ○余弦定理を三角形の形状決定と関連させて考察することができる。 ○三角形の面積を2つの三角形の面積の和として表現し、線分を求める問題に活用することができる。 ○円に内接する四角形の面積を求める方法を考察することができる。 ○空間図形への応用において、適当な三角形に着目して考察することができる。	
				主	○三角形の外接円、円周角と中心角の関係などから、正弦定理を導こうとする。 ○三平方の定理をもとに余弦定理を導こうとする。 ○正弦定理や余弦定理が図形の計量に活用できることに着目し、これらを用いて三角形について解こうとする。 ○三角形の内接円と面積の関係を導こうとする。 ○日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。	
3 学期	1			知		
	2			思		
				主		
				知		
				思		
				主		
	3			知		
				思		
				主		

6 学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることです。教科書は最小限の内容と心得て、参考書やプリントなどの教科書+αの内容の問題演習を必ず行ってください。また、数学は積み重ねの教科です。中学校で学習した内容や日々の授業で学んだ内容に漏れがあると授業についていけなくなりますので、授業の予習と復習を怠らない学習姿勢で臨んでください。

年間授業計画

科目(講座名)	数学Ⅱ	1単位	必修	学年	1年
教科書 副教材	数研出版 数学Ⅱ 数研出版 チャート式基礎からの数学Ⅱ+B+C 数研出版 サクシード数学Ⅱ+B+C	教科担当			

1 教科の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的に論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 科目の目標

いろいろな式、図形と方程式について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

3 授業内容と学習方法

いろいろな式、図形と方程式について、「数学Ⅰ」で学んだ内容を発展、拡充させることで、さらに深く学ぶ。

授業では予習と復習を前提とし、「例」と「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。また、サクシードやチャートおよび大学入試の問題も扱い、教科書で学んだことの習熟を図り、応用力をつける。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
学習到達 目標並び に評価の 観点	いろいろな式、図形と方程式についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価方法	・定期考査, 課題テスト	・定期考査, 課題テスト	・ノートやレポートなどの提出物 ・出席状況, 学習態度, 授業時間中における問題の取り組み方

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4			知		
	5			思		
				主		
	6			知		
				思		
				主		
	7			知		
2 学期	9			知		
	10			思		
				主		
	11			知		
				思		
				主		
	12			知		
3 学期	1	第 1 章 『式と証明』	第 1 節「式と計算」 1. 3 次式の展開と 因数分解 2. 二項定理 3. 多項式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式	知	○公式を利用して 3 次式の展開や因数分解をすることができる。 ○式の形に着目して変形し、3 次式の因数分解の公式を適用できる形にすることができる。 ○二項定理の導き方を理解し、二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ○二項定理を 3 項の場合に適用することで、展開式の係数を求めることができる。 ○多項式の割り算の計算方法を理解している。 ○割り算の等式を理解し、利用することができる。 ○2 種類以上の文字を含む多項式の割り算を行うことができる。 ○分数式を分数と同じように約分、通分して扱うことができる。 ○分数式の約分、四則計算ができる。 ○繁分数式を簡単にすることができる。 ○恒等式の性質を理解し、恒等式となるように係数を決定することができる。 ○分数式の恒等式について、分母を払った等式が恒等式であることを利用できる。 ○2 つ以上の文字に関する恒等式の係数を決定することができる。	8
	思			○二項定理とパスカルの三角形を結び付けて考察することができる。 ○二項定理を等式の証明に活用することができる。 ○多項式の割り算の結果を等式で表して考察することができる。 ○2 種類以上の文字を含む多項式の割り算を、1 つの文字に着目することで、1 文字の場合と同様に考えることができる。 ○分数式の計算の結果を、既約分数式または多項式として表現することができる。 ○1 文字の恒等式の知識をもとに、2 つ以上の文字に関する恒等式について考察することができる。		
	主			○パスカルの三角形の対称性やそこに現れる数の並び、およびそれらと二項係数の関係に興味をもって調べようとする。 ○2 種類の文字を含む多項式の割り算に興味を示し、具体的な問題に取り組もうとする。 ○繁分数式を分数式の性質を用いて処理することに意欲を示す。 ○恒等式の係数を決定する際に、係数比較法と数値代入法とを、比較して考察しようとする。		
			第 2 節「等式と不等式の証明」 6. 等式の証明 7. 不等式の証明	知	○ $A=B$ と $A-B=0$ が同値であることを利用して、等式を証明することができる。 ○比例式を $=k$ とおいて処理することができる。 ○連比と等式から未知数を求めることができる。 ○実数の大小関係や平方の性質を利用して、不等式を証明することができる。 ○正の数の場合、平方の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。 ○絶対値の性質を利用して、絶対値記号を含む不等式を証明することができる。 ○相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。	8

2	第 2 章 『複素数と方程式』		思	○与えられた条件式の利用方法を考察することができ、適した方法を用いることによって等式を証明することができる。 ○不等式の証明で、等号が成り立つ場合について考察できる。 ○不等式の証明に実数の平方の性質を利用できるように、式変形を考察することができる。	
			主	○等式の証明や不等式の証明を通して、数学の論証に興味・関心をもつ。 ○相加平均・相乗平均の大小関係の有用性に、興味・関心をもつ。	
		1. 複素数 2. 2 次方程式の解と判別式 3. 解と係数の関係 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式	知	○複素数の表記を理解し、複素数、複素数の相等の定義を理解している。 ○複素数の四則計算ができる。 ○負の数の平方根を理解し、それらを含む式の計算を、 i を用いて処理することができる。 ○解と係数の関係を使って、対称式の値や 2 次方程式の係数を求めることができる。 ○対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。 ○和と積が与えられた 2 数を、2 次方程式を解くことにより求めることができる。 剰余の定理を利用して、多項式を 1 次式で割ったときの余りを求めることができる。 ○剰余の定理を利用して、多項式を 1 次式や 2 次式で割ったときの余りを求めることができる。 ○ $P(k)=0$ である k の値の求め方を理解し、高次式を因数分解できる。 ○因数分解や因数定理を利用することにより、高次方程式を解くことができる。 ○高次方程式の既知の解から、方程式の係数を決定することができる。 ○高次方程式の虚数解から、方程式の係数を決定することができる。	13
		第 1 節「点と直線」 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2 直線の関係	思	○有理数から実数へ数の範囲を拡張する必要性を理解し、複素数を考察することができる。 ○複素数の範囲で、負の数の平方根を考察することができる。 ○やや複雑な 2 数を解とする 2 次方程式がどのようなものであるか、解と係数の関係を利用して考察することができる。 ○異なる 2 つの実数 α 、 β が正の数、負の数、異符号であることを、同値な式で表現できる。 ○2 次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して考察することができる。 ○多項式 $P(x)$ が $x-k$ で割り切れることを式で表現することができる。 ○高次方程式を、1 次・2 次方程式に帰着して考察することができる。 ○高次方程式が解 α をもつことを、式で表現することができる。 ○「方程式が虚数 α を解にもてば $\bar{\alpha}$ も解である」ことの証明に、共役な複素数の性質がどのように使われるかを考察することができる。	
	第 3 章 『図形と方程式』		主	○方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し、考察しようとする。 ○2 次方程式の解に関する種々の問題を、解と係数の関係を利用して考察しようとする。 ○2 次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。 ○多項式を 1 次式で割る計算に、組立除法を積極的に利用する。 ○1 の 3 乗根の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。 ○方程式が虚数 α を解にもてば $\bar{\alpha}$ も解であることに興味・関心をもつ。 ○3 次方程式の解と係数に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。	
			知	○座標平面上において、2 点間の距離が求められる。 ○距離の公式を利用して、図形の性質を証明できる。 ○座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ○三角形の重心の座標の公式を理解している。 ○直線が x 、 y の 1 次方程式で表されることを理解している。 ○ x 軸に垂直な直線は $y=mx+n$ の形で表せないことを理解している。 ○与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 ○2 直線の平行・垂直条件を理解して、それを利用できる。 ○連立方程式の実数解の個数と、2 直線の共有点の個数の関係を理解している。 ○ $kF(x,y)+G(x,y)=0$ の形を利用して、直線の方程式を求めることができる。 ○点と直線の距離の公式を理解して、それを利用できる。	9
			思	○図形の性質を証明する際に、座標軸を適切に設定することで、計算が簡単になるように工夫をすることができる。 ○点の座標を求めるのに利用できる適切な図形の性質を判断でき、図形的条件(点対称、線対称など)を式で表現することができる。 ○連立方程式の解の状況を、2 直線の位置関係から考察することができる。 ○2 直線の交点を通る直線を、方程式を用いて考察することができる。 ○直線に関して対称な点の座標について、2 直線の関係を用いて考察することができる。 ○直線の方程式を利用して、図形の性質を証明することができる。	

3				主	○数直線上の点に関する公式を利用して、平面上の問題を考察しようとする。 ○図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。 ○2 直線の平行・垂直の関係を、直線の傾きに着目して考察しようとする。 ○2 直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。 ○三角形の垂心について、直線の方程式を利用して代数的に考察しようとする。	
			第 2 節「円」 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2 つの円	知	○与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 ○円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ○円と直線の位置関係を、適切な方法で判定できる。 ○円の接線の公式を理解していて、それを利用できる。 ○円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。 ○2 つの円の位置関係を調べることができる。 ○2 円の中心間の距離と半径の関係を利用して、ある円と外接・内接する円の方程式を求めることができる。 ○$kF(x,y)+G(x,y)=0$ の形を利用して、円の方程式を求めることができる。	8
				思	○円の方程式が x, y の 2 次方程式で表されることを理解し、x, y の 2 次方程式が、常に円を表すとは限らないことを考察しようとする。 ○3 点を通る円と、この 3 点を頂点とする三角形との関係を考察することができる。 ○円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで、円と直線の位置関係を考察することができる。 ○直線が円によって切り取られてできる線分の長さを、円の中心と直線の距離を用いて考察することができる。 ○2 つの円の位置関係を、2 円の中心間の距離と半径の関係で考察することができる。 ○2 つの円の交点の座標や、交点を通る円について、2 つの円の方程式を適切に変形して考察することができる。	
				主	○与えられた方程式が表す図形に興味・関心をもち、 ○円と直線の位置関係を、2 次方程式の判別式や、円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係により調べようとする。 ○2 つの円の交点と、その交点を通る円の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。	
			第 3 節「軌跡と領域」 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域	知	○直線や円などを、条件を満たす点全体の集合として考えることができる。 ○軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 ○媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。 ○不等式や連立不等式の表す領域を図示することができる。 ○図で与えられた領域を不等式で表すことができる。 ○領域を利用する 1 次式の最大値・最小値の求め方を理解している。 ○領域を利用して、命題を証明することができる。	7
				思	○平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。 ○軌跡を求めるには、逆についても調べる必要があることを理解している。 ○点が満たす条件から得られた方程式を、図形として考察することができる。 ○変数 x, y についての不等式を満たす点 (x, y) 全体の集合がどのような図形であるかを考察することができる。 ○条件の真理集合を考えることにより、命題の真偽を真理集合の包含関係として考察することができる。	
				主	○点が満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとする。 ○線形計画法では、条件として与えられた不等式の表す領域を図示することにより、鮮やかに最大値・最小値を求めることができることに興味・関心をもち、 ○不等式を含む命題を、不等式の表す領域を用いて証明することに興味・関心をもち、 ○放物線を境界線とする領域に関心をもち、考察しようとする。	

6 学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることです。教科書は最小限の内容と心得て、参考書やプリントなどの教科書＋αの内容の問題演習を必ず行ってください。また、数学は積み重ねの教科です。数学Ⅰや数学Aで学習した内容や日々の授業で学んだ内容に漏れがあると授業についていけなくなりますので、授業の予習と復習を怠らない学習姿勢で臨んでください。

年間授業計画

科目(講座名)		数学A	2単位	必修	学年	1年
教科書	数研出版 数学 I	教科担当				
副教材	数研出版 チャート式基礎からの数学 I + A					
	数研出版 サクシード数学 I + A					
	数研出版 図形の性質ノート(求値問題・短期完成)					

1 教科の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的に論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 科目の目標

場合の数と確率、図形の性質、整数の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

3 授業内容と学習方法

場合の数と確率、図形の性質、整数の性質について、中学校で学んだ初歩的な知識を土台として、さらに深く学ぶ。

授業では予習と復習を前提とし、「例」と「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。また、サクシードやチャートおよび大学入試の問題も扱い、教科書で学んだことの習熟を図り、応用力をつける。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
学習到達目標並びに評価の観点	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価方法	・定期考査、課題テスト	・定期考査、課題テスト	・ノートやレポートなどの提出物 ・出席状況、学習態度、授業時間中における問題の取り組み方

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	第1章 『場合の数と確率』	第1節「場合の数」 1. 集合の要素と個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 円順列・重複順列 5. 組合せ	知	○具体的な日常の事象に対して、集合を考えることで、人数などを求めることができる。 ○事象に応じて、和の法則、積の法則を使い分けて場合の数を求めることができる。 ○順列の用語、記号、公式を理解し、利用できる。また、順列の総数や階乗を記号で表し、それを活用できる。 ○順列に条件が付く場合に、条件の処理の仕方を理解している。 ○順列の問題で、重複して数えないための処理ができる。 ○円順列、重複順列の並べ方の総数を求めることができる。 ○ものを並べる場合以外でも、重複順列の考え方を利用して処理することができる。 ○組合せの用語、記号、公式を理解し、それを利用できる。また、具体的な問題に対して、組合せの考えを用いて式に表すことができる。 ○組合せに条件が付く場合に、条件の処理の仕方を理解している。 ○組分けの総数を求めることができる。 ○同じものを含む順列の総数を求めることができる。	7
	思			○ベン図を利用して集合を図示することで、集合の要素の個数を考察することができる。 ○場合の数を数える適切な方針を考察することができる。 ○特殊な条件が付く順列を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ○具体的な問題に対して、どのような場合に、円順列、重複順列の考え方が適用できるかを判断し、それらの公式を使って問題を解決することができる。 ○既知の順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。 ○特殊な条件が付く組合せを、味方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ○同じものを含む順列を、組合せで考察することができる。		
	主			○集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。 ○1つの原則を決めて、樹形図などを利用して、もれなく重複することなく数えようとする。 ○樹形図を利用して、積の法則から順列の総数を求める式を導こうとする。 ○順列、円順列、重複順列の違いに興味・関心をもつ。 ○順列と組合せの違いに興味・関心をもつ。 ○組合せの考え方を利用して図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。 ○重複組合せについて理解し、その総数を、順列や組合せの考えを適切に用いて求めようとする。		
	5					
	6		第2節「確率」 6. 事象と確率 7. 確率の基本性質 8. 独立な思考の確率 9. 反復試行の確率	知	○試行の結果の事象を集合として表すことができる。 ○確率の意味、試行や事象の定義を理解している。 ○確率の定義を理解し、確率の求め方がわかる。 ○積事象、和事象の定義を理解し、定義に基づいてそれらの確率を求めることができる。 ○確率の計算に集合を活用し、複雑な事象の確率を求めることができる。 ○試行が独立か、独立でないかを判断できる。 ○独立な試行の定義を理解し、その確率の求め方がわかる。 ○複雑な独立試行の確率を、公式や加法定理などを用いて求めることができる。 ○反復試行の意味を理解し、その確率の求め方がわかる。	5
				思	○試行の結果を事象として捉え、事象を集合と結びつけて考察することができる。 ○不確定な事象を、同様に確からしいという概念をもとに、数量的に捉えることができる。 ○集合の性質を用いて、確率の性質を一般的に考察することができる。 ○複数回の独立な試行を行うとき、その結果として起こる事象の確率について考察することができる。 ○既習の確率の知識を利用して、反復試行の確率について考察することができる。	
				主	○くじを引くことを何回も繰り返す実験などを通して、統計的確率と数学的確率の違いに興味・関心をもつ。 ○加法定理などを利用して、複雑な事象の確率を意欲的に求めようとする。 ○身近な事柄において、確率の考え方を活用して考察しようとする。 ○独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。 ○具体的事象について、反復試行の確率を、興味をもって調べようとする。	
	7					

2 学 期	8	第1章 『場合の数と確率』	第2節「確率」 10. 条件付き確率 11. 期待値	知	○条件付き確率を、記号を用いて表すことができる。 ○条件付き確率の式から確率の乗法定理の等式を導くことができる。 ○乗法定理を用いて2つの事象がともに起こる確率が求められる。 ○条件付き確率や確率の乗法定理を用いて確率の計算ができる。 ○期待値の定義を理解し、確率の性質などに基づいて期待値を求めることができる。	7
				思	○原因の確率について、条件付き確率を利用して求める方法を考察することができる。 ○結果が不確実な状況下において、どの選択が有理かを判断する基準として、期待値の考えを用いて考察することができる。	
				主	○条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち、積極的に活用しようとする。 ○条件付き確率を利用して原因の確率が考えられることに興味をもち、考察しようとする。 ○身近な事柄において、条件付き確率の考え方を活用して考察しようとする。 ○日常の事象における不確実な事柄について判断する際に、期待値を用いて比較し、考察しようとする。	
2 学 期	9	第2章 『図形の性質』	第1節「平面図形」 1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心、内心、重心 3. チェバの定理、メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 方べきの定理 7. 2つの円の位置関係	知	○線分の内分・外分、平行線と比などの基本事項を理解している。 ○三角形の角の二等分線に関する性質を理解し、利用できる。 ○三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解している。 ○三角形の外心、内心、重心に関する性質や相互関係を証明することができる。 ○チェバの定理、メネラウスの定理を理解している。 ○チェバの定理、メネラウスの定理を、三角形に現れる線分比や図形の面積比を求める問題に活用できる。 ○三角形の存在条件や、辺と角の大小関係について理解している。 ○円周角の定理と円周角の定理の逆を理解している。 ○円に内接する四角形の性質を利用して、角度を求めたり、円と四角形の性質を証明したりできる。 ○四角形が円に内接するための条件を利用して、図形の性質を証明できる。 ○円の接線の性質を利用して、線分の長さを求めたり、図形の性質を証明したりできる。 ○接線と弦の作る角の性質を利用して、角度を求めることができる。 ○方べきの定理を利用して、線分の長さを求めたり、図形の性質を証明したりできる。 ○方べきの定理の逆を理解し、それを用いて図形の性質を証明することができる。 ○2つの円の共通接線の長さを求めることができる。 ○2つの円が内接しているとき成り立つ性質を利用して角度を求めることができる。	8
				思	○図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。 ○図形の性質を証明するのに、適切な補助線を引いて考察することができる。 ○図形の性質を証明するのに、間接的な証明法である同一法を適用することができる。 ○チェバの定理、メネラウスの定理について、論理的に考察し、証明することができる。 ○円に内接する四角形の性質について、論理的に考察することができる。 ○円に内接する四角形の性質に着目し、逆に、四角形が円に内接するための条件について論理的に考察することができる。 ○接線と弦の作る角についての定理を証明する際に場合分けをしながら考察することができる。 ○方べきの定理について、対象とする図形に応じて見方を変えて考えることができる。 ○2つの円の位置関係を、動的な面から観察することができる。	
				主	○線分を分ける点や、三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。 ○三角形の五心に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。 ○三角形には垂心のような特徴的な点が存在することに興味を示し、それについて考察しようとする。 ○チェバの定理、メネラウスの定理に興味を示し、逆が成り立つことも含め積極的に考察しようとする。 ○三角形の辺と角の大小関係という明らかに見える性質を、論理的に考察しようとする。 ○三角形の外接円は必ず存在するが、三角形以外の場合は必ずしも存在しないことから、四角形が円に内接する条件を考察しようとする。 ○接線と弦の作る角についての定理を証明する際に、鋭角の場合と鈍角の場合に分けて考察しようとする。 ○相似を利用した方べきの定理の導き方に興味・関心をもつ。 ○2つの円の位置関係の判定条件として、中心間の距離と半径の関係について、積極的に考察しようとする。	
2		第2章	第2節「空間図形」	知	○空間における2直線の位置関係やなす角を理解している。 ○正多面体の特徴を理解し、それに基づいて面、頂点、辺の数を求めることができる。	6

	11	『図形の性質』 第3章 『数学と人間の活動』	9. 直線と平面 10. 多面体	思	できる。 ○正多面体どうしの関係を利用して、正多面体の体積を求めることができる。 ○空間における直線と平面が垂直になるための条件を、正四面体に当てはめて考察することができる。 ○空間における直線や平面が平行または垂直となるかどうかを、与えられた条件から考察することができる。 ○多面体から切り取ってできた立体について、特徴などを調べてどのような立体であるかを推定し、実際にその立体であることを証明することができる。	8
			1. 約数と倍数 2. 素数と素因数分解 3. 最大公約数、最小公倍数 4. 整数の割り算	主	○空間における図形の位置関係について考えてみようとする。 ○オイラーの多面体定理がどんな凸多角体でも成り立つかどうか調べてみようとする。 ○オイラーの多面体定理を利用すると、正多面体の面の形から面の数が限定されることに興味をもつ。	
	12			知	○いろいろな数の倍数の判定法を理解しており、それらを用いて与えられた数について調べることができる。 ○自然数の素因数分解を求めることができる。 ○暗号技術に素因数分解の考えが活用されていることを理解している。 ○自然数の正の約数やその個数を求めるのに、素因数分解が利用できることを理解している。 ○素因数分解を利用して最大公約数・最小公倍数を求める方法を理解している。 ○互いに素の意味を理解している。 ○整数 a を正の整数 b で割る割り算を、a と b の間に成り立つ等式として捉えることができる。 ○2 つの整数 a, b を除数と余りを用いて表し、$a+b$ などの余りを求めることができる。	
				思	○4 の倍数の判定法から類推して、8 の倍数の判定法を考察することができる。 ○「エラトステネスのふるい」を使うことによって得られた数字の並びから、素数についてどのようなことが成り立つかを考察することができる。 ○決められた手順で複数枚のカードを操作する事象などを数学的に捉え、約数の個数の考えを用いて仕組みを考察することができる。 ○2 数の最大公約数、最小公倍数を利用して問題を考察することができる。 ○問題解決の過程を振り返って、割り算の余りの性質について考察を深めることができる。	
				主	○日常生活における具体的な事象の考察に、約数と倍数の考えを活用しようとする。 ○10 の倍数以外についての判定法を調べようとする態度がある。 ○数学史に興味・関心をもち、素数と素因数分解について学ぼうとする態度がある。 ○「干支」という身近な用語について、最小公倍数との関連を見つけて考察しようとする。 ○数学史の話題を通じて、割り算の方法や割り算の余りの性質に興味・関心をもち、	
3 学期	3	第3章 『数学と人間の活動』	5. ユークリッドの互除法 6. 1 次不定方程式 7. 記数法	知	○互除法の原理を理解し、互除法を用いて 2 数の最大公約数を求めることができる。 ○長方形の敷き詰めに関する操作の考え方を利用して、$\sqrt{2}$ や $\sqrt{5}$ が無理数であることを証明することができる。 ○$ax+by=c$ を満たす整数 x, y の組を 1 つ求めることができる。 ○1 次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。 ○記数法、10 進法、2 進法、n 進法について理解している。 ○n 進法の整数を 10 進法で、10 進法の整数を n 進法で表すことができる。	14
				思	○互除法の計算から最大公約数を表す式が導かれることを具体例から一般論に拡張し、考察することができる。 ○長方形の敷き詰めに関する操作について、長さを整数から有理数、無理数の範囲まで拡張して考察することができる。 ○整数に関する問題を、1 次不定方程式に帰着させて考察することができる。 ○現代の記数法を古代の記数法と比較し、特徴を説明することができる。	
				主	○互除法の原理の証明に興味・関心をもち、 ○長方形の敷き詰めに関する操作と、互除法の計算とを対応させる考え方に興味・関心をもち、 ○中学校で学んだ方程式 $ax+by=c$ について、考察を深めようとする。 ○互除法や割り算の等式を利用して、$ax+by=c$ を満たす整数 x, y の組を求める方法に興味をもち、積極的に活用しようとする。 ○数学史の話題を通じて、数の表し方に興味・関心をもち、 ○コンピュータなどの身近な物に、n 進法の考え方が活用されていることに興味・関心をもち、	

6 学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることです。教科書は最小限の内容と心得て、参考書やプリントなどの教科書＋ α の内容の問題演習を必ず行ってください。また、数学は積み重ねの教科です。中学校で学習した内容や日々の授業で学んだ内容に漏れがあると授業についていけなくなりますので、授業の予習と復習を怠らない学習姿勢で臨んでください。

年間授業計画

科目（講座名）	生物基礎	2 単位	必修	対象 学年	1 年
教科書 副教材	高等学校 生物基礎 （啓林館） スクエア最新図説生物neo（第一学習社） セミナー生物基礎＋生物（第一学習社）	教科担当			

1 教科の目標

1. 生命現象に興味を持ち、進んで学習しようとする意欲を持つこと。
2. 生物学的な基本概念を形成し、さまざまな知識を受け入れる素地を形成すること。
3. 生物の学習を通して、効率の良い学習法を身につけること。

2 科目の目標

1. 生命現象に興味を持ち、進んで学習しようとする意欲を持つこと。
2. 生物学的な基本概念を形成し、さまざまな知識を受け入れる素地を形成すること。
3. 生物の学習を通して、効率の良い学習法を身につけること。

3 授業内容と学習方法

中学校で習った内容を踏まえ、季節に応じた生物の営みに合わせた順序で学習を行っていく。3学期には発展的な内容として「生物の進化」を一部取り扱う。授業では、研究者が実験を行う過程でどのように発想、思考したか、また研究の積み重ねが現代の生命科学の基礎知識をどのように構築してきたかなどをイメージしてほしい。また、教科書に書かれた内容の他に、発展的な内容も取り入れていくため、それらについても十分に理解する姿勢をもってほしい。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達 目標並び に評価の 観点	生物学の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	学習内容や日常の現象において問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	生物に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	・授業中の取り組み ・テスト ・レポート ・論述課題	・授業中の取り組み ・テスト ・レポート ・論述課題	・授業中の取り組み ・テスト ・レポート ・論述課題

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	第1部 生物の特徴	・生物の共通性と多様性 ・生物とエネルギー	知	・生物が「細胞からできている」、「遺伝情報としてDNAをもっている」、「生命活動にはエネルギーが必要」などの共通性をもつことを理解する。 ・生物のもつ共通性は共通の祖先に由来することを理解する。 ・生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーはATPから供給されていることを理解する。 ・ATPが生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解する。 ・呼吸・光合成の過程でATPが合成されることを理解する。 ・酵素の触媒作用と基質特異性について理解する。 ・生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。	13
	5			思	・さまざまな哺乳類の比較に基づいて、生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることに気づき、説明できる。 ・今までに得た知識を活用して、哺乳類に見られる共通性について説明できる。 ・系統樹を正しく読み取ることができる。 ・さまざまな生物の比較に基づいて、すべての生物に見られる特徴について考え、共通性を見いだすことができる。 ・生物と無生物を見分け、理由について「生物の共通性」をもとに説明できる。 ・ヒトがエネルギーを取り入れる方法について説明できる。 ・今までに得た知識を活用して、植物が有機物を得る方法について説明できる。	
				主	・生物の多様性と共通性に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・エネルギーと代謝に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・呼吸と光合成に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	
	6	第2部 遺伝子とその働き	・遺伝情報とDNA ・遺伝情報とタンパク質の合成	知	・DNAの構造および塩基の相補性を理解する。 ・DNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 ・体細胞分裂の過程でDNAが複製され、分配されることを理解する。 ・DNAの遺伝情報を元にタンパク質が合成される転写・翻訳の過程を理解する。 ・分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解する。	13
	7			思	・DNAの構造の模式図をもとに、DNAが4種類の塩基からなること、塩基の結合はAとT、GとCの間で起こるという規則性に気づき、説明できる。 ・複製前後のDNAの模式図を比較し、DNAの正確な複製には塩基の相補性が利用されていることに気づき、説明できる。 ・アミノ酸配列と、それを指定するDNAの塩基配列を示した資料をもとに、塩基3個がアミノ酸1個に対応していること、塩基3個の配列が同じであれば同じアミノ酸が指定されることに気づき、説明できる。 ・同じ遺伝情報をもつ受精卵から、異なる形やはたらきをもつ細胞が分化することに気づき、説明できる。 ・自分とチンパンジー、自分とほかの人のゲノムの塩基配列の違いについて、本やインターネットなどを活用し、調べることができる。	
				主	・遺伝情報とDNAに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・遺伝情報の複製と分配に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・遺伝情報の発現に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	
2 学期	9	第5部 植生と遷移	・植生と遷移	知	・いろいろな植生とその特徴を理解する。 ・植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。 ・世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解する。 ・日本に分布するバイオームについて理解する。 ・生態系がどのように構成されているのかを理解する。 ・生態系において種多様性が維持されるしくみを理解する。 ・生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解する。 ・生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解する。	14
	10	第6部 生態系とその保全	・生態系と生物の多様性 ・生態系のバランスと保全	思	・遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。 ・長い年月をかけて進行する植生の遷移を調べるには、どのような方法が考えられるか、自分の考えをまとめることができる。 ・気温・降水量と陸上のおもなバイオームの関係を示した資料をもとに、森林・草原・荒原のいずれになるかを定める要因に気づき、説明できる。 ・日本の気候の特徴をもとに、日本に分布するバイオームについて考察し、説明できる。 ・標高の高い場所で森林が見られない理由を考察し、説明できる。 ・生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。 ・生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、説明できる。 ・外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を考察し、説明できる。	

3 学 期					・生態系への影響が予想される開発行為について、さまざまな観点・立場で考え、話し合い、解決策を模索することができる。	
				主	・植生と遷移に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・植生の分布とバイオームに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・生態系と生物の多様性に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・生態系のバランスと保全に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	
	11	第3部 ヒトの体の調節	・情報の伝達 ・体内環境の維持のしくみ	知	・体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 ・自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。 ・自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解する。 ・糖尿病の原因を理解する。	15
	12			思	・運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。 ・健康な人の食事の前後における血糖濃度・インスリン濃度のグラフをもとに、血糖濃度とインスリン分泌の関係に気づき、説明できる。 ・健康な人と糖尿病患者の食後の血糖濃度・インスリン濃度のグラフの比較に基づいて、糖尿病患者の血糖濃度が低下しない理由を考察し、説明できる。 ・糖尿病の原因を正しく理解したうえで、原因に応じた治療方法を考え、まとめることができる。	
				主	・体内での情報伝達と調節に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・体内環境の維持のしくみに関心をもち、主体的に学習に取り組める。	
	1	第4部 免疫	・免疫の働き	知	・自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解する。 ・免疫記憶のしくみを理解する。 ・免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解する。 ・進化の概念や要因について理解している。	15
	2	(生物)		思	・同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗体産生量のグラフから、抗体産生の速さや抗体量の違いを読み取り、説明できる。 ・免疫の学習内容をもとに、未知の病原体に対する免疫のはたらきを考察し、自分の考えを述べることができる。 ・進化について、生命現象の何が原動力になっているかを総合的に説明できる。	
	3	第1部 生物の進化	・生物の進化	主	・免疫のはたらきに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ・生殖とはどのようなことか、無性生殖と有性生殖に分け、それぞれの意義について関心をもち、意欲的に理解しようとする。	

6 学習者へのメッセージなど

1年生のうちに、学習する楽しさを身につけてください。様々な知識が身につくとは、知識が増えることだけではなく、一つの事象に対して異なる視点から見つめることができる能力を養うことを意味します。生物に限らず、どんな科目の中にも面白いと思える何かが必ずあり、それを見つけ、知ろうとする意欲を大切にして取り組むと、効率の良い学習法が自然に身に付きます。

生物の世界はものすごく多様です。すべてを知ることではできません。しかし、生物というくくりがあるということは共通する部分があるということです。生物に共通する部分はなんなのか、考えていきましょう。生物を学習するということは、自分自身も生物なのですから、自分自身を知ることになります。非常に身近な学問です。

まずは、授業を真剣に聞いてみる。そこからみなさんの「勉強は自分でやる」力を養っていきましょう！

年間授業計画

科目(講座名)		1 単位	必修	学年	1 年
教科書 副教材	高等学校地学基礎(数研出版) 新課程二訂版 スクエア最新図説地学(第一学習社) リードα 地学基礎(数研出版) 地学基礎探究ノート(数研出版)	教科担当			

1 教科の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 科目の目標

日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、科学的に探究する力を養う。また、地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3 授業内容と学習方法

地球科学・宇宙科学の基本的な内容を学習していく。講義を中心に、実験実習も適宜取り入れていく。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達 目標並び に評価の 観点	地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方ができるようになる。	目的意識 をもって観察、実験などに取り組み、結果を適切に考察し、人に伝える力を身につける。	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、防災等で日常生活に生かそうとする。
評価方法	授業への取り組み、提出物、発表の内容、によって総合的に評価する。	授業への取り組み、提出物、発表の内容によって総合的に評価する。	授業への取り組み、提出物への取り組みの態度、発表活動への取り組みによって総合的に評価する。

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1学期	4	1 固体地球とその活動	(1) 地球	知	地球の大きさや地球内部の層構造とその状態について理解することができる。地形図を用いて、地球の大きさを求めることができる。	6
	5			思	地球の形と大きさについて、観察や測定の結果などから考えることができる。地球内部の層構造とその状態について考えることができる。	
	6			主	地球の特徴に興味をもち、地球の形と大きさや地球の内部構造について調べようとする。	
2学期	7		(2) 活動する地球	知	プレートテクトニクス、地震尾発生の仕組み、火山活動と火成岩について理解することができる。偏光顕微鏡の使い方を理解し、岩石の観察ができる。	15
	9			思	大地形や地質構造、変成岩の形成、地震や火山活動について、プレート運動と関連づけて考えることができる。	
				主	プレートの運動に興味をもち、プレート運動に伴う大地形や地質構造、変成岩の形成、地震や火山活動について調べようとする。地震の発生や火山活動のしくみについて振り返って、日常生活や社会に生かそうとする。	
3学期	10	2 移り変わる地球	(1) 地球の誕生	知	宇宙の誕生、恒星としての太陽の誕生、太陽系の天体について理解することができる。	6
				思	宇宙の誕生と恒星としての太陽の誕生、太陽系の誕生と惑星の成因について考えることができる。太陽系の各天体の違いを比較し、地球が生命を生み出す環境となった理由について考えることができる。	
				主	宇宙と太陽の誕生の経緯、太陽系と地球の誕生の経緯に興味をもち、宇宙の誕生と恒星としての太陽の誕生、太陽系の誕生と太陽系の各天体の特徴、および地球が生命を生み出す環境となった理由について調べようとする。	
	11		(2) 地球と生命の進化	知	地球の誕生から生命の出現に至る地球の歴史、大気や海洋、気候などの地球環境の変化と生物の活動の相互関係、古生物の変遷に基づいて地質年代が区分されることについて理解することができる。	8
	12			思	地球が誕生してからの大気と海洋の変化と、生命の出現に至る地球の歴史、大気や海洋、気候などの地球環境の変化と生物の活動の相互関係について考えることができる。	
	1			主	地球の歴史に興味をもち、地球の誕生から生命の出現に至る地球の歴史、地球の歴史に興味をもち、地球環境の変化と生物の活動の相互関係、古生物の変遷に基づいて地質年代が区分されることについて調べようとする。	
	2					
	3					

6 学習者へのメッセージなど

地学では、身の回りの出来事(地震や火山)から地球の歴史、宇宙まで、時間的にも空間的にも非常にスケールの大きなことを学んでいきます。ぜひ、興味を持って取り組んでください。また、日常的地学的な話題などにも触れてほしいと思います。

年間授業計画

科目(講座名)	「体育」	単位	3単位必修	学年	1学年
教科書、副教材	大修館「新高等 保健体育」	教科担当			

1 教科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かかで活力ある生活を営む態度を養う。

2 体育科目の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

3 保健体育の科目及び内容構成

保健体育			
「体育」		「保健」	
A 体づくり運動	(1) 知識及び運動	現代社会と健康	ア知識 イ思考力、判断力、表現力等
	(2) 思考力、判断力、表現力		
	(3) 学びに向かう力、人間性		
B 器械運動	(1) 知識及び技能	安全な社会生活	ア知識及び技能 イ思考力、判断力、表現力等
	(2) 思考力、判断力、表現力		
	(3) 学びに向かう力、人間性		
C 陸上競技	(1) 知識及び技能		
	(2) 思考力、判断力、表現力		
	(3) 学びに向かう力、人間性		

D 水泳	(1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	生涯を通じる健康 ア知識 イ思考力、判断力、表現力等 健康を支える環境づくり ア知識 イ思考力、判断力、表現力等
E 球技	(1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	
F 武道	(1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	
G ダンス	(1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	
H 体育理論	ア知識 イ思考力、判断力、表現力等 ウ学びに向かう力、人間性等	

4 授業内容と学習方法

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
学習到達 目 標 並 び に 評 価 の 観 点	【知識】 運動を継続する意義や、体の構造、運動の原則などを理解すること、技術や名称や行い方を理解すること、体力の高め方を理解すること、伝統的な考え方を理解すること、競技会、試合、発表の仕方や文化的背景を理解し学ぶこと、運動観察の方法や見取り稽古の仕方を学ぶこと 【技能】 運動種目などの固有の技能や動きを身に付けさせること、各領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができるようにすること	合理的な動きと比較し成果や改善すべきポイントと理由を伝えようとする こと、課題解決のための計画を立て練習方法など仲間に伝えること、危険を回避するための活動の仕方を提案すること、よりよいルールやマナーについて提案すること、状況に応じて役割を提案すること、合意形成のためにかかわり方を見付け、調整すること、一人一人の違いを越えて楽しむための調整の仕方を見付けること、運動を継続して楽しむためのかかわり方を見付けること、	自主的・主体的に取り組もうとすること、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、フェアプレイを大切にしようとする、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、良い演技を讃えようとする、互いに助け合い高め合おうとすること、自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いを大切にすること、健康・安全を確保すること
具 体 的 な 評 価 方 法	①定期考査による確認テスト ②各種目における実技テスト ③毎授業における技術習得過程の観察	①タブレットを活用したグループワーク、課題解決学習レポート ②担当教員による助言・観察	①参加状況 ②基本的な心構え・取り組み ③仲間同士の教え合い、グループワークでの積極性

(1) 自主的・創造的精神に満ちた社会の有為な形成者の育成、リーダーとして国際社会に貢献できる人の育成

⇒そのためには

- ・「健康」があって初めてエネルギーに活動できる、よって基礎体力の定着を目指す
- ・「健康」とはどういう状況のことなのかを心と体のバランスをしっかりと探求し、自分を客観的に理解する力を育てる
- ・自分を知り、特性を生かす
- ・技能の習得はもちろんだが、思考力・判断力・表現力をより重視する授業展開
- ・何事にも粘り強く、立ち向かえるたくましさややり抜ける力を育成する

(2) 探究活動による深い学びの実践

情報活用力・探求力・情報発信能力・傾聴力・行動力・想像力の 6 つの力の 資質・能力を育てる

⇒そのためには

- ・選択授業をより多く導入
- ・男女共習による共生の意識改革
- ・性別・障害の有無に関係なく互いを認め合い高めあえる心と体の育成
- ・運動を実践する中で、常に批判的思考を育成し、メタ認知できる自己判断能力を育成
- ・公正・協力・責任・参画の場をしっかりと設定し、学びに向かう人間力の育成を強化する
- ・技能の習得はもちろんだが、思考力・判断力・表現力をより重視する授業展開(上の項でも記しました)

(3) カリキュラムマネジメントを通して学問に対する興味・関心を深め自ら学ぶ意欲を向上させる

⇒そのためには

- ・教科の横断的な学び方を通し、保健体育分野でも新たな関心を深められるような授業を展開する(特に保健分野)
- ・自分に合った運動を見つけ長く続けられるような具体的な方法や意思決定能力を育てる

6 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価規準	時数
1 学期	4	領域 C 陸上競技 (男女共習)	(1)短距離・リレー (2)投てき (3)走り幅跳び	知 各種目の技能の習得、記録の相対的評価 技 器具の名称の理解、ルールを理解 思 タブレットに慣れ、活用しようとする、タブレットを 判 活用しながら課題を発見し、解決に向けて思考す 表 る、気が付いたことを他者に伝えようとする 学 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の び 方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	20
	5		(1)(2)(3)全種目を全員 選択		
	6	領域 D 水泳 (男女別習)	(1)クロール泳法 (2)平泳ぎ泳法 (3)バタフライ泳法	知 各種目の技能の習得、記録の相対的評価 技 泳法の名称理解、体力の高め方の理解 思 運動観察方法、ルールを理解 判 泳法について、課題を発見し、解決に向けて思考 表 る、合理的な課題解決を目指す、 学 気が付いたことを他者に伝えようとする び 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の 方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	10
	7		(4)背泳ぎ泳法 (5)室内トレーニング		
	6	領域 H 体育理論	豊かなスポーツライフ の設計 (1)生涯スポーツの見 方・考え方 (2)ライフスタイルとスポ ーツの楽しみ方	知 スポーツには乳幼児期から高齢期に至るライフ ステージごとに、体格や体力の変化などにみられる 身体的特徴、精神的ストレスの変化などにみられ 思 る心理的特徴、人間関係や所属集団の変化につ 判 いてみられる社会的特徴など、いろいろな特徴に 表 応じた多様な楽しみ方があることについて理解する 学 各ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方は び 個人のスポーツ経験や学習によって育まれたス ポーツに対する欲求や考え方、健康や体力を求 める必要性や個人の健康目標などによっても変 化することであることについて理解する 知 ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方やラ イフスタイルに応じたスポーツとの関わり方につ いて、自己や自己を取り巻く環境の変化を予想し て豊かなスポーツライフが広がる未来の社会に ついて、これまで学習したことをもとに、将来の自 己のスポーツ設計を提案しようとしている、自己 の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えよう としている	1
			スポーツの学び方 (1)スポーツにおける技 術と戦術・戦略 (2)スポーツにおける技 能と体力 (3)技能の上達過程と練 習の考え方	知 体力とトレーニングの基礎理論について理解できる、 目的に応じた様々なトレーニングの方法を理解する 思 運動やスポーツの技能は、体力と相互に関連して 判 おり、技能は身長や体重などの体格や巧みさ 表 などの体力との関連で発揮されることについて理 解したことを言ったり書いたりしようとしている、 学 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について 主体的に取り組もうとしている	
			仲間と協力して課題を 達成するなど、集団で 挑戦するような運動を おこなう	知 運動を行うことを通して、気が付いたり関わり合っ たりする 思 自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて運動 判 の取り組み方を工夫しようとする、他者に自己の 表 考えたことを伝えようとする 学 課題解決の話し合いに貢献しようとしている び	
2 学期	8	D 領域 水泳 (男女別習)	(1)クロール泳法 (2)背泳ぎ泳法	知 各種目の技能の習得、記録の相対的評価 技 泳法の名称理解、体力の高め方の理解 思 運動観察方法、ルールを理解 判 泳法について、課題を発見し、解決に向けて思考 表 る、合理的な課題解決を目指す、 学 気が付いたことを他者に伝える び 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の 方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	4
	9	B 領域 体操競技 F 領域 武道 G 領域 ダンス	(1)(2)はどちらも必修 (1)マット運動 (2)剣道 (3)現代的なリズムダンス	知 各種目の技能の習得、記録の相対的評価 技 器具の名称の理解、ルールを理解	
					12

2 学 期	10	(男女共習)	(1)(2)(3)の3領域3種目を全員選択	思 判 表 学 び	自己や仲間の課題を発見し解決に向けて思考する、気が付いたことを他者に伝える、タブレットを活用し他者と運動観察をおこなおうとしている 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	24
		E 領域 球技 (男女共習)	球技ネット型、ゴール型種目(バレーボール、ソフトボール、テニス)から1種目選択	知 技 思 判 表 学 び	拾う、つなぐ、打つなどの一連の流れで攻撃を組み立てられるようにする、役割に応じたボールの操作ができるようにする、 ルールの理解、用具の理解 攻防において自己やチームの課題を発見し、運動の取り組み方を工夫している、自己の考えたことを他者に伝えようとしている 球技に自主的に取り組む フェアなプレイを大切にしようとしている 作戦など話し合いに貢献しようとしている 一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとしている 互いに助け合い教え合おうとしている	
		C 領域 陸上競技 (男女別習)	球技ネット型、ゴール型種目(バレーボール、ソフトボール、テニス)から1種目選択	知 技 思 判 表 学 び	各種目の技能の習得、記録の相対的評価 体力の高め方の理解 運動観察方法、ルールの理解 自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて思考する、合理的な課題解決を目指す 気が付いたことを他者に伝える 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	
	11	領域 H 体育理論	スポーツの学び方 (4)効果的な動きのメカニズム (5)体カトレーニング (6)運動やスポーツでの危険予知と	知 思 判 表 学 び	体力とトレーニングの基礎理論について理解できる、目的に応じた様々なトレーニングの方法を理解する 運動やスポーツの技能は、体力と相互に関連しており、技能は身長や体重などの体格や巧みさなどの体力との関連で発揮されることについて理解したことを言ったり書いたりしようとしている 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について主体的に取り組もうとしている	3
	12			知 思 判 表 学 び	各種目の技能の習得、記録の相対的評価 体力の高め方の理解 運動観察方法、ルールの理解 自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて思考する、合理的な課題解決を目指す 気が付いたことを他者に伝える 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	
	3 学 期	B 領域 体操競技 F 領域 武道 G 領域 ダンス (男女共習)	球技ネット型、ゴール型種目(バレーボール、ソフトボール、テニス)から1種目選択	思 判 表 学 び 学 び 学 び	運動やスポーツの技能は、体力と相互に関連しており、技能は身長や体重などの体格や巧みさなどの体力との関連で発揮されることについて理解したことを言ったり書いたりしようとしている、 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について主体的に取り組もうとしている 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	6
	2	C 領域 陸上競技 (男女別習)	長距離走(必修)	知 技 思 判 表 学 び	各種目の技能の習得、記録の相対的評価 体力の高め方の理解 運動観察方法、ルールの理解 自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて思考する、合理的な課題解決を目指す、 気が付いたことを他者に伝える 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	12
	3			知 技 思 判 表 学 び	各種目の技能の習得、記録の相対的評価 体力の高め方の理解 運動観察方法、ルールの理解 自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて思考する、合理的な課題解決を目指す、 気が付いたことを他者に伝える 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	

7 学習者へのメッセージなど

令和4年度より新学習指導要領が施行され、保健体育の授業の在り方が大きく変容しました。体力や技能の程度及び性別の違いに関わらず、仲間とともに学ぶ体験を通して、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指します。また、運動に関する自己や仲間の課題を発見し、課題解決に向けて仲間とともに真摯に取り組む資質・能力の向上を目指します。

体育の授業への取り組み方としては、自己や仲間、チームの課題に対して実直に取り組む、互いを認め合い話し合ったりして主体的に授業へ参画しているかが大切な時間になり、その取り組む姿勢を指導側は授業毎に評価していきます。保健体育の授業を通して、道徳性や人間性をさらに育み、人間として大きく成長することを期待します。

年間授業計画

科目(講座名)	「保健」	単位	必修・1 単位	学年	1 年
教科書 副教材	大修館「新高等 保健体育」	教科担当			

1 教科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。

2 科目の目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次の通り育成する。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。

3 授業内容と学習方法

本校の保健のねらいは、健康や安全に関して理解を深め、日常生活に活かすことができるようになることである。週1時間ではあるが、1年生では「現代社会と健康」を中心に個人と社会生活と健康の関わりについて学習していく。保健の内容は心身共に健康に成長する過程で、必要不可欠な内容ばかりである。健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養うために、グループワーク、レポートの作成や研究発表を行うなどの形式も組み込まれる。

学期毎に1回の定期テストで(ア)健康の考え方、(イ)現代の感染症とその予防、(ウ)生活習慣などの予防と回復、(エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康、(オ)精神疾患の予防と回復、(カ)安全な社会づくり、(キ)応急手当のそれぞれで、知識理解力、現代社会と健康および安全な社会生活について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともにそれらを表現できる力など、授業への主体的取り組みを評価していく。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、理解したことを言ったり書いたりしている	健康の考え方について自他や社会の課題を発見している。 データや資料に基づいて分析し、課題解決の方法を主体的に取り組み筋道立てて説明し、他者に伝わるように表現しようとしている	健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている

評価方法	活動中の様々な場面で取得する情報の中から、重要な情報を主体的に判断し、選択することができる。複数の知識・技能や自己の経験と統合することで、目的に合った解決策を見出すことができる。習得した知識・技能を使って、課題を解決することができる	他者と協働しながら課題をより良く解決しようとしている。自己の解決策を筋道立てて他者に説明し、理解してもらおうと努力している。自分がとるべき行動を理解し課題解決のために周囲を巻き込んで行動しようとしている。未知の状況でも目的を達成するための手段を創造し、他者により影響を及ぼそうとしている	授業を通して健康に興味関心を持ち、あらゆることに探求心を持って授業に主体的に取り組もうとしている
------	--	---	--

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1学期	4		日本における健康課題の変遷	知	健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方も変化してきていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。免疫、遺伝、生活行動などの主体要因と、自然、経済、文化、保健・医療サービスなどの環境要因が互いに影響し合いながら健康の成立に関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	2
				思	健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理し、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
				主	健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
		健康の考え方と成り立ち		知	我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。健康水準、及び疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	2
				思	国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理している。	
				主	健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
	5	ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり 健康に関する意思決定・行動選択		知	健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づき、適切な意思決定や行動選択により、疾病等のリスクを軽減することを含め、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。適切な意思決定や行動選択には、個人の知識、価値観、心理状態、及び人間関係などを含む社会環境が関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	3
					健康を保持増進するための環境には、自然環境、及び政策や制度、地域活動などの様々な社	

6	7		思	会環境があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	5
			主	健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
		現代における感染症の問題	知	感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること、その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、腸管出血性大腸菌(O157等)感染症、結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	
		感染症の予防 性感染症・エイズとその予防	思	感染症のリスクを軽減し予防するには、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であること、エイズ及び性感染症についても、その原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について、理解したことを言ったり書いたりしている。	
7	7		主	現代の感染症とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	7
		生活習慣病の予防と回復	知	がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	
		身体活動・運動と健康	思	がんは、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	
		食事と健康	主	生活習慣病などの予防と回復について、健康に関わる原則や概念をもとに整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして自他や社会の課題を発見、分析し、効果的な解決方法を話し合ったり、発表したりしている。	
5	5	休養・睡眠と健康	主	生活習慣病とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	5
		がんの予防と回復	知	喫煙や飲酒は、生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねること、喫煙や飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要で	
			思		
			主		

			薬物乱用と健康	あることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 コカイン、MDMAなどの麻薬、覚醒剤、大麻、など、薬物の乱用は、心身の健康、社会の安全などに対して深刻な影響を及ぼすことから、決して行ってはならないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 薬物乱用を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ、及び法的な規制や行政的な対応など社会環境への対策が必要であることについて、理解したことを発表したり話し合ったりしている。 思 喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見し、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価している。課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて発表したりしている。 主 喫煙・飲酒、薬物乱用について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	3
			精神疾患の特徴	知 精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物学的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることについて理解したことを言ったり書いたりしている。うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などは、誰もが罹患すること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な対処により回復し生活の質の向上が可能であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 精神疾患の予防と回復には、身体の健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクセーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることについて理解したことを言ったり書いたりしている。 思 精神疾患の予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見し習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 主 精神疾患の予防とその回復について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
3 学期		安全な社会生活	事故の現状と発生要因 交通事故防止の取り組み 安全な社会の形成	知 事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて理解している。交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や周りの環境、車両の特性などを把握すること、及び個人の適切な行動、交通環境の整備が必要であることについて理解している。事故を防止したり事故の発生に伴う傷害等を軽減したりすることを目指す安全な社会の形成には、交通安全、防災、防犯などを取り上げて、法的な整備などの環境の整備、環境や状況に応じた適切な行動などの個人の取組、及び地域の連携などが必要であることについて理解している。	4

				思	安全な社会づくりについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見し、様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用している。交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価している。安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
				主	安全な社会づくりについて、課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
	1	応急手当の意義と救急医療体制		知	適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて、理解する。自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることについて理解する。心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED(自動体外式除細動器)の使用などが必要であること、方法や手順について実習を通して理解し、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができる。日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、応急手当ができるようになる。	3
	2	心肺蘇生法		思	応急手当について、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見し、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している。応急手当について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
	3	日常的な応急手当		主	応急手当について課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	

6 学習者へのメッセージなど

保健の授業を通して個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めて下さい。生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育む時間です。そして課題を新たに発見し課題解決のために探求心を持って学習を進めてください。授業では、教師主導で基本的知識を学ぶ時間のみならず、生徒同士で自らの考えを伝え合い、深めていく時間もあります。主体的に自身の意見を伝え、新たな考え方に耳を傾けることも社会では重要な資質ですから、ぜひとも意欲的に学びに向かってください。保健で学んだ教養が体育や他の教科、また日常生活に生かされることを期待しています。

年間授業計画

科目(講座名)	音楽 I	単位	必修・選択	学年	1年
教科書 副教材	高校生の音楽1	教科担当			

1 教科の目標

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2)創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- (3)生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 科目の目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2)自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聞くことができるようにする。
- (3)主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものしていく態度を養う。

3 授業内容と学習方法

●表現【歌唱・器楽(ボディー・パーカッションを含む)・創作】

歌唱・器楽について、発声法・呼吸法・楽器の奏法など、技術的な事柄も含めて、曲へ取り組む中で学んでいく。また、パート別練習やグループ練習を通じて自己の役割と責任を果たし、仲間と協力して音楽を作り上げる体験をする。創作は、楽典【音楽理論全般(主に Music Note にて自主学习)】や器楽の学習と合わせて取り組む。

●鑑賞

ジャンルや国を問わず、表現に関連させて楽曲の鑑賞に授業や自主学习で取り組む。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達 目標並び に評価の 観点	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価方法	筆記テスト・レポート 発表＝実技テスト ワークシート・練習ノート Music Note	グループでの話し合い 筆記テスト・レポート 発表＝実技テスト ワークシート・練習ノート Music Note	グループでの話し合い 筆記テスト・レポート 発表＝実技テスト ワークシート・練習ノート Music Note

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	○校歌/独唱	○正しい発声を身につけて、豊かな響きで歌う ○日本語やイタリア語の発音の特徴を捉えて、曲の雰囲気味わいながら歌う	知 思 主	・曲想と歌詞の関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音、体の使い方などの技能を身につけ、歌唱で表している。 ・音色、旋律を知覚し、それらの働きについて感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図を持っている。 ・正しい発声を身につけて表現を創意工夫することに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	6
	5	○楽典	○音名と譜表 ○音符と休符 ○拍子と記譜 ○音程(幹音) Music Noteを用いて、以上の項目の演習	知 思 主	・音楽を形づくっている要素のうち、リズムや拍子などのほか、各国の音名や記譜の仕方について身に付け、音程などの仕組みについて理解している。 ・音楽を形作っている要素の中でもリズムや拍子、音名、音程、記譜法について深く考え、知覚したことを自ら統合して読譜や記譜の判断ができる。 ・さまざまな音楽の要素に関心を持ち、主体的・協働的に楽典の活動に取り組もうとしている。	8
	6	○リズム打ち/ボディー・パーカッション	○様々なリズムとパルスの演習 ○ボディー・パーカッションのグループ演奏	知 思 主	・リズムとパルス、曲想と音色やリズムの関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした表現をするために必要な、他者との調和を意識して演奏する技能を身につけ、演奏で表している。 ・音色、リズム、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。 ・音色の工夫やリズムパターンの変化と曲想との関わりに関心を持ち、主体的・協働的にボディー・パーカッションの学習活動に取り組もうとしている。	10
	7	○鑑賞	○日本と世界の民族音楽や伝統芸能の鑑賞	知 思 主	・それぞれの国の音楽の特徴・種類、及び文化的・歴史的背景や表現形態による歌唱・器楽の表現の特徴について理解している。 ・音色、リズム、旋律、強弱、構成などを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、それぞれの音楽の種類と特徴について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 ・日本と世界の民族音楽や伝統芸能に関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	2
2 学期	9	○鑑賞	○舞台芸術の鑑賞ー作品の背景や音楽の特徴、他芸術との関わりを理解する	知 思 主	・音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり、及び様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。 ・音色、リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 ・作品に描かれている社会的背景や登場人物の心情に関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	4
	10	○楽典	○音程(派生音) ○音階 ○和音 ○コードネーム Music Noteを用いて、以上の項目の演習	知 思 主	音楽を形づくっている要素のうち、音程や音階、和音、コードネームなどの仕組みについて理解している。 ・音楽を形作っている要素の中でも音程、音階、和音、コードネームについて深く考え、知覚したことを自ら統合して読譜や記譜の判断ができる。 ・さまざまな音楽の要素に関心を持ち、主体的・協働的に楽典の活動に取り組もうとしている。	10
	11	○混声四部合唱	○合唱曲の歌唱、他	知 思 主	・日本語の特性と曲想に応じた発声との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な呼吸法、曲にふさわしい発声、言葉の発音、体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 ・音色、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、ア・カベラによる歌唱の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うか表現意図をもっている。 ・豊かな響きのある歌声の基礎となる技能を身に付けることや協力し合いながらアンサンブル活動をするに関心を持ち、主体的・協働的にア・カベラの合唱に取り組もうとしている。	10
	12	○創作・器楽	○コードネームとキーボードを用いた変奏や編曲	知 思	・音楽材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 ・創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、音楽を形作っている要素の働きを変化させ、変奏や編曲の技術を身につけ、創作で表している。 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽を作るかについて表現意図を持っている。	4

				主	・伴奏を作ったり変奏をしたり、器楽伴奏やアンサンブルに編曲したりすることに関心を持ち、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。				
3 学期	1	クラスコンサートの企画、運営、実施、鑑賞	○アクティブ・ラーニング形式でアンサンブル演奏のグループ活動	知	・楽曲にふさわしい演奏方法や技能、また様々な表現形態を身につけている。 ・表現形態の特徴を生かして歌ったり演奏したりする技能を身につけている。 ・他者との調和を生かして歌ったり演奏したりする技能を身につけている。	6			
	思			・歌唱や器楽の表現に関わる知識や技能を生かしながら、自己のイメージを持って表現を創意工夫している。					
	主			・音楽活動やアンサンブル活動に興味を持ち、自ら深めようとしている。 ・他者との調和を意識し、協働して、自己の資質や能力を伸ばそうとしている。					
	2		○コンサートの開催に必要な仕事の分担と運営 ○コンサートの開催 ○コンサートの鑑賞 ○コンサートの開催に係わる活動全般の総括	知	・楽曲にふさわしい演奏方法や技能、また様々な表現形態を身につけている。 ・表現形態の特徴を生かして歌ったり演奏したりする技能を身につけている。 ・他者との調和を生かして歌ったり演奏したりする技能を身につけている。	6			
	思			・歌唱や器楽の表現に関わる知識や技能を生かしながら、自己のイメージを持って表現を創意工夫している。 ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことが出来る。					
	主			・音楽活動やアンサンブル活動に興味を持ち、自ら深めようとしている。 ・他者との調和を意識し、協働して、自己の資質や能力を伸ばそうとしている。 ・音楽やコンサートを形作っている要素や要素同士の関連、また音楽に関する用語や記号について、理解したり興味を持っている。					
	3			○コンサートの録画鑑賞 ○1年間の総括	知		・曲想や表現上の校歌と音楽構造の関わり、音楽の特徴と文化的歴史的背景や他の芸術との関わりについて理解している。	2	
					思		・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことが出来る。		
					主		・音楽やコンサートを形作っている要素や要素同士の関連、また音楽に関する用語や記号について、理解したり興味を持ったりと、自ら深めようとしている。		

6 学習者へのメッセージなど

週1回の限られた時間です。有意義な時間にしましょう。
失敗を恐れずポジティブに、やる時には何事にも‘本気’で取り組むこと。
するといつしか力が付き、表現の幅が広がっていくものです。
また、集団で作りに上げていく授業内容が主となります。
周りとの協調精神を大切に、取り組んで下さい。

年間授業計画

科目(講座名)	美術 I	単位	必修・選択	学年	年
教科書 副教材	高校生の美術1(日本文教出版)	教科担当			

1 教科の目標

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- (3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 科目の目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ねて生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみながら心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 授業内容と学習方法

- 【絵画】 水彩絵具・水彩色鉛筆を使い、着彩表現を研究する
テーマ設定のある着彩画を1学期と3学期、計2作品制作する
- 【デザイン】 サイコロの目をデザインし、描画制作する
- 【工芸】 シルバークレイ粘土を使用し、オリジナルの銀製品を制作する

- ・教科書の技法解説資料を元に演習を行う。
- ・教科書やプリントの参考作品画像を使用し、発想の引き出し方を解説、指導する。
- ・プレゼンテーションや投票といった、皆で学び合う機会を設定する。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達 目標並び に評価の 観点	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみながら心豊かな生活や社会を創造していく姿勢を身につける。

評価方法	作品の内容と完成度 アイデアスケッチ プレゼンテーション発表 自己評価レポート	作品の内容と完成度 制作の進め方 アイデアスケッチ 自己評価レポート	課題の提出状況 制作に取り組む姿勢 アイデアスケッチ 用具の準備 鑑賞・傾聴の姿勢
------	--	---	---

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数	
1 学期	4	絵画表現	デッサンの基礎	知	意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、色や質感などの表現を工夫し、主題を追求して創造的にあらわしている。	6	
	思			身近なものを観察して捉えた特徴、形や色を描画する際の構図、材料や用具の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。			
	主			主体的に身近なものを見つめ、感じ取った特徴やものに対する自分の思いなどをもとにした表現の創造活動に取り組もうとしている。			
	5		水彩技法演習	知	意図に応じて水彩画材や筆の特性を生かすとともに、描画方法を工夫して創造表現の幅を広げている。	6	
	思			水彩画材料による表現のさまざまな効果などから主題を生成し、画材の特性を生かした表現方法などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。			
	主			主体的に水彩画材料ならではの効果などを追求して、表現の創造活動に積極的に取り組もうとしている。			
	6		着彩課題①	知	意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、色や質感などの表現を工夫し、主題を追求して創造的にあらわしている。	16	
	思			身近なものを見つめ、感じ取った特徴やものに対する自分の思いなどから主題を生成し、形や色、構図、材料や用具の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。			
	主			主体的に身近な事象を見つめ、感じ取った特徴や「もの、こと」に対する自分の思いなどをもとにした表現の創造活動に取り組もうとしている。			
2 学期	9	デザイン・工芸	サイコロのデザイン制作	知	形や色、材料などが感情にもたらす効果や、配色や構成などの造形的な特徴などをもとに、効果的な伝達のデザインを全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	10	
	思			伝える情報の内容や相手などから主題を生成し、単純化や省略、強調などの効果や、わかりやすさと美しさの調和などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。			
	主			主体的に誰に何を伝えるかを考え、わかりやすく効果的なデザインを工夫する表現の創造活動に取り組もうとしている。			
	10		彫金「銀製品制作」	知	形や色、材料の質感などが感情にもたらす効果や造形的な特徴などをもとに、銀製オーナメントやアクセサリーのデザインを全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。		

	11			思	さまざまな製品・作品を比較して、使用する目的や使う人の立場に立った機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り形や色、質感の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	14	
	12			主	主体的に色々な銀製品・作品の比較鑑賞に取り組み、目的や機能との調和の取れた美しさなどを感じ取り、形や色、質感の工夫などについて考える創造活動に取り組もうとしている。		
3学期	1	絵画表現	着彩課題②	知	形や色、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、自己をあらわした作品を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	12	
	2			思	自己を見つめ、感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、単純化や省略、強調、材料の質感や量感を生かした表現などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		
	3			主	自己を表現した作品の造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を主体的に深めている。		

6 学習者へのメッセージなど

幅広い画材・素材の体験を通して美術の広さ・深さを知り、
描く喜び・作る喜び・見る喜びを通して、表現することの素晴らしさに気付いて欲しいと思います。
自分自身の気持や欲求を表現することにより、新たな自己を発見して下さい。

年間授業計画

科目(講座名)	書道 I	2単位	必修選択	学年	1年
教科書 副教材	書 I (教育図書 プライマリーブック)	教科担当			

1 教科の目標

芸術に親しむ心を養い感性を豊かにし、書の良さや靱く示唆を感じ取り、情操を豊かにし創造的な表現や技術を身につけ、その喜びを味わう。

2 科目の目標

漢字文化圏の伝統芸術である書の美を学び、文化史の一端と捉え、書写力の向上と文字に関する教養を深める。

3 授業内容と学習方法

○1 学期:楷書体 2学期:行書体 3学期:仮名 成立の発展と過程を古典の名品で探る。
 ○文字の原初の字形・字義、筆順の由来、活字体と筆写体の相違など文字に関すること。
 ○毛筆をはじめとする筆記用具の特性を知り、その使い方に習熟する。
 ○葉書・封筒の宛名、金封等の書式及び表書など、用語の書法的要領を知る。
 《実技》課題の解説によって本時のポイントを理解させ、実習する。助言・添削等の指導を行い習熟させる。習熟度の高まりに従い、古典を直に臨書し、より高度な段階を目指す。
 《理論》各書体のはじめに成立の要因・発展過程を教科書・プリント等で解説する。文字に関する解説は本時の内容に即して行う。展開に応じて、レポート提出を行うこともある。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達 目標並び に評価の 観点	感性を豊かにし、書を愛好し、書の良さや美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫し、書写能力高め、意欲的・主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	書の効用や表現を幅広く理解し、自己を主体的に表現するために、基礎的な技能を身につけている。	書が生活の中で果たしている役割、書の文化や伝統を幅広く理解し、実用的な表現や芸術的な表現の基礎的な技能を身につけている。
評価方法	○漢字テスト ○課題プリント ○作品(添削)	○発表(作品集) ○課題プリント ○作品(添削)	○1年間通しての感想プリント ○課題プリント ○作品(添削)

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数		
1 学期	4	楷書体の学習	○漢字テスト (総画数・筆順・部首・部首名) ○自分の氏名	知 思 主	○漢字に興味を持ち、その成り立ち、筆順・部首・部首名の知識を身につけている。 ○漢字の象形を考え、意味・内容を考えている。 ○漢字の成り立ちに興味を持ち、自分の名前前の成り立ちを主体的に調べ、意味を理解している。	4		
	5		○楷書体基本用筆 「三川」「人口」「元水」 「日月」	知 思 主	○表現技法の基礎・基本を身につけ、書写能力の向上に努めている。 ○古典の美と、その技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしている。 ○自らの感性や自発的な意図に基づいて、字形・全体の構成の工夫に取り組んでいる。 ○字形や線質と筆者の感興と意図との関わりに関心を持ち、意欲的に古典の美とその技法を学んでいる。 ○漢字の書の意欲的な表現活動を通して、意図的・主体的に表現の構想から完成に至るまでの充実感や喜びを味わっている。	6		
	6		○臨書 孔子廟堂碑「大道」 九成宮醴泉銘「清泉」 雁塔聖教序「無門」	知 思 主	○漢字の書の美に対する感性を養い、意図に基づく表現の構想を工夫している。 ○古典の美とその技法を学び、普遍性のある表現力を身につけている。 ○漢字の書の構造的な構造や変化と統一などを理解し、字形全体の構成を工夫している。 ○自己の表現のねらいを達成する為に、古典の持つ伝統的な美を感じ、表現方法を工夫している。	6		
	7		○臨書 顔氏家廟碑「武道」 牛橛造像記「令和」 鄭義下碑「永和」	知 思 主	○基本的な点画や線質の表し方と、用筆・運筆の関係を把握している。 ○漢字の書の構造的な構造、変化と統一などを理解し、字形・全体の構成を工夫している。 ○自己の表現のねらいを達成するために古典の持つ伝統的な美を感じ、表現方法を工夫している。	6		
	9		行書体の学習	○硬筆検定2・3級理論 解答 ○行書体基本用筆 「三川」「人口」「水月」 「比能」	知 思 主	○古典の学習により、行書に関心を持ち、意欲的にその美を味わっている。 ○行書に関心を持ち、意欲的にその美と技法を学んでいる。 ○行書の表現活動を通して、意図的・主体的に表現の構想から完成に至るまでの充実感や喜びを味わっている。	6	
	10			○行書体臨書 王羲之『蘭亭序』 「天朗」 「氣清」 「恵風」	知 思 主	○基本的な用具・用材に関する知識や扱い方を身につけ、用具・用材と表現との関係に関心を持っている。 ○漢字の行書体に関心を持ち、意欲的・主体的に表現や鑑賞の活動を行っている。 ○漢字の行書体の字形について関心を高め、自らの構想に基いて意欲的・主体的に活動を行っている。	6	
	11			○行書体臨書 王羲之『蘭亭序』 「和暢」 「宇宙」 「之大」	知 思 主	○用具・用材の特性を活かした表現効果を理解し、表現に応じた用具・用材を選択している。 ○実用的な表現や芸術的な表現の幅を広げ、漢字の行書体の技能を身につけている。 ○文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた創造的な表現をしている。	6	
	12			○行書体臨書 王羲之『蘭亭序』 半切臨書 ○自由課題 色紙	知 思 主	○表現の構想から完成に至るまでの充実感や喜びの体験を通して、主体的に自己実現を果たしていく態度が身についている。 ○目的や用途に即した形式と表し方を判断し、文字の大きさ・配列などそれぞれに適した表現を工夫している。 ○芸術的な表現や実用的な表現に応じた形式と表し方を理解し、目的や用途に即して表現する技能を身につけている。	6	
	2 学期							

3 学期	1	仮名の学習	○仮名・いろは歌	知	○仮名の書の美に対する感性を養い、意図に基づいて字形や線質を工夫している。	4
				思	○古典の学習により、仮名の表現の基本的な用筆・運筆の技法を身につけ、表現を工夫している。	
				主	○名筆を通して、単体・連綿等全体の構成など、日本の伝統的な書の美を感受している。	
	2		○蓬萊切臨書 変体仮名十種 連綿九種 半紙料紙	知	○仮名の基本的な線質と用筆・運筆との関係を理解し、創造的な表現をしている。	4
				思	○運筆の律動性や筆脈の把握を通して、仮名の美の特質を理解し、その技法を身につけている。	
				主	○自発的な意図に基づいて、全体構成や字形・線質・墨色などを工夫し、創造的な表現をしている。	
	3		○作品集制作・返却 一年を通しての感想 及び発表	知	○書が生活の中で果たしている役割を理解し、書を社会生活の中で活かそうとしている。	4
				思	○書に対する関心を持ち、美しいと感じたり、楽しいと思えるような書の発見に心がけている。	
				主	○書の美に対する第一印象を大切に、自分の感じ方や好みを発表することを身につけている。 ○他者の見方や鑑賞内容を聞く事により、自らの鑑賞を深めている。	

6 学習者へのメッセージなど

書は後天性の強い芸術とされ、書法の正しい理解と努力によって目覚ましく進歩するものです。また、書の美は一様ではありませんが、基礎となる項目＝文字の結構の基本・筆記具の使い方＝は同一です。そこが理解出来ると楽しくなります。活字体は書く為のものではありません。書く為には書写体を学ぶことが肝要です。授業では、書法の基本的事柄について道案内します。判らないこと、出来ないことがあれば、遠慮なく質問して下さい。この授業を介して「書」に興味を抱くことになれば幸甚に思います。

令和7年度 年間授業計画

科目（講座名）	英語コミュニケーションⅠ	3単位	必修	学年	1年
教科書 副教材	ELEMENT English CommunicationⅠ（啓林館） 精読：Cutting Edge Green（エミル出版） 入門英文問題精講（旺文社） 語彙：速読英単語 入門編 改訂第3版 速読英単語 必修編 改訂第7版（Z会出版） 英作文：FRAME 自由英作文 多読教材：年間6冊程度の多読教材を読む。	教科担当			

1 教科の目標

- ①外国語によるコミュニケーションのための知識・技能を働かせ、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝えあったりする資質・能力・態度を育成する。
- ②入試問題に対応できる語彙力・読解力（概要や要点を目的に応じて捉えることができる力）の基礎を作る。

2 科目の目標

- 【読むこと】社会的な話題について、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。
- 【聞くこと】日常的な話題について、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。
- 【書くこと】日常的な話題について、基本的な語句や文を用いて、情報を考え、気持などを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。
- 【話すこと（発表）】日常的な話題について、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持などを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。
- 【話すこと（やりとり）】日常的な話題について、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持などを話して伝えあうやり取りを続けることができるようにする。

3 学習目標

- ①文章の概要や要点を素早く正確に掴む読解力を養成する。具体的に、本文を読み、概要を考え、本文の要点を照らし合わせ、自分の考えた概要が間違っていた場合、その概要を訂正することができる。
- ②大学受験で求められる基本的な語彙数 5000 語を習得する。
- ③英作文における賛否型の問題において、60～100 ワードで自分の意見を論理的な、また一貫性を持った英文を書くことができる。
- ④読解において、共通テストで必要とされている速さ、120wpm で英文を読むことができる。
- ⑤伝えたい内容を正確に伝えるための、言語材料（基本的な文法知識、語法）を理解することができる。

4 授業内容と学習方法

教科書・精読教材を中心に展開する。教科書を使用して言語活動を多く行うことによって英語でコミュニケーションを行う場面を作る。またその際、ペアワーク・グループワークを活用し、主体的・対話的な学習ができるような環境を整える。

精読教材を使用して、読解力やリーディングスキルの育成を行う。また、リスニングや音読活動を通じてコミュニケーションの基礎となる能力を身に着ける。定期テストまでに1回パフォーマンステストを行う。単語等の小テストを行い、習得状況を把握する。多読活動を継続的に行う。

5 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けているか。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができているか。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話されたり書かれたりする文章等を聞いたり、読んだり、して必要な情報を読み取ったり、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点などを捉えようとしている。日常的な話題や社会的な話題について、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考え、気持ちなどを基本的な語句や文を用いて、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり伝え合ったりしようとしている。
評価方法	①定期テスト・小テスト	①定期テスト ②パフォーマンステスト[インタビューテスト・即興スピーチ（ライティング）を含む]	①授業内での行動観察 （思考・判断・表現の活用における学習状況） ②ワークシート

6 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	領域					評価規準	時数
				聞	読	話	話	書		
1 学期	4 5	ELEMENT English Communication I Lesson 1, 2 (英語の5文型、受動態、to不定詞、現在完了形、現在完了進行形、分詞の限定用法) Cutting Edge Green 1	単語テスト 言語活動 パフォーマンステスト	○	○	○	○	○	知 英語特有のリズム・イントネーションを聴き、発話を理解している。 必要な情報を聞き取るため（読み取るため、話して伝えるため）の言語材料を理解している。 ある話題についての内容を、話して伝えあう（読み取る、聞き取る）技能を身につけている。 思 自分について、簡単な表現を使って話すことができる。短い提携表現を使えば簡単な質問や応答ができる。 本文に関連する写真やキーワードなどの手助けがあれば、短い簡単な表現を使って、話のあらすじを伝えることができる。 平易な英語で書かれた短い物語を読んだり聞いたりし、必要であれば読み直したり、聞きなおしたりしながら、概要を理解することができる。 主 聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	9
	6	ELEMENT English Communication I Lesson 3 Further	単語テスト パフォーマンステスト 言語活動	○	○	○	○	○	知 つながりやすい音・変化しやすい音聞き分け、自然なスピードの発話を理解している。 必要な情報を聞き取るため（読み取るため、書いて伝えるため、話して伝えるため）の言語材料を理解している。	6

	7	Reading1 (関係代名詞、 使役動詞、過去 完了形、知覚動 詞) Cutting Edge Green 2							ある話題についての内容を、話して伝えあう (書いて伝える、読み取る、聞き取る) 技能を 身につけている。	
			単語テスト 言語活動	○	○	○	○	○	思 本文に関連する写真やキーワードなどの手助け があれば、短い簡単な表現を使って、話のあら すじを伝えることができる。 ある話題について書かれた文などを読んで(聞 いて)、概要や要点を捉えることができる。 語句身近な事柄について、簡単な語句や文を用 いて書くことができる。 主 聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体 的に英語を用いてコミュニケーションを図ろう としている。	
夏季休業期間	8	Cutting Edge Green 3.4	夏季講習 夏季長期休暇課題 多読							
2 学期	9	ELEMENT English Communication I Lesson 4, 5 (関係代名詞、 使役動詞、過去 完了形、知覚動 詞) Cutting Edge Green 5.6	単語テスト 言語活動	○	○	○	○	○	知 はっきりとした、簡単な挨拶や指示を理解して いる。 必要な情報を聞き取るため(読み取るため、書 いて伝えるため、話して伝えるため)の言語材 料を理解している。 ある話題についての内容を、話して伝えあう (書いて伝える、読み取る、聞き取る) 技能を 身につけている。 思 本文に関連する写真やキーワードなどの手助け があれば、話のあらすじを伝えることができ る。 目的などに応じて、ある話題について書かれた 文などを読んで(聞いて)、概要や要点を捉え ることができる。 主 聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体 的に英語を用いてコミュニケーションを図ろう としている。	1 2
	10	ELEMENT English Communication I Lesson 6, Further Reading 2	単語テスト 言語活動	○	○	○	○	○	知 必要な情報を聞き取るため(読み取るため、書 いて伝えるため、話して伝えるため)の言語材 料を理解している。 ある話題についての内容を、話して伝えあう (書いて伝える、読み取る、聞き取る) 技能を 身につけている。	9

	11	Cutting Edge Green 6.7								思 目的などに応じて、ある話題について書かれた文などを読んで（聞いて）、概要や要点を捉えることができる。 比較的身近で社会的な事柄について、何らかの手助けがあれば、グラフや情報をもとに、自分の考えや気持ちなどを伝えることができる。 身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができる。	
										主 聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	
		単語テスト 多読 単語テスト パフォーマンステスト 言語活動	○	○	○	○		知 文章を読み取るため（書いて伝えるため、話して伝えるため）の言語材料を理解している。ある話題についての内容を、話して伝えあう（書いて伝える、読み取る、聞き取る）技能を身につけている。 思 比較的身近で社会的な事柄について、何らかの手助けがあれば、グラフや情報をもとに、自分の考えや気持ちなどを伝えることができる。 目的などに応じて、ある話題について書かれた文などを読んで（聞いて）、概要や要点を捉えることができる。 相手の話に対し、簡単な定型表現を使って、興味があることについて伝え合うことができる。	1 2		
	12									主 聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	
3 学期	1	ELEMENT English Communication I Lesson 7,8 Cutting Edge Green 8.9	単語テスト 多読 単語テスト パフォーマンステスト 言語活動	○	○	○	○	○	知 短いはっきりとした簡単なメッセージやアナウンスを聞いて必要な情報を聞き取ることができる。 文章を読み取るため（書いて伝えるため、話して伝えるため）の言語材料を理解している。ある話題についての内容を、話して伝えあう（書いて伝える、読み取る、聞き取る）技能を身につけている。	6	
									思 本文に関連する写真やキーワードなどの手助けがあれば、簡単な一連の語句や文を使って、話の要点を伝えることができる。 目的などに応じて、ある話題について書かれた文などを読んで（聞いて）、概要や要点を捉えることができる。 比較的身近で社会的な事柄について、必要に応じて手助けがあれば、簡単な英語を使って意見交換をすることができる。 身近な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができる。		
	2	単語テスト 多読 単語テスト 言語活動	○	○	○	○		主 聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	9		
								知 文章を読み取るため（書いて伝えるため、話して伝えるため）の言語材料を理解している。ある話題についての内容を、話して伝えあう（書いて伝える、読み取る、聞き取る）技能を身につけている。			
								思 本文に関連する写真やキーワードなどの手助けがあれば、簡単な一連の語句や文を使って、話の要点を伝えることができる 目的などに応じて、ある話題について書かれた文などを読んで（聞いて）、概要や要点を捉えることができる。			
								主 聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。			

3	単語テスト 単語テスト パフォーマンステスト 言語活動	○	○	○	○	○	知 短いはっきりとした簡単なメッセージやアナウンスを聞いて必要な情報を聞き取ることができる。 文章を読み取るため（書いて伝えるため、話して伝えるため）の言語材料を理解している。ある話題についての内容を、話して伝えあう（書いて伝える、読み取る、聞き取る）技能を身につけている。 思 本文に関連する写真やキーワードなどの手助けがあれば、簡単な一連の語句や文を使って、話の要点を伝えることができる。 比較的身近で社会的な事柄について、必要に応じて手助けがあれば、簡単な英語を使って意見交換をすることができる。 目的などに応じて、ある話題について書かれた文などを読んで（聞いて）、概要や要点を捉えることができる。 比較的身近で社会的な事柄について、簡単な語句や表現を用いて、短い説明文を書くことができる。 主 聞き手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	9
---	--------------------------------------	---	---	---	---	---	--	---

7 学習者へのメッセージなど

英語コミュニケーションⅠでは、コミュニケーションの基本である「聞く」「読む」「話す（やり取り）」「話す（発表）」「書く」の5領域の能力を伸ばします。「話す」は「話すこと（やりとり）」と「話すこと（発表）」の2項目に分けて指導と評価を行います。

英語の力を伸ばすために、インプットとアウトプットを繰り返し行うことで、英語を素早く、自然に表現できるようになることを目指します。そのために、英語で何が言えないのか（書けないのか）自分で気がつくことが重要です。英語コミュニケーションⅠの授業では、英語を使う機会を増やすことでその機会を増やすことを目指します。

学校で扱う教材以外にも、英語に触れられる機会が日常生活の中にたくさんあります。テレビ・ラジオの英語講座、英字新聞・雑誌・映画・ドラマなど、自分が楽しみながら英語を学べる素材を探してみるのも良いでしょう。

令和7年度 年間授業計画

科目（講座名）		論理・表現 I	2 単位	必修	学年	1 年
教科書 副教材	Crown Logic and Expression I（三省堂） 文法参考書： Breakthrough 改訂二版 新装版 英文法 3 6 章（美誠社） Breakthrough 改訂二版 新装版 英文法 3 6 章ワークブック（美誠社） Breakthrough 総合英語 改訂二版 新装版（美誠社） リスニング： Focus on Listening Standard（エミル出版）		教科担当			

1 教科の目標

- ①外国語によるコミュニケーションのための知識・技能を働かせ、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝えあったりする資質・能力・態度を育成する。
- ②入試問題に対応できる語彙力・読解力（概要や要点を目的に応じて捉えることができる力）の基礎を作る。

2 科目の目標

- ①日常的な話題について、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて（話して）伝えることができるようにする。
- ②日常的な話題について、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持などを話して伝えあったり、やり取りを通じて必要な情報を得たりすることができるようにする。

3 学習目標

- ①伝えたい内容を書いたり話したりして正確に伝えるための、言語材料（基本的な文法知識、語法）を理解することができる。
- ②情報や考え、気持などを適切な理由や根拠とともに段落を書いて（話して）伝えることができる。またその際、ディスコースマーカ―や導入や順序、対比などの表現を使って論理的に、また展開を工夫して情報や考え、気持を相手に伝えることができる。

4 授業内容と学習方法

- 1 クラスを2グループに分けて授業を行う。1年次では情報や考え、気持などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて（話して）伝えるための、基本的な文法知識や語法を理解することを中心に進める。
- <予習>
参考書の該当範囲を読んでから、テキストの練習問題をノートに解く。疑問点をはっきりさせておき、授業に臨む。
※詳しくは担当の先生の指示を聞くこと
- <授業>
① 学習項目を正確に理解・習得するよう心がけ、予習時の疑問点を積極的に解決する。
- <復習>
① ワークブックの演習をすることで、知識の定着、発展を目指す。

5 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達 目標並び に評価の 観点	自分の意見や主張を伝えるために必要となる論理の構成や展開及び表現を理解している。 自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して詳しく書く技能を身に着けている。	読み手に理解してもらえるように、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えている。	読み手に理解してもらえるように、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えてようとしている。
評価方法	①定期テスト・小テスト	①定期テスト ②パフォーマンステスト[ディスカッション・即興スピーチ（ライティング）を含む]	①授業内での行動観察 （思考・判断・表現の活用における学習状況） ②ワークシート

6 授業計画

期	月	学習内容 (言語材料)	学習活動	領域					評価規準	時数
				聞	読	話	話	書		
1 学期	4	文の種類・文型・時制・完了形	文法学習 自己紹介				○		知 文の種類、文型、時制、完了形について基礎的な規則を理解できている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝える技能を身につけている。	6
									思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝えている。	
									主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。	
	5	助動詞・受動態	文法学習 ルールブック作成				○		知 助動詞・受動態について基礎的な規則を理解できている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能を身につけている。	4
									思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝えている。	
									主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。	
	6	不定詞・動名詞	文法学習 イベントの計画について意見交換する			○			知 不定詞・動名詞について基礎的な規則を理解できている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝える技能を身につけている。	6
									思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝えている。	
									主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。	

	7	分詞	文法学習 おすすめスポットを案内する					○	知 分詞について基礎的な規則を理解できている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能を身につけている。 思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝えている。 主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。	6
夏季休業期間	8	1学期のまとめ	夏季講習 夏季休暇課題						知 思 主	
2学期	9	関係詞	文法学習 健康問題の解決策を提言する					○	知 関係詞について基礎的な規則を理解できている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝える技能を身につけている。 思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝えている。 主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。	6
	10	比較・仮定法	文法学習 交通手段について意見交換する					○	知 比較・仮定法について基礎的な規則を理解できている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝える技能を身につけている。 思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝えている。 主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。	6
	11									
	12	否定	文法学習 環境問題についての意見を書く					○	知 否定について基礎的な規則を理解できている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝える技能を身につけている。 思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝えている。 主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。	8
3学期	1	ディスコースマーカー1 話法	文法学習 過去の印象的な出来事について話す					○	知 ディスコースマーカー・話法について基礎的な規則を理解できている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝える技能を身につけている。	4

																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												</
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

7 学習者へのメッセージなど

論理・表現Ⅰでは、英語で自分の考えや意見を多様な表現や方法で表すための基礎を育成します。コミュニケーションを図る際の正確性を高めると同時に、多様な表現を学びます。

1年生の内はたくさんのインプットを行い、アウトプットするための基礎力を養いましょう。

授業では予習・復習を必ず行い、疑問点を1つも残さないようにしましょう。文法の理解、問題の解法だけでなく、音読の練習も欠かさずに行うことで、「文字」と「音声」をセットにして覚えましょう。外国語を理解するための大切な要素です。

年間授業計画

科目(講座名)		情報Ⅰ	1単位	必修	学年	1年
教科書	数研出版 高等学校 情報Ⅰ		教科担当			
副教材	数研出版 五訂版 これだけ！著作権と情報倫理					

1 教科の目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 科目の目標

効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う

3 授業内容と学習方法

コンピュータの仕組みとその扱いを学習する。
 情報社会に参画する能力を身につけ法規を学び違法行為・犯罪行為・トラブルから身を守る。
 データの活用、情報機器の操作・活用スキルの向上。各単元の「ねらい」を理解し活用できるようにする。
 授業内のプリントや課題の完成。コンピュータの操作方法の学習と習得。実習課題の提出する。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	- 情報や情報メディアの特性をふまえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身につけている。 - 情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任および情報モラルについて理解している。 - アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し、技能を身につけている。	- 情報に関する法規や制度およびマナーの意義、情報社会において個人のはたす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的にとらえ、考察している。 - 目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用するとともに、その過程を評価し改善している。	- 情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。 - 情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。 - 問題の発見・解決にコンピュータを積極的に活用しようとしている。 - 問題解決の結果を振り返り改善しようとしている。
評価方法	レポートの作成 定期テスト 演習課題	演習課題 定期テスト	レポートの作成 演習課題

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	ガイダンス	IDやパスワード、情報機器の使い方 実習	知	ID およびパスワードの役割や重要性について理解している。 情報機器の特徴について理解している。	2
				思	パスワードを自ら作成しその強度について適切に判断できる。 特徴に合わせた情報機器を選択できる	
				主	パスワードの重要性や特徴、ログイン方法について理解しようとしている。	
	5	コミュニケーション と情報デザイン	アナログとデジタル 実習	知	・アナログ情報とデジタル情報のちがいについて理解している。 ・デジタル情報の特徴について理解している。 ・コンピュータでデジタル情報を適切に扱うための技能を身につけている。	2
				思	・アナログ情報とデジタル情報のちがいについて考え、適切に判断している。 ・デジタル情報の特徴や利点について考え、その結果を適切に表現している。	
				主	・アナログ情報とデジタル情報のちがいや特徴について理解しようとしている。	
	6		デジタル情報の表現 文字のデジタル化 実習	知	・ビット、バイトの概念や、デジタル情報の量の単位について理解している。 ・2進法・10進法・16進法の変換のしかたについて理解し、実際に変換を行うことができる。 ・文字コードのしくみについて理解している。 ・文字を文字コードを使って表すことができる。	2
				思	・2進法・10進法・16進法の変換の方法について考え、その結果を適切に表現している。 ・限られたビット数で数値を表現する方法について ・文字を文字コードで表現する方法について考え、その結果を適切に表現している。	
				主	・デジタル情報の表し方について理解し、活用しようとしている。	
	7		音のデジタル化 実習	知	・音のデジタル化のしくみについて理解している。 ・教科書の図のアナログ信号を、手作業で標本化、量子化、コード化して、デジタル情報に変換することができる。	3
				思	・音をデジタル化する方法について考え、その結果を適切に表現している。	
				主	・デジタル情報の表し方について理解し、活用しようとしている。	
			画像のデジタル化 実習	知	・画像のデジタル化のしくみについて理解している。 ・画像を扱うソフトウェアやファイル形式についての知識を身につけている。 ・画像の解像度や階調について理解している。	3
				思	・画像をデジタル化する方法について考え、その結果を適切に表現している。	
				主	・デジタル情報の表し方について理解し、活用しようとしている。	
2 学期	9	コンピュータとプログラミング	コンピュータの構成	知	・コンピュータの基本的な構成について理解し、基本的な操作ができる技能を身につけている。 ・コンピュータ本体のはたらきや補助記憶装置の種類や特徴などについて理解している。 ・CPU が命令を実行するしくみを理解している。	3
				思	・コンピュータの中の CPU やメモリ、補助記憶装置の役割について考えている。 ・コンピュータの能力を適切に判断することができる。	
				主	・コンピュータのしくみを知り、活用しようとしている。	
	10		コンピュータのソフトウェア	知	・OS の役割やアプリケーションプログラムとのちがいについて理解している。 ・ファイルやフォルダを適切に扱うことができる。	3
				思	・ソフトウェアのはたらきについて考えている。	
				主	・OS やアプリケーションなどのソフトウェアを活用しようとしている。	
	11		コンピュータでの数値の 内部表現	知	・コンピュータの内部における数の表現方法について理解している。	4
				思	・浮動小数点数の形式で数を表すことができる。	
				主	・コンピュータの内部における数の表現方法について知ろうとしている。	

	12	データの活用	データベース1	知	・データベースの特徴や機能について理解している。	4
				思	・データベースのはたらきや必要性について考察し、その結果を適切に表現している。	
				主	・データベースの機能やしぐみについて理解しようとしている。	
3 学期	1	データの活用	データベース2	知	・データベース管理システムの機能や、データの損失を防ぐしぐみについて理解している。	4
				思	・データベースのはたらきや必要性について考察し、その結果を適切に表現している。	
				主	・データベースの機能やしぐみについて理解しようとしている。	
	2		データの形式	知	・欠損値、異常値、外れ値などの扱いについて理解している。 ・度数分布表とヒストグラム、データの代表値、分散と標準偏差、散布図と相関係数について、定義や意味を理解している。 ・度数分布表とヒストグラム、データの代表値、分散と標準偏差、散布図と相関係数について、定義に従った式を表計算ソフトウェアに入力し、それらを計算することができる。	5
	3			思	・データを分析する前に、適切なデータの整理を行っている。 ・データの分析において、目的に応じた分析の方法を考え、その結果を適切に表現している。 ・データの分析によって得られた結果から、どのようなことがわかるか考えている。	
				主	・データを整理・分析し活用しようとしている。	

6 学習者へのメッセージなど

情報を学習することはみなさんがいるこの現在のしぐみを学ぶことに近いです。身の回りの出来事や事象に興味をもって取り組んでくれることにより一層理解が深まると思います。覚えることも大事ですが調べることも大切です。分かり易くするために簡略化して説明することもあります。もっと詳しく知りたかったり、わからないことがあったらそのままにせずどんどん調べましょう。そのためにインターネットや情報機器を大いに活用してください。ただし、調べた情報が見方や立場、状況によっては必ずしも正しいとは言えないかもしれません。自分ひとりで考えず周りの人と一緒になって考えてください。最終的に、情報やその手段を理解し使いこなすことができれば、よりよい生活が送れるようになるはずです。

年間授業計画

科目(講座名)	論理国語	2単位	必修	学年	2年
教科書	「論理国語」(筑摩書房)	教科担当			
副教材	「新訂総合国語便覧」(第一学習社)				
	「頻出入試漢字コア2800改訂版」(いっずな書店)				
	「ちくま評論入門 二訂版」(筑摩書房)				
	「近代文学名作選」(明治書院)				
	読解評論文キーワード改訂版(筑摩書房)				
	思考の論理スイッチ3実戦編 (浜島書店)				
	大学入学共通テスト準備演習 論理・文学編(数研出版)				

1 教科の目標

- 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
 - (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
 - (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 科目の目標

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 授業内容と学習方法

授業(学習)内容

- ・体系的に論理的な文章を読むことで、社会的・個人的事象への学問的知識と考察を深める。
- ・異なる形式で書かれた複数の文章や図表等を伴う文章を読み、解釈したことをまとめたり、発表したりして情報活用力、発信力を伸ばす。
- ・漢字や語彙の学習、話し合いや意見の発表等の学習活動を通して、語彙力や表現力、論述力、行動力、創造力を伸ばす。

学習方法

- ・論理的な文章の構成を意識して、テーマの人文科学的位相を理解し、論理的な思考力を高める。
- ・文章や話に含まれている情報について主張と論拠、推論、妥当性等、情報と情報の関係について理解を深める。
- ・課題を解決したり考えを深めたりするために、話を聴き合う場をつくり、表現に留意した上で話し合いを行う。
- ・要約や自分の考えをまとめることを通して、説得力のある文章を書く。
- ・ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするために、語彙を増やし、読書に親しむことを継続する。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	実社会に必要な、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、言語文化に関することや読書等、国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。また、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言語文化に関心をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
評価方法	言葉や漢字、情報、知識等の獲得について、定期考査、課題に対する取り組み状況、提出物、小テスト、出席状況・学習態度などをもとに評価する。	知識や技能を活用して上記の目標達成を評価するために、定期テストや小テストに加えて論述や課題の作成、話し合いや発表等の活動、出席状況・学習態度などをもとに判断する。	知識・技能の獲得や思考力、判断力、表現力等を身に付けるための取り組みや試行錯誤を行おうとしていることを評価するために、定期考査、課題、提出物、小テスト、レポート、アンケート出席状況・学習態度等をもとに総合的に判断する。

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価規準	時数
1 学 期	4	「物語という欲望」(内田樹) 補助教材 ・「テキスト」 ・「読者／作者」	・評論文用語としての「物語」について、知識と理解を深める。 ・本文中のことばの意味を調べて、それらの語を用いて短い文章を書く。 ・「物語」についての評論を探し、発表する。	知 教材を通して、内容を理解するとともに、語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き豊かにしている。 思 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え論点を明確にししながら要旨や要点を把握している。 主 「物語」について関心をもち、調べようとしている。積極的に意見を表現し、他の人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、深めようとしている。	6
	5	「物語という欲望」補助教材 ・「テキスト」 ・「読者／作者」	・評論文用語としての「テキスト」について、知識と理解を深める。 ・本文中のことばの意味を調べて、それらの語を用いて短い文章を書く。 ・「物語」についての評論を探し、発表する。	知 教材を通して、内容を理解するとともに、語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き豊かにしている。 思 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え論点を明確にししながら要旨や要点を把握している。 主 「テキスト」について関心をもち、調べようとしている。積極的に意見を表現し、他の人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、深めようとしている。	6
	6				
	7				
		「物語と歴史の間」(野家啓一)	「物語」と「歴史」という概念についての知識と理解を深める ・関心のある事柄についての「物語」をまとめ、発表する。	知 「物語」と「歴史」について書かれた教材を読んで、内容を理解するとともに主張とその前提や反証など、情報と情報との関係について理解を深めている。 思 評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要約することができる。 主 「物語」に関心をもち、歴史や自己との関係の特質を理解しようとしている。積極的に発表に参加し、自分の考えを広げようとしている。	6

2 学 期	9	「物語としての自己」(野口裕二)	・「自己物語」概念の意義を考える。 ・異なる立場や視点を整理して理解し、社会に対する社会に対する批判的な見方を学ぶ。 ・自分の「物語」と、筆者の考えを振り返り気付いたことを話し合う。	知 「自己物語」についての学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	6
	10			思 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈の多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めることができる。	
				主 教材の内容に関心をもっている。自己物語というものを捉え直し、積極的に話し合おうとしている。話し合いの態度は積極的で、他の人の意見も注意深く聞き、ものの見方、考え方を深めようとしている。	
	11	自己物語に関する補助教材	「自己物語」概念の理解に基づいて、テキストを分析する。 ・異なる立場や視点を整理して理解し、社会に対する社会に対する批判的な見方を学ぶ。 ・自分の「物語」と、筆者の考えを振り返り気付いたことを話し合う。	知 「自己物語」についての学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	6
				思 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈の多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めることができる。	
				主 教材の内容に関心をもっている。自己物語というものを捉え直し、積極的に話し合おうとしている。話し合いの態度は積極的で、他の人の意見も注意深く聞き、ものの見方、考え方を深めようとしている。	
	12	「ビッグデータ時代の『生』の技法」(柴田邦臣)	・「物語」の意義を考え、事例を挙げながら、関心のある社会問題についてまとめる。 ・フーコーの思想について理解している。 ・フーコーのエピステーメについて、話し合う。	知 教材の中の「物語」について理解する。検証する時などに必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	6
				思 現代メディアの「物語」について理解を深め、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めることができる。	
				主 本文について積極的に理解しようとし、社会問題について考えるきっかけにしようとしている。また正・負両面を考え自分の意見を他者に対して分かりやすく表現しようとしている。	
3 学 期	1	「思考の誕生」(蓮實重彦)	・本文を理解し、私たちの身近な場面で思考がどのように認識されているかを調べ発表する。	知 思考の内実について理解している。言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。対比や具体例と主張の関連など情報を読み取る際の工夫を理解している。	14
	2		・本文を理解し、生活の中にある思考にまつわる価値観について具体例をあげて話し合う。	思 「思考」や「物語」という言葉を通して、また、評論文という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。異なる意見を対比して物事を考察しようとしている。	
	3		・「現代日本社会」と読み比べ、差異をまとめ、自分の意見を文章にまとめる。	主 教材の内容に関心を持ち、それを契機に自分の身の回りの問題を考えようとしている。対比や具体例や根拠を活用し、まとめようとしている。発表の態度は積極的で、他の人の発表も注意深く聞き、ものの見方、考え方を広げ、深めようとしている。また書くという行為を通して他者に分かりやすく表現できている。	

6 学習者へのメッセージなど

言葉によって理解し、表現する力を伸ばすために、教材をより深く理解し、読解力、思考力、判断力、表現力を高める努力をしましょう。語彙を増やすために各教材の語句の意味調べ等の予習をしましょう。また副教材での学習、小テスト、読書、休業中の課題等にも着実に取り組みましょう。

本を読み、他者と話し合い、自ら考えていくことで、情報を選ぶ力と発信する力がつき、社会で生きる力が育れます。本校で友人とともに学ぶことが、みなさんの成長につながることを願っています。

(なお上記教材は、省略したり、学ぶ順番を入れ替えたりする場合があります。)

年間授業計画

科目(講座名)	古典探究	3単位	必修・選択	学年	2年
教科書 副教材	「精選古典探究 古文編・漢文編」(三省堂) 「新訂総合国語便覧」(第一学習社) 「体系古典文法九訂版」(数研出版) 「体系漢文」(数研出版) 「わかる・読める・解ける key&poin 古文単語 330 三訂版」(いっぴずな書店) 「3ステップオリジナル問題集 錬成古典(古文・漢文)2+」(尚文出版) 漢文基本ノートβ(浜島書店) リテラ速読レッスン古文vol3・漢文vol3	教科担当			

1 教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 授業内容と学習方法

この授業では、古典などを読んで、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めたり、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高めたり、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させようとする態度や資質を育成することをねらいとしている。そのために、古文・漢文を読むための「伝統的な言語文化に関する理解」について、1年次の「言語文化」で身に付けた能力をさらに深めていく。そのうえで、古典と自己との関わり、現代社会との関わり等について探求的に考察を深めていく。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達 目標並び に評価の 観点	・ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・ 古典の文の成分の順序や文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・ 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。	・ 文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開などを的確に捉え、内容を正確に理解している。 ・ 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察できている。 ・ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	・ 課題に対して積極的に取り組み、学習の成果を出すとともに、次の学習に活かそうとしている。 ・ 古典などを読み、考察したことを、整理し、まとめるとともに、他者に的確に伝える工夫を追求しようとしている。 ・ 課題に対して他者と協働して答えを導き、古典をもとに自身の考えを深めようとしている。
評価方法	定期テスト、小テスト、提出物、発表活動	定期テスト、小テスト、提出物、発表活動	提出物、小テスト、グループワーク、発表活動

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	【古文編】 ・説話 ・随筆（一） ・物語（一）	古典文法の復習 敬語法の確認 ・大江山（古今著聞集） ・徒然草 兼好法師 花は盛りに	知	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 古典に特徴的な語句や敬語法について理解している。 古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解している。	16
	5	【漢文編】 一 史伝	玉勝間 兼好法師が詞のあげつらひ ・竹取物語 「かぐや姫の昇天」 ・杞憂（列子） ・塞翁馬（淮南子）	思	内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 作品や文章の成立した背景などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	
	6	【古文編】 ・物語 【漢文編】 ・漢詩 ・思想	・伊勢物語 「小野の雪」 ・大和物語 「嫉捨」 ・涼州詞 ・送友人 ・登高 ・論語 子曰富与貴…／子曰道之以政…／子貢問政… ・孟子－無恒産而有恒心者／不忍人之心	主	課題に対して積極的に取り組み、学習の成果を出すとともに、次の学習に活かしている。 課題に対する成果をまとめ、他者への伝え方としてわかりやすさや方法について工夫を追求している。 課題に対して他者と協働して答えを導き、作品や文章、言語文化について理解を深めている。	
	7			知	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 古典に特徴的な語句について理解している。 古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解している。 時間の経過や地域・文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。	20
				思	内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 作品や文章の成立した背景などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	
				主	課題に対して積極的に取り組み、学習の成果を出すとともに、次の学習に活かしている。 課題に対する成果をまとめ、他者への伝え方としてわかりやすさや方法について工夫を追求している。 課題に対して他者と協働して答えを導き、作品や文章、言語文化について理解を深めている。	
2 学期	9	【古文編】 ・物語 【漢文編】 ・史伝	・源氏物語 光源氏の誕生〔桐壺〕 北山の垣間見〔若紫〕・ 史記 「鴻門之会」	知	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 古典に特徴的な語句について理解している。 古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解している。	21
	10			思	内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 作品や文章の成立した背景などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、日本の言語文化について自分の考えを持っている。	
				主	課題に対して積極的に取り組み、学習の成果を出すとともに、次の学習に活かしている。 課題に対する成果をまとめ、他者への伝え方としてわかりやすさや方法について工夫を追求している。 課題に対して他者と協働して答えを導き、作品や文章、言語文化について理解を深めている。	
	11	【古文編】 ・歴史物語 【漢文編】 ・史伝	大鏡 弓争ひ／三舟の才 「四面楚歌」 「項王最期」	知	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 古典に特徴的な語句について理解している。 古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解している。 古典に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 日本の言語文化の特質や外国の文化との関係について理解している。	21
				思	内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 作品や文章の成立した背景などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、日本の言語文化について自分の考えを持っている。	
	12			主	予習や課題に対して積極的に取り組み、学習の成果を出すとともに、次の学習に活かしている。 課題に対する成果をまとめ、他者への伝え方としてわかりやすさや方法について工夫を追求している。 課題に対して他者と協働して答えを導き、作品や文章、言語文化について理解を深めている。	

3 学 期	1	【古文編】 ・物語 ・軍記	更級日記 あこがれ／源氏の五十余巻 平家物語 忠度の都落ち／能登殿の最期	知	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを理解している。 古典に特徴的な語句について理解している。 古典の世界に親しむために、作品の歴史的・文化的背景などを理解している。 古典に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解している。 日本の言語文化の特質や中国の文化との関係について理解している。	27
	2	【漢文編】 ・文章	・「漁父辞」 ・「売鬼」	思	内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 作品や文章の成立した背景などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、日本の言語文化について自分の考えを持っている。	
	3			主	予習や課題に対して積極的に取り組み、学習の成果を出すとともに、次の学習に活かしている。 課題に対する成果をまとめ、他者への伝え方としてわかりやすさや方法について工夫を追求している。 課題に対して他者と協働して答えを導き、作品や文章、言語文化について理解を深めている。	

6 学習者へのメッセージなど

正確な文章読解のために、1学年で学習した文法事項や句法といった基礎的な道具を確認し、習熟を図ります。1学期、古文では、用言および助動詞・助詞・敬語法の復習を行い、一層の定着を図ります。漢文では、文の構造および句形定着に力を入れます。1学期末から、2学期にかけて、中古文学女流文学(特に『源氏物語』)の読解を行っていきます。3学期は、これまで学習してきた知識の体系化を目指します。古語の知識を含め、その使い方に習熟するよう努めてください。

2年生の古典で扱う文章は、難易度が一気にあがります。授業においては、予習復習の徹底を心がけてください。

なお、上記の計画や学習内容については、省略したり、学習の順序を入れ替えたりする場合があります。

令和6年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）	日本史探究	2単位	必修	対象学年	2学年
教科書 副教材	・ 詳説日本史探究(山川出版社) ・ 新詳日本史図説(浜島書店) ・ 詳録新日本史史料集成(第一学習社) ・ 詳説日本史探究10分間テスト(山川出版社)	教科担当			

学習の目標

日本史学習の目的は、どの時代を対象にするにしても、現在の日本や社会をより深く理解するための基礎的教養と歴史的考察力を身につけることにあります。私たちにとって大切なことは、現代をよりよく生きる力や未来を展望する能力を高めることであり、そのために必要な知識や方法を過去の出来事や人々の足跡から学び取ることです。この授業では、歴史を構成する一つひとつの“史実”を積み上げながら、“史像”を理解・構想していくことを学んでほしいです。その上で、これからの人生で役立つ汎用的な力を身に付けてもらいたいと考えています。特に、「情報活用力」（選択する力）と「探究心」（考える力）の育成を重視します。

学習到達度規準

学習を終えた時点で、現代社会で起きている諸事象の歴史的背景を理解できている。

授業内容と学習方法

日本史探究は2年生の必修科目である。2年生では2単位で、日本近世史・近代史(前半)の概観と周辺諸地域の近世・近代史(前半)を主に学習する。教科書、資史料集や地図、統計、視聴覚的教材の活用や演習を実施しながら「主体的・対話的で深い学び」につながる授業を進めていく。前半の先史・古代から中世までと近現代(19世紀末以降)は、3年生の「日本史演習Ⅰ」と「日本史演習Ⅱ」で学習し通史を完成させることができる。評価は年5回行われる定期考査を中心に、出席状況・学習態度・課題なども含めて総合的に行う。定期考査は全クラスを共通問題で実施し、知識の整理を目指す内容と、記述力を高める内容の問題を出題する。

観点別学習状況の評価について

	知識・理解	情報活用力	探究心
学習到達目標並びに評価の観点	過去の膨大な歴史事象の中から主題を設定し、時間軸から歴史的事実を理解している。また、周辺諸地域との相互関連性を空間軸から理解している。	複数人による共同作業を通じて、地図、資史料、統計データを正しく読み取って周辺諸地域の形成と交流を考察し、意見交換や意見集約を行って、他者に分かりやすく説明することができている。	授業内容をよく理解し、発展的に課題を見出し、自らの方法で論理的に分析し、解決して他者に伝えることができている。
評価方法	①定期テスト ②小テスト ③発問に対する応答	①定期テスト ②発問に対する応答	①授業内での行動観察（思考・判断・表現の活用における学習状況） ②ワークシート

学習者へのメッセージなど

日本史は先人の歩んできた大きな道筋を辿りながら、現在のわたし達が生きる日本の形成過程を知る科目です。新聞やニュース等をよく見ると、日本史で学習した内容が最新の出来事に大きく関わりを持っていることを知ることがあります。常に歴史の視点を持って、世界を見つめて下さい。

授業計画

学期	月	単 元	配当時間	学 習 内 容	学習上の留意点
1 学 期	4 5	日 本 文 化 の あ け ぼ の	1 5	文化の始まり／農耕社会の成 立 (中間考査)	旧石器文化から弥生文化の過程を 理解する。日本文化の始まりの特質を 理解する。
	6 7	日 本 文 化 の あ け ぼ の・律令国 家の形成	1 8	古墳とヤマト政権／飛鳥の調 停 (期末考査)	古墳文化の特質とヤマト政権を学習。 古代国家が如何にして安定を得たの かと、その上での発展を理解する。
2 学 期	9 10	律 令 国 家 の形成	1 6	律令国家への道／平城京の時 代 (中間考査)	律令国家体制形成の実態と、対外危機 の中での古代日本の外交について理 解する。
	11 12	律 令 国 家 の形成	1 5	天平文化／平安王朝の形成 (期末考査)	天平文化についての理解と、民衆の動 向・律令体制の変化についても理解す る。
3 学 期	1 2 3	貴族政治と 国風文化・ 中世社会の 成立	1 5	摂関政治／国風文化／地方政 治の展開と武士／院政と平氏 の台頭 (学年末考査)	摂関政治からと平氏政権への一連の 経緯をよくまとめること。源平の争乱 を経て、本格的な武家政権が誕生して いく流れについて理解する。・

年間授業計画

科目（講座名）		世界史探究	2 単位	必修	対象学年	2 学年
教科書 副教材	世界史探究（東京書籍） 世界史用語集（山川出版社） ニューステージ世界史詳覧（浜島書店）		教科担当			

学習の目標

複雑化した現代を知るためには過去を知ることが必要である。その現代は、その多くを近世・近代に源流を持っている。今日の世界がどのように形成され、現代にどのような影響を及ぼしたかを考察しながら、3年生の選択授業「世界史演習Ⅱ」（主に現代史を学習する）、「世界史演習Ⅰ」（主に古代・中世を学習する）へとつながる授業を行う。

学習到達度規準

学習を終えた時点で、現代社会で起きている諸事象の歴史的背景を理解できている。

授業内容と学習方法

世界史探究は2年生の必修科目である。2年生では2単位で、ユーラシア諸帝国の概観とヨーロッパ、アメリカ大陸の近世・近代史を主に学習する。教科書、資史料集や地図、統計、視聴覚的教材の活用や演習を実施しながら「主体的・対話的で深い学び」につながる授業を進めていく。前半の先史・古代から中世までと近現代(19世紀末以降)は、3年生の「世界史演習Ⅰ」と「世界史演習Ⅱ」で学習し通史を完成させることができる。評価は年5回行われる定期考査を中心に、出席状況・学習態度・課題・レポートなども含めて総合的に行う。定期考査は全クラスを共通問題で実施し、知識の整理を目指す内容と、記述力を高める内容の問題を出題する。

観点別学習状況の評価について

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	過去の膨大な歴史事象の中から主題を設定し、時間軸から歴史的事実を理解している。また、諸地域世界の相互の関連を空間軸から理解している。	複数人による共同作業を通じて、地図、資史料、統計データを正しく読み取って諸地域世界の形成と交流を考察し、意見交換や意見集約を行って、他者に分かりやすく説明することができている。	授業内容をよく理解し、発展的に課題を見出し、自らの方法で論理的に分析し、解決して他者に伝えることができている。
評価方法	①定期テスト ②小テスト ③発問に対する応答	①定期テスト ②発問に対する応答	①授業内での行動観察（思考・判断・表現の活用における学習状況） ②ワークシート

学習者へのメッセージなど

世界史は人類の歩んできた大きな道筋を辿りながら、現在のわたし達が生きる世界の形成過程を知る科目です。新聞やニュース等をよく見ると、世界史で学習した内容が最新の出来事に大きく関わりを持っていることを知ることがあります。常に歴史の視点を持って、世界を見つめて下さい。

授業計画

学期	月	学 習 内 容	学習活動	評価基準		時数
1 学 期	4	・古代史、中世史の概観	・ポルトガルがアジアに進出した理由と、そのことがアジアの交易世界にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・スペインがアメリカやアジアに進出した理由と、そのことが世界の交易のあり方をどのようにかえたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。	知	・アジア海域での交易の興隆、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解している。	15
	5	第11章 大交易時代と世界の一体化 1 アジア交易圏の再編と活況 2 ポルトガルのアジア進出 3 明・日本・朝鮮の動向 (中間考査) 4 一体化に向かう世界 5 大交易時代の世界		思	・諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、アジア海域での交易の特徴、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
				主	・「大交易時代と世界の一体化」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
1 学 期 夏 季	6	第13章 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大 1 主権国家群の形成と宗教改革 2 オランダの繁栄と英仏の国家形成 (期末考査) 3 商業覇権と植民地建設	・近世の主権国家はどのような特徴をもっているのか、また国家の形成と宗教にはどのようなかわりがあったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・ヨーロッパ諸国の貿易と植民地建設は、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ大陸にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。	知	・宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想などを基に、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。	15
	7	ルネサンスについての探究		思	・ヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、宗教改革の意義、大西洋両岸諸地域の経済的連関の特徴、主権国家の特徴と経済活動との関連、ヨーロッパ社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
				主	・「主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大」の内容に対し、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	
2 学 期	9	4 啓蒙専制国家の発展 5 近世ヨーロッパの社会と文化	・イギリスで産業革命がはじまった原因について、多面的・多角的に考察し、表現する。	知	・産業革命と環大西洋革命、自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。	

	10	第14章 国民国家と近代社会の形成 1 産業革命と工業化 (中間考査) 2 アメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国の独立	・北アメリカの政治変革によって、どのような権利が獲得され、権利が認められなかったのはどのような人々だったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。	思 主	・大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・「国民国家と近代社会の形成」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	15
	11 12	3 フランス革命とウィーン体制 (期末考査)	・フランス革命の展開と他国への影響について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・産業革命と環大西洋革命についての自らの学習を振り返り、学びを深める。	知 思 主	・フランス革命とナポレオン帝政、他国への影響、ウィーン体制について、諸資料から読み取り、理解している。 ・フランス革命の展開と他国への影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・「フランス革命とウィーン体制」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	15
3 学 期	1 2 3	4 自由主義の台頭と新しい革命の波 5 19世紀後半のヨーロッパ諸国 6 南北アメリカの発展 (年度末考査)	・1848年にヨーロッパ諸国でおこった出来事の背景と、それによって明らかになった課題はどのようなものだったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。	知 思 主	・自由主義・社会主義の台頭や、1848年諸革命などの時代の転換、19世紀半ばまでの文化と思想について、諸資料から読み取り、理解している。 ・1848年にヨーロッパ諸国でおこった出来事の背景と、それによって明らかになった課題はどのようなものだったかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・「19世紀後半のヨーロッパ諸国」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。	15

年間授業計画

科目(講座名)		数学Ⅱ	3単位	必修	学年	2年
教科書	数研出版	数学Ⅱ	教科担当			
副教材	数研出版	チャート式基礎からの数学Ⅱ+B+C				
	数研出版	サクシード数学Ⅱ+B+C				
	数研出版	メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C 受験編				

1 教科の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的に論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 科目の目標

指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

3 授業内容と学習方法

指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて、「数学Ⅰ」で学んだ内容を発展、拡充させることで、さらに深く学ぶ。授業では予習と復習を前提とし、「例」と「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。また、サクシードやチャートおよび大学入試の問題も扱い、教科書で学んだことの習熟を図り、応用力をつける。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
学習到達目標並びに評価の観点	指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価方法	・定期考査、課題テスト	・定期考査、課題テスト	・ノートやレポートなどの提出物 ・出席状況、学習態度、授業時間中における問題の取り組み方

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	第 4 章 『三角関数』	第 1 節「三角関数」 4. 三角関数のグラフ 5. 三角関数の応用	知	○ $y=\sin(k\theta+\alpha)$ の形の関数の式を適切に変形して、グラフや周期を考察することができる。 ○三角関数を含む方程式・不等式の解き方を理解している。 ○三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。	8
				思	○三角関数の性質を、グラフの特徴とともに考察することができる。 ○三角関数を含む方程式・不等式を解く際に、単位円やグラフを図示して考察することができる。 ○変数をおき換えることで、三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察することができる。	
				主	○周期関数に興味をもち、その性質を調べようとする。 ○三角関数を含む方程式・不等式の解くことに取り組む意欲がある。 ○やや複雑な三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることに取り組む意欲がある。	
				第 2 節「加法定理」 6. 加法定理 7. 加法定理の応用 8. 三角関数の合成	知	○加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。 ○正接の加法定理を利用して、2 直線のなす角の鋭角を求めることができる。 ○2 倍角、半角の公式を利用して、様々な問題を解くことができる。 ○ $a\sin\theta+b\cos\theta$ を $r\sin(\theta+\alpha)$ の形に変形する方法(三角関数の合成)を理解している。 ○合成後の変数のとる値の範囲に注意して、 $a\sin x+b\cos x=k$ の形の方程式や不等式を解いたり、関数の最大値・最小値を求めたりすることができる。
	思	○角を弧度法で表した場合にも、加法定理が適用できる。 ○正接の定義と加法定理を利用して、2 直線のなす角を考察することができる。 ○3 倍角の公式を、 $3\alpha=2\alpha+\alpha$ としてとらえることで証明することができる。 ○2 倍角の公式を利用して、やや複雑な三角関数を含む方程式・不等式の角を統一して考察することができる。 ○ $a\sin\theta+b\cos\theta$ の変形にあたり、同じ周期をもつ 2 つの関数の合成であることを理解している。				
	主	○加法定理を利用して、平面上の点を回転させたときの座標の求め方を考察しようとする。 ○加法定理から、2 倍角の公式、半角の公式を導こうとする。 ○和と積の公式に関心を示し、その公式を用いて三角関数の値を求めたり、三角方程式の解を求めたりしようとする。 ○同じ周期をもつ 2 つの関数 $y=\sin x$ と $y=\cos x$ を合成するとそのグラフは位相がずれた正弦曲線になることに興味・関心をもつ。				
	5	第 5 章 『指数関数と対数関数』	第 1 節「指数関数」 1. 指数の拡張 2. 指数関数		知	○指数が整数、有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を用いた計算をすることができる。 ○累乗根の定義を理解し、累乗根の計算ができる。 ○底と 1 の大小に注意して、指数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。 ○ $a^x>0$ に注意して、おき換えによって指数方程式・不等式を解くことができる。
				思	○累乗根をグラフによって考察することができる。 ○指数が整数の場合だけではなく、無理数の場合まで拡張して、累乗の定義を理解している。 ○指数関数の増減によって大小関係や不等式・方程式を考察することができる。	
				主	○指数法則が成り立つようにするには、0 乗、負の整数乗、分数乗をどのように定義すればよいかと調べようとする。 ○負の数の n 乗根に興味を示し、具体的に理解しようとする。 ○指数関数のグラフの概形を、点をプロットしてかこうとする意欲がある。	
				6		第 2 節「対数関数」 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数
思	○指数法則から、対数の性質を考察することができる。 ○対数関数の増減によって大小関係や方程式・不等式を考察することができる。 ○真数が正であることに着目し、対数の性質を適切に利用して問題を解決することができる。 ○非常に大きな数や小さな数の取り扱いが楽になる常用対数の有用性を考察することができる。 ○桁数や小数首位が第 n 位の数を、不等式で表現することができる。					
主	○指数と対数との相互関係に興味・関心をもつ。 ○やや複雑な対数方程式、対数不等式に積極的に取り組もうとする。 ○桁数や小数首位の問題を一般的に考察しようとする。 ○バクテリアの分裂など、現実世界の問題を、常用対数を用いて解こうとする。					
7						

2 学 期	8	第 6 章 『微分法と積分法』	第 1 節「微分係数と導関数」 1. 微分係数 2. 導関数	知	○平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。 ○微分係数の図形的意味を理解している。 ○定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。 ○導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。 ○導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。また、微分係数の値などから関数を決定することができる。	5
				思	○関数の極限値の性質を直感的に理解し、その性質を利用して関数の極限値を考察することができる。 ○導関数を表す種々の記号を理解していて、それらを適切に使って表現することができる。	
				主	○平均の速さと瞬間の速さに興味をもち、平均変化率や微分係数との関連を考察しようとする。 ○種々の関数の極限値を、興味・関心をもって考察しようとする。 ○二項定理を利用して関数 x^n の導関数の公式の証明を、興味・関心をもって理解しようとする。	
	9		第 2 節「導関数の応用」 3. 接線 4. 関数の値の変化 5. 最大値・最小値 6. 関数のグラフと方程式・不等式	知	○接点の x 座標が与えられたとき、接線の方程式を求めることができる。 ○曲線の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解している。 ○導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。 ○導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。 ○関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。 ○導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 ○最大・最小の応用問題では、変数のとり方、定義域に注意している。 ○導関数を利用して、最大値・最小値の応用問題を解くことができる。 ○不等式 $f(x) \geq 0$ を、関数 $y=f(x)$ の最小値が 0 以上と読み替えることができる。 ○導関数を利用して、方程式の実数解の個数問題、不等式の証明問題を解くことができる。	15
				思	○微分係数の図形的な意味と、直線の方程式の公式から、接線の方程式の公式を考察することができる。 ○定点 C から曲線に接線を引くとき、接点 A における接線が点 C を通ると読み替えて考察することができる。 ○関数の増減を接線の傾きから考察することができる。 ○関数の増減や極値を調べるのに、増減表を書いて考察することができる。 ○関数の極値から関数を決定する際に、必要十分条件に注意して考察することができる。	
				主	○最大値・最小値と極大値・極小値の違いを意識して考察することができる。 ○方程式の実数解の個数を、関数のグラフと x 軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。 ○不等式を関数のグラフと x 軸との上下関係に読み替えて考察することができる。	
	10			主	○曲線の点から曲線に引いた接線の方程式や接点の座標を求めようとする。 ○関数の増減や極値の問題を導関数を用いて調べ、解決しようとする。 ○4 次関数の増減や極値を調べたり、グラフをかいたりする意欲がある。 ○身近にある最大値・最小値の問題を、微分法を利用して解決しようとする。 ○方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。	
	11		第 3 節「積分法」 7. 不定積分 8. 定積分 9. 面積	知	○不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさずに示すことができる。 ○不定積分の定義や性質を理解し、それを利用する不定積分の計算方法を理解している。 ○与えられた条件を満たす関数や曲線の方程式を、不定積分を利用して求めることができる。 ○定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。 ○定積分は定数であることを理解し、それを利用して、定積分を含む関数を求めることができる。 ○上端が変数 x である定積分で表された関数を微分して処理することができる。 ○直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 ○上下関係が入れ替わる 2 曲線で囲まれた面積を求めることができる。 ○絶対値のついた関数の定積分の計算方法を理解している。 ○3 次関数のグラフとその接線で囲まれた部分の面積を求めることができる。	10
				思	○微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる。 ○定積分が、図形の計量に関して有用であることを認識することができる。 ○定積分の計算で、分数計算を容易にするための工夫を考察することができる。 ○上端が x である定積分を、 x の関数ととらえて問題を解決することができる。 ○面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかいて考察することができる。 ○放物線と直線の交点の座標が複雑な値であるとき、放物線と直線で囲まれた部分の面積を、定積分の公式を利用するなどして、工夫して求める方法を考察することができる。 ○微分や定積分の計算で、 $[(x+a)^n]'$ の導関数や不定積分の公式を利用するなどして、計算を工夫して行う方法を考察することができる。	

	12			主	○積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めようとする。 ○面積 $S(x)$ が関数 $f(x)$ の 1 つの不定積分であることに興味・関心をもち、考察しようとする。 ○直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分を用いて求めようとする。 ○微分や定積分の計算で、$[(x+a)]^n$ の導関数や不定積分の公式を利用するなどして、計算を工夫して行う方法を考察することができる。 ○微分積分学の基本定理について、興味・関心をもち、考察しようとする。	
3 学期	1	理系 発展的な学習 『関数・極限』	発展的な学習 「関数」 1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数	知	○分数関数の定義について理解し、関数を適切に変形して、そのグラフをかくことができる。 ○分数関数のグラフと直線の共有点の座標が求められる。 ○分数不等式を解くことができる。 ○無理関数の定義について理解し、関数を適切に変形して、そのグラフをかくことができる。また、値域が求められる。 ○無理関数のグラフと直線の共有点の座標が求められる。 ○無理不等式を解くことができる。 ○逆関数の定義を理解し、種々の関数の逆関数を求められる。 ○$h=f(a)$と$a=f^{-1}(b)$が同値であることを理解している。 ○合成関数の定義を理解し、種々の関数の合成関数を求められる。	10
				思	○分数関数のグラフと直線の共有点の座標を、連立方程式の実数解に読み替え考察できる。 ○分数不等式の解を分数関数のグラフと直線の上下関係に読み替え考察できる。 ○無理関数 $y=\sqrt{ax}$ のグラフを放物線の一部として理解し、対称移動の考え方で $y=-\sqrt{ax}$ などのグラフを考察できる。 ○無理関数のグラフと直線の共有点の座標を、連立方程式の実数解に読み替え考察できる。 ○無理不等式の解を無理関数のグラフと直線の上下関係に読み替え考察できる。 ○逆関数の定義から、逆関数の定義域・値域や性質を考察できる。 ○2 つの関数を続けて作用させた関数を、合成関数という 1 つの関数として考察できる。	
				主	○方程式や不等式の考察に、積極的に関数のグラフを活用しようとする。 ○方程式の同値変形について考察し、理解を深めようとする。 ○方程式や不等式の考察に、積極的に関数のグラフを活用しようとする。 ○逆関数、合成関数の考え方に興味、関心を示す。	
	2		発展的な学習 「極限」 1. 数列の極限 2. 無限等比数列 3. 無限級数 4. 関数の極限 5. 三角関数と極限	知	○収束する数列の極限値の性質を理解し、それを用いて数列の極限が求められる。 ○不定形を解消するように数列の式を変形することにより、数列の収束、発散を調べることができる。 ○無限等比数列の極限が求められる。また、無限等比数列の収束・発散を利用して、さまざまな数列の極限が求められる。 ○無限等比数列の収束条件を理解し、それを利用できる。 ○漸化式で表された数列の一般項を求め、その極限値が求められる。 ○無限級数の和とは、部分和の作る数列の極限であることを理解し、無限級数の収束、発散をその部分和から調べられる。 ○無限等比級数の収束、発散を、公比の値で調べられる。また、無限等比級数の収束条件を理解し、それを利用できる。 ○無限級数の和の性質について理解しそれを用いて無限級数の和が求められる。 ○無限級数の収束、発散を判定する条件を理解し、それを利用できる。	10
				思	○工夫して式変形することにより、数列の極限を求めることができる。 ○数列の極限が簡単に求められない場合に、数列の極限の大小関係 (はさみうちの原理) を用いて、極限が求められる。 ○無限等比数列の極限を、公比の値で場合分けして考察できる。 ○漸化式で表された数列の項の決まり方を、グラフを利用して視覚化することで、極限を考察できる。 ○無限等比級数の収束、発散を、既習である等比数列の和の極限を調べることで考察できる。 ○繰り返しを含む図形的な問題を、無限等比級数を活用して考察することができる。 ○循環小数が無限等比級数の形に表されることを理解し、無限等比級数の考えを用いて、循環小数を分数で表すことができる。	
	3			主	○簡単な無限数列の極限を、グラフなどで直観的に考察しようとする。 ○漸化式で表された数列の極限をグラフで視覚化する方法に、興味、関心をもつ。 ○「項を無限に加える」ということを、数学的に定義する方法を理解しようとする。 ○繰り返しを含む図形的な問題に興味をもち、無限等比級数を利用して考察しようとする。	

3 学 期	1	文系 入試問題演習	入試問題演習	知	○数学ⅠAⅡBCで学習した様々な公式や定理を理解し、問題に応じて適切に活用して問題を解くことができる。 ○模範解答から、問題を解決するポイントが既習事項のどの分野にあるのか見極めることができる。	20
	2			思	○数学ⅠAⅡBCで学習した様々な公式や定理を問題に合わせて組み合わせ活用したり、形を変えて活用したりすることができる。 ○難解な入試問題であっても、既習事項に結び付けて考察し、解決の糸口を見つけることができる。	
	3			主	○入試問題であっても、多面的・多角的に問題を考察し、既習内容から問題を解決しようとする粘り強い態度で取り組むことができる。 ○模範解答や解説に頼ることなく、自分で問題を解決しよう取り組むことができる。	

6 学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることです。教科書は最小限の学習内容と心得て、参考書やプリントなどの教科書＋αの内容の問題演習を必ず行ってください。また、数学は積み重ねの学問です。中学校で学習した内容や日々の授業で学んだ内容に漏れがあると学習内容を理解することが困難になることでしょう。課せられた問題集の問題を解き進めつつも、授業の予習と復習をきちんと忘れずに、自力で「解き進めていける」学習姿勢で臨んでください。

年間授業計画

科目(講座名)		数学B	2単位	必修	学年	2年
教科書 副教材	数研出版 数学B 数研出版 チャート式基礎からの数学Ⅱ+B+C 数研出版 サクシード数学Ⅱ+B+C 数研出版 共通テスト対策・短期完成 統計的な推測ノート 数研出版 メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C 受験編		教科担当			

1 教科の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的に論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 科目の目標

数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

3 授業内容と学習方法

数列、統計的な推測について、「数学Ⅰ」、「数学A」で学んだ内容を発展、拡充させることで、さらに深く学ぶ。

授業では予習と復習を前提とし、「例」と「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。また、サクシードやチャートおよび大学入試の問題等も扱い、教科書で学んだことの習熟を図り、応用力をつける。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
学習到達目標並びに評価の観点	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活との関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価方法	・定期考査、課題テスト	・定期考査、課題テスト	・ノートやレポートなどの提出物 ・出席状況、学習態度、授業時間中における問題の取り組み方

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学 期	4	第 1 章 『数列』	オリエンテーション	知	○数列に関する用語、記号を適切に用いることができる。 ○数列の定義、表記について理解している。	
	5			思	○数列の一般項を表す式を、定義域が自然数である n の関数と捉え、新しい概念である数列を、既習の関数と関連付けて考察できる。	
	6			主	○数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。	
2 学 期	8	第 1 章 『数列』	第 1 節 「数列とその和」 1. 数列 2. 等差数列とその和 3. 等比数列とその和 4. 和の記号 Σ 5. 階差数列 6. いろいろな数列の和	知	○等差数列の公差、一般項などを理解している。また、条件から等差数列の一般項を決定できる。 ○等差数列の和の公式を適切に利用して、等差数列の和が求められる。 ○等比数列の公比、一般項などを理解している。また、条件から等比数列の一般項を決定できる。 ○等比数列の和の公式を適切に利用して、等比数列の和が求められる。 ○等比数列の和に関する条件から、初項や公比が求められる。 ○和の記号 Σ の意味を理解し、数列の和が求められる。 ○数列の第 k 項を k の式で表すことで、初項から第 n 項までの和が求められる。 ○階差数列について理解し、それを利用して、もとの数列の一般項が求められる。 ○数列の和と第 n 項の関係を理解し、数列の一般項が求められる。 ○和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。	10
	9			思	○数の並び方からその規則性を推測して、数列の一般項を考察できる。 ○等差数列の項を書き並べて、隣接する項の関係やその和について考察できる。 ○項の正負と数列の和の増減の関係から、等差数列の和の最大、最小について考察することができる。 ○等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係やその和について考察できる。 ○ Σ の性質を利用して、和の計算を簡単に行うことができる。 ○数列の規則性の発見に、階差数列が利用できる。 ○初項から第 n 項までの和に着目して、一般項を考察できる。 ○ $r(k+1)-r(k)$ を用いる和の求め方を理解し、具体的な問題に活用することができる。	
				主	○等差中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。 ○等比中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。 ○複利計算に興味、関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。 ○自然数の 2 乗の和や 3 乗の和の公式を導こうとする意欲がある。 ○数列の規則性を、隣り合う 2 項の差を用いて発見しようとする。 ○群数列に興味をもち、一般項や和について考察しようとする。	
	10		第 2 節 「数学的帰納法」 7. 漸化式と数列 8. 数学的帰納法	知	○漸化式の意味を理解し、具体的に項が求められる。 ○初項と漸化式から数列の一般項が求められる。 ○数学的帰納法を用いて、等式を証明できる。 ○数学的帰納法を用いて、整数の性質を証明できる。 ○数学的帰納法を用いて、不等式を証明できる。	13
	11			思	○漸化式を適切に変形して、数列の特徴を考察することができる。 ○与えられた条件から a_n と a_{n+1} の間に成り立つ漸化式を求めて考察することができる。 ○自然数 n に関する命題の証明には、数学的帰納法が有効なことを理解し、活用することができる。 ○数列の一般項を推測し、それが正しいことの証明に数学的帰納法を活用することができる。 ○数学的帰納法で証明した命題について、別の方法で証明してそれらと比較するなど、多面的に考察することができる。	
	12			主	○おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について考察しようとする。 ○確率の問題に漸化式が利用できることに興味、関心をもち、問題解決に利用しようとする。 ○数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。	

3 学 期	1	第2章 『統計的な推測』	第1節「確率分布」 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の変換 4. 確率変数の和と期待値 5. 独立な確率変数と期待値・分散 6. 二項分布 7. 正規分布	知	○確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 ○簡単な試行について、確率変数の確率分布を求めることができる。 ○確率変数の期待値、分散、標準偏差が求められる。 ○確率変数の変換式を理解し、それを利用して、期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 ○同時分布の意味を理解し、2つの確率変数の同時分布表を求めることができる。 ○確率変数の和の期待値などを、公式を利用して求められる。 ○確率変数の独立について理解し、等式を用いて表すことができる。 ○事象の独立・従属について理解し、条件付き確率や乗法定理の計算から事象の独立・従属を導くことができる。 ○独立な確率変数の積の期待値、和の分散が求められる。 ○反復試行の結果を、二項分布を用いて表すことができる。 ○二項分布に従う確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 ○連続的な確率変数について理解し、確率変数の確率、期待値、分散が求められる。 ○標準正規分布に従う確率変数 Z についての確率が求められる。	
				知	○正規分布に従う確率変数 X を標準正規分布に従う確率変数 Z に変換して確率が求められる。 ○二項分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。	
3 学 期	2			思	○確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて、確率分布の特徴を考察することができる。 ○確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係が捉えられている。 ○反復試行の結果を、二項分布を用いて考察することができる。 ○正規分布の特徴を理解し、さまざまな視点から捉えられる。 ○日常の身近な問題を統計的に処理するのに正規分布を利用できる。	17
				主	○確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることのよさに気づき、確率分布について積極的に考察しようとする。 ○確率変数の期待値、分散、標準偏差の意味を理解し、進んで確率分布の特徴を調べようとする。 ○確率変数の期待値、分散に関する公式を、その定義や既知の公式を用いて導こうとする。 ○確率変数の変換式を、期待値、分散、標準偏差の定義式から導こうとする。 ○確率変数の同時分布、和の期待値の計算に積極的に取り組もうとする。 ○独立・従属の観点で事象を考察することに興味をもち、乗法定理を事象の独立・従属の観点から考えようとする。 ○二項分布に興味、関心をもち、さいころを投げるなどの具体的事項について考察しようとする。 ○連続的な確率変数である正規分布に興味をもち、正規分布について積極的に考察しようとする。	
			第2節 「統計的な推測」 8. 母集団と標本 9. 標本平均とその分布 10. 推定 11. 仮説検定	知	○母集団分布と大きさ1の無作為標本の確率分布が一致することを理解し、母平均、母標準偏差が求められる。 ○母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差が求められる。 ○標本平均の分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。 ○大数の法則について理解している。 ○推定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。 ○信頼区間の考え方をういて、母平均や母比率の推定ができる。 ○仮説検定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。 ○仮説検定の意味を理解し、正規分布を用いた仮説検定ができる。 ○母平均に対する仮説検定ができる。	
				思	○無作為抽出の方法について、具体的に考察することができる。 ○母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。 ○推定や信頼区間の考え方がわかる。 ○片側検定と両側検定の違いを理解し、適切に活用することができる。	11
				主	○実際に行われているさまざまな調査に興味をもち、それぞれの調査の特徴を調べたり考えたりしようとする。 ○大数の法則に興味をもち、標本の大きさ n が大きくなるときの分布曲線の変化を、コンピュータなどを用いて積極的に調べようとする。 ○母平均や母比率の推定に関心を示す。 ○仮説検定によってさまざまな判断ができることに興味をもち、現実の問題の解説に役立てようとする。	

6 学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることです。教科書は最小限の内容と心得て、参考書やプリントなどの教科書＋ α の内容の問題演習を必ず行ってください。また、数学は積み重ねの教科です。「数学Ⅰ」や「数学A」で学習した内容や日々の授業で学んだ内容に漏れがあると授業についていけなくなりますので、授業の予習と復習を怠らない学習姿勢で臨んでください。

年間授業計画

科目(講座名)		数学C	1単位	必修	学年	2年
教科書	数研出版 数学C	教科担当				
副教材	数研出版 チャート式基礎からの数学Ⅱ+B+C					
	数研出版 サクシード数学Ⅱ+B+C					
	数研出版 メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C 受験編					

1 教科の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的に論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 科目の目標

ベクトル、数学的な表現の工夫について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

3 授業内容と学習方法

ベクトル、数学的な表現の工夫について、「数学Ⅰ」、「数学A」で学んだ内容を発展、拡充させることで、さらに深く学ぶ。授業では予習と復習を前提とし、「例」と「例題」の解説及び「問」の学習によって理解を深める。また、サクシードやチャートおよび大学入試の問題も扱い、教科書で学んだことの習熟を図り、応用力をつける。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
学習到達目標並びに評価の観点	ベクトル、数学的な表現の工夫についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価方法	・定期考査、課題テスト	・定期考査、課題テスト	・ノートやレポートなどの提出物 ・出席状況、学習態度、授業時間中における問題の取り組み方

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	第1章 「平面上のベクトル」	第1節「平面上のベクトルとその演算」 1. 平面上のベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積	知	○有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解している。 ○ベクトルの向き、相等について理解している。 ○ベクトルの演算の仕組みを理解し、ベクトルについて、加法、減法、実数倍を考察することができる。 ○ベクトルの平行条件を理解し、1つのベクトルと同じ向きの単位ベクトルを式で ○ベクトルの分解について理解し、ベクトルを2つのベクトルの1次結合の形に表現できる。 ○成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。	
1 学期	5				○成分表示されたベクトルを、2つのベクトルの1次結合の形に表現できる。 ○点の座標とベクトルの成分の関係について理解している。 ○内積は実数であることを理解している。 ○大きさとなす角でベクトルの内積を計算することができる。また、成分表示されたベクトルの内積を計算することができる。 ○ベクトルのなす角を、内積を利用して求めることができる。 ○ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。 ○内積の性質を理解し、計算に利用できる。	7
				思	○ベクトルの演算において成り立つ法則について、考察することができる。 ○和や差における逆ベクトルや零ベクトルの役割を理解している。 ○ベクトルの平行条件を、成分表示されたベクトルにも適用し、成分を求めることができる。 ○点の座標とベクトルの成分の関係を、座標平面上の図形の問題に活用できる。 ○ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 ○内積の性質を用いて、ベクトルの大きさやなす角を求めることができる。	
				主	○平面上の図形の移動、力、速度など身近な例からベクトルで表されるものを見つけようとする。 ○ベクトルの演算に興味をもち、数式の演算法則との類似性を考察しようとする。 ○座標平面上の図形の問題について、ベクトルを活用して解く解法を知り、ベクトルを用いない場合の解法と比較して考察しようとする。 ○三角形の面積が内積で表せることに興味をもち、問題解決に利用しようとする。	
1 学期	6	第2章 「空間のベクトル」	第2節「ベクトルと平面図形」 5. 位置ベクトル 6. ベクトルと図形 7. ベクトル方程式	知	○点の位置を、基準となる点と1つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。 ○線分の内分点、外分点、三角形の重心を位置ベクトルで表す公式を理解している。 ○3点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。 ○線分上の点を、線分を $s:(1-s)$ に内分する点として処理できる。 ○直線のベクトル方程式について、媒介変数を用いて表すことができる。 ○通る1点と法線ベクトルから直線の方程式を求めることができる。 ○ベクトルを用いて2直線のなす角を求めることができる。 ○円や円の接線のベクトル方程式を理解している。	9
				思	○位置ベクトルを活用して、図形の性質が考察できる。 ○図形の性質をベクトルで表現して扱うことができる。 ○ベクトルの分解の一意性を理解し、計算に利用できる。 ○垂直条件をベクトルの内積で表現して考察できる。 ○直線上の点を位置ベクトルで考察し、直線のベクトル方程式と関連付けることができる。 ○点が線分AB上に存在する条件を活用して、点Pの存在範囲を考察することができる。	
				主	○線分ABを $m:n$ に外分する点の位置ベクトルを表す式が、 m と n の大小関係に関わらず同じであることに興味をもち、確かめようとする。 ○位置ベクトルを用いて、平面図形についての命題を証明しようとする。 ○ベクトルを用いて円の性質を考察する意欲がある。 ○点と直線の距離の公式が、ベクトルを利用して導けることに興味をもち、公式を証明しようとする。	
			1. 空間の座標 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. 位置ベクトル 6. ベクトルと図形 7. 座標空間における図形	知	○空間における図形を、座標を利用して示すことができる。 ○座標空間において、点の座標、2点間の距離などが求められる。 ○空間図形において、ベクトルの和や差を考察することができる。 ○空間のベクトルを、3つのベクトルの1次結合の形に表現できる。 ○成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。 ○成分表示されたベクトルを、3つのベクトルの1次結合の形に表現できる。 ○点の座標とベクトルの成分の関係について理解している。 ○立体図形におけるベクトルの内積を、適切な方法で計算できる。 ○ベクトルのなす角を、内積を利用して求めることができる。 ○ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。	12

1 学 期	7	第5章 「数学的な表現の工夫」	1. データの表現方法の工夫 2. 行列による表現 3. 離散グラフによる表現 4. 離散グラフと行列の関連		○位置ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解して、それらを利用できる。 ○空間において3点が一直線上にあるための条件を理解している。 ○ベクトルの分解の一意性を理解し、計算に利用できる。 ○ある点が3点で定まる平面上にあるための必要十分条件を理解し、それを利用することができる。 ○座標空間における線分の内分点・外分点などの座標が求められる。 ○座標軸に垂直な平面の方程式、球面の方程式について理解している。	5
				思	○空間のベクトルを、平面上のベクトルの拡張として捉えることができ、平面上のベクトルで成り立つ性質が、空間においても同様に成り立つことを理解している。 ○空間のベクトルの成分表示を、平面上のベクトルの拡張として捉えることができる。 ○空間のベクトルの内積を、平面上のベクトルの拡張として捉えることができる。	
				思	○座標空間の3点で定まる三角形の角の大きさを、ベクトルを利用して求めることができる。 ○ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 ○位置ベクトルの一意性を理解し、図形の性質を証明できる。 ○3点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。 ○3点で定まる平面上に点Pがあることを、ベクトルで表現して利用できる。 ○線分の長さ、垂直条件をベクトルの内積で表現して考察できる。 ○内積を利用して、直線に垂線を下したときの交点の座標を求めることができる。 ○空間ベクトルを利用して、線分の分点の座標などを考察できる。 ○球面と平面が交わってできる図形を、連立方程式の解の集合として捉えることができる。	
				主	○既知である平面の座標の概念を空間の座標に拡張しようとする。 ○空間のベクトルと平面上のベクトルを比較して考察しようとする。 ○空間のベクトルの成分表示と平面上のベクトルの成分表示を比較して考察しようとする。 ○空間のベクトルの内積と平面上のベクトルの内積を比較して考察しようとする。 ○成分表示されたベクトルの内積の公式を、平面の場合の拡張として導こうとする。 ○四面体の重心に興味をもち、その性質を位置ベクトルで考察しようとする。 ○3点が定める平面上の点の位置ベクトルを一般的に考察し、その結果を利用しようとする。 ○球面の方程式に興味をもち、考察しようとする。 ○座標空間における平面の方程式、直線の方程式に興味をもち、考察しようとする。	
1 学 期	7	第5章 「数学的な表現の工夫」	1. データの表現方法の工夫 2. 行列による表現 3. 離散グラフによる表現 4. 離散グラフと行列の関連	知	○データをバレー図に表現する方法を理解している。 ○バブルチャートを用いると、3つの変量を視覚的に表現できることを理解している。 ○行列の記法やそれに関する用語を理解している。 ○行列の和、差、実数倍の計算ができる。 ○行列の積の計算ができる。 ○どのようなものを表現したいときに離散グラフを用いるのか理解している。 ○離散グラフの奇点、偶点の意味を理解している。 ○ダイクストラ法を用いて最短経路を調べることができる。 ○離散グラフの隣接行列について理解し、隣接行列を求めることができる。また、与えられた隣接行列をもつ離散グラフをかくことができる。	5
				思	○データをバレー図に表現することができる。また、バレー図からデータの特徴を読み取ることができる。 ○バブルチャートの特徴を理解し、バブルチャートで表されたデータの関連などを読み取ることができる。 ○日常の事象や社会の事象などを行列で表現する意義を理解し、行列で表現したり、行列やその計算結果からその意味を読み取ったりできる。 ○連結な離散グラフが一筆書きできる条件について、その理由とともに理解し、一筆書きできるかどうか判断できる。また、その理由を説明できる。 ○ダイクストラ法で最短経路が求められる理由を考察できる。 ○離散グラフの隣接行列の積が経路の数え上げに利用できることを理解し、経路の数を考察することができる。	
				主	○データを表現するのにさまざまな方法があることに興味をもち、データの特徴や表現したいことに応じて、方法を検討しようとする。 ○バレー図が品質管理に用いられることに興味をもち、様々な判断にバレー図を活用しようとする。 ○行列による表現に興味をもち、さまざまなものを行列で表現したり、行列の演算結果を読み取ったりしようとする。 ○行列の演算について成り立つ一般的な法則を、実数の演算と関連させるなどして考察しようとする。 ○離散グラフによる表現に興味をもち、さまざまなものを離散グラフで表現したりそれを用いて考察したりしようとする。 ○離散グラフを一筆書きする方法を、試行錯誤によって見つけようとする。	

					○離散グラフにおいて、最短の経路を試行錯誤によって見つけようとする。 ○離散グラフと行列を対応させることに興味をもち、経路の総数などの考察に積極的に活用しようとする。	
2 学 期		第1章ベクトル	問題演習	知	○ベクトルの分解について理解し、ベクトルを2つのベクトルの1次結合の形に表現できる。	
				思	○位置ベクトルを活用して、図形の性質が考察できる。	
				主	○平面上の図形の移動、力、速度など身近な例からベクトルで表されるものを見つけようとする。	
3 学 期		第1章「ベクトル」 第2章 「空間のベクトル」	問題演習	知	○ベクトルの演算の仕組みを理解し、ベクトルについて、加法、減法、実数倍を考察することができる。	
				思	○点の座標とベクトルの成分の関係を、座標平面上の図形の問題に活用できる。	
				主	○位置ベクトルを用いて、平面図形についての命題を証明しようとする。	
			問題演習	知	○ある点が3点で定まる平面上にあるための必要十分条件を理解し、それを利用することができる。	
				思	○空間ベクトルを利用して、線分の分点の座標などを考察できる。	
				主	○既知である平面の座標の概念を空間の座標に拡張しようとする。	

6 学習者へのメッセージなど

数学の実力をつけるために最も大切なことは、時間をかけてじっくりと考えることです。教科書は最小限の内容と心得て、参考書やプリントなどの教科書+αの内容の問題演習を必ず行ってください。また、数学は積み重ねの教科です。中学校で学習した内容や日々の授業で学んだ内容に漏れがあると授業についていけなくなりますので、授業の予習と復習を怠らない学習姿勢で臨んでください。

年間授業計画

科目（講座名）	物理基礎	3 単位	必修	対象 学年	2 年
教科書 副教材	物理基礎（啓林館） 物理基礎 副読本（啓林館） セミナー物理基礎＋物理（第一学習社）	教科担当			

1 教科の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

2 科目の目標

- 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーや波について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を育成する。
- 物体の運動と様々なエネルギーと波に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を育成する。

3 授業内容と学習方法

【授業内容】

授業では教科書の各項目に則して、実験室での実験と演示実験を織り交ぜて、論理的な理解ができるように授業を展開していく。その過程で、物理的に探求していく能力と態度が育成されていく。このような授業展開をめざしていく。

【学習方法】

- 論理的な道筋を辿ることを念頭に、復習を心がけるのが十分な理解への近道である。
- 力学が物理の基本となっている。十分に問題練習を積むことによって理解が深まる。
- 暗記して定期テストに備えるという考えから脱却し、物理法則をきちんと理解し、これを適用して探究を進めていくように心がけてほしい。
- 授業で学習した物理用語を用いて、現象を表現し理解することが大切である。例えば「パワー」という言葉で現象を表現しても、「力」や「エネルギー」である場合が多い。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
学習到達 目標並び に評価の 観点	【目標】 日常生活や社会との関連を図りながら、物理現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 【評価の観点】 物理学の基本となる概念や原理・法則を記憶することではなく、それらを理解し活用している。	【目標】 物理現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得させるとともに、報告書の作成や発表を行い、科学的に探究する力を育てる。 【評価の観点】 理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行えている。	【目標】 物理現象に対して主体的に関わり、科学的に探究する態度を養う。 【評価の観点】 物理現象への関心を高め、自ら課題を設定することができる。
評価方法	・授業中の取り組み ・テスト ・提出物	・授業中の取り組み ・テスト ・提出物	・授業中の取り組み ・テスト ・提出物

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期		第1部 物体の運動とエネルギー 第1章 物体の運動とエネルギー (物理) 様々な運動	・ 速度 ・ 加速度 ・ 落下運動 ・ 平面内の運動 ・ 落体の運動	知	・等速直線運動の式および $x-t$ 図, $v-t$ 図を理解できている。 ・物体の運動を表すには向きが必要であり, 速さと速度, 移動距離と変位の違いを理解している。 ・直線上、平面上の合成速度, 相対速度の意味と求め方を理解している。 ・加速度は速度の時間変化を表すものであり, ベクトル量であること, またその求め方を理解できている。 ・自由落下や鉛直投射, 水平投射や斜方投射において, 与えられた時刻における高さや速度を与える式の運用ができる。	15
				思	・動く観測者から見た場合の, 観測者と同一直線上、同じ平面上を動く物体の運動のようすを説明できる。 ・速度の意味・表し方, またこれらはグラフ上ではどのように示されるかを正しく理解し, それをもとに物体の運動のようすを考えることができる。 ・自分の歩く様子を記録テープから分析し, どのような運動となるかを実験で調べることができ, データにまとめることができる。 ・重力加速度の意味を正しく理解し, 落下する物体の運動のようすを考えることができる。 ・斜方投射の運動のようすを, 鉛直方向と水平方向に分けて説明できる。	
				主	・日常の運動から, 速さ, 時間, 進む距離についての関係に興味をもち, 速さと速度の違いや, 相対速度の意味や使い方を理解しようとしている。 ・平面運動をしている物体の速度や加速度, 相対速度などの表し方について学ぶ意味を理解しようとしている。 ・日常の運動から, 落下する物体の運動に興味をもち, 落体の運動, 特に水平投射, 斜方投射について, 物体の運動はどのようになっているか理解しようとしている。	
		第2章 力と運動	・ 力 ・ 運動の法則 ・ 様々な力と運動	知	・力がベクトル量であることを認識し, 力の合成や分解ができる。 ・注目する物体にはたらく力が指摘でき, つりあいの式が立てられる。 ・物体が力を受けるとき(あるいは受けないとき), 運動状態はどのようになるか, 逆に, 物体の運動状態からどのような力がはたらいているかを指摘できる。 ・さまざまな運動をしている物体について, 運動方程式を立てて考えることができる。 ・圧力を求める式を理解できている。 ・水圧を求める式を理解し, 水中にある物体が静止しているとき, 物体にはたらく力のつりあいの式を立てることができる。 ・水中にある物体にはどのような浮力がはたらくかを理解している。	13
				思	・フックの法則とばね定数の意味を理解し, グラフからばね定数を読み取ることができる。 ・重力の大きさは物体の質量と重力加速度の大きさとの積であり, 運動の状態によらないことを説明できる。 ・力の表し方を理解し, 「1N」はどのような力か説明できる。 ・作用・反作用の2力とつりあいの2力の違いを理解し, 力のつりあいの式を考えたり, それぞれの2力の間の関係について説明できる。 ・慣性の法則, 運動方程式が理解でき, 問題解決にあたって式の運用が正しくできる。 ・摩擦力がどのような力かを理解し, 運動を妨げる向きにはたらく運動について考えることができる。 ・水中にある物体には, どのような水圧が加わるか, またどのような浮力がはたらくかを正しく理解し, 説明できる。 ・静止摩擦力を用いた力のつりあいの式を立てたり, 動摩擦力を用いた運動方程式を立てることができる。 ・静止摩擦係数がどのような量によって決まるのかを実験で調べられる。	
				主	・力が合成・分解して表されることに興味をもち, 「力がつりあう」とはどういうことを理解しようとしている。 ・物体の運動状態は, 受ける力とどのような関係にあるかについて興味・関心をもち, 理解しようとしている。 ・日常の現象などを通して, 水中や空気中で圧力があることに関心を寄せ, それらの圧力はどのようにしてはかることができるか, そもそも圧力とは何か, ということを考えようとしている。	
			・ 剛体のつり合い	知	・力のモーメントについて理解している。 ・剛体のつりあいでは, 並進運動をしない条件と回転運動をしない条件が必要なことを理解している。 ・剛体にはたらく複数の力の合力を求めることができる。 ・与えられた剛体(または物体系)の重心を求めることができる。	8

		(物理) 剛体のつり合い		思	- 剛体の転倒する条件を理解している。 - 力のモーメントの式を理解し、うでの長さが異なるときにはたらく力の大きさについて考察できる。 - 剛体にはたらく力がつりあうための2つの条件を理解し、はたらく力の間の関係について説明できる。 - 剛体の転倒する条件を理解し、重心の位置と転倒のしやすさの関係を説明できる。 - 剛体の傾く条件を説明することができる。 - 力のモーメントの基準点を適切な位置にとり、剛体の転倒について考えることができる。	
				主	- 剛体のつりあいには、並進運動しない条件だけではなく、回転運動をしない条件が必要なことを理解しようとしている。 - 剛体が傾く条件や転倒する条件を理解しようとしている。	
2 学 期		第3章 仕事とエネルギー	- 仕事 - 運動エネルギー - 位置エネルギー - 力学的エネルギーの保存	知	- 仕事、仕事率を計算して求めることができる。 - 物体に対して力がはたらいていても、仕事がないときもあり、それがどのようなときであるかを理解している。 「仕事の原理」を仕事を計算して求めたものを比較することにより、理解している。 - 重力や弾性力による位置エネルギーを計算することができる。 - さまざまな物体の運動について、力学的エネルギー保存則を用いることができる。 - 物体に保存力以外の力がはたらくとき、その仕事の量だけ物体の力学的エネルギーは変化することを理解している。 - 力学的エネルギー保存則が成り立つための条件が整っているかどうかを判断できる。 - 力学的エネルギー保存則を定性的に検証できている。	11
				思	- 物体に対して力がはたらいていても、仕事がないときもあり、それがどのようなときであるかを説明できる。 - 重力による位置エネルギー、弾性力による位置エネルギーについて説明することができる。 - 力学的エネルギー保存則を用いて、物体の運動を定性的に考えることができる。 - 力学的エネルギー保存則を用いて、運動する物体のもつ運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーの変化のようすを説明することができる。 - 実験から得られた結果と力学的エネルギー保存則から理論的に求めた値を比較して考えることができる。	
				主	- 日常用いる「仕事」と物理で使う「仕事」の違いを理解し、物理でいうところの「仕事」について理解しようとしている。 - 位置エネルギーは、運動エネルギーのように動きがあり目立つものではないが、仕事をする能力を「秘めて」いることに興味をもち、理解しようとしている。 - 力学的エネルギー保存則について興味関心をもち、理解しようとしている。 - 力学的エネルギー保存則の実験に主体的に取り組んでいる。	
			- 運動量の保存 - 反発係数	知	- 運動量と力積について、求め方を理解している。 - 運動量の変化は、その間に物体が受けた力積に等しいことを理解している。 - 直線運動、平面運動における運動量保存則を式で表現することができる。 - 反発係数の式を用いて、衝突する物体の運動を調べることができる。 - 小球と床との間の反発係数は、衝突の前後における相対速度の比の絶対値で定義されること、またそれは落下距離と床に衝突した後の上昇距離との比の平方根に等しいということ理解している。 - 運動量保存則と反発係数の式から物体の速さを求めることができる。 - 弾性衝突以外の衝突では、力学的エネルギーが保存されないことを理解している。	10
				思	- 運動量の変化と力積の関係の式から、物体が受ける力積と平均の力の大きさについて説明することができる。 - 運動量保存則が成り立つ条件を説明することができる。 - 反発係数と運動量、力学的エネルギーの関係を説明することができる。 - 運動量保存則と反発係数の式から物体の速さを求め、物体の運動を説明することができる。 - 直線運動の場合だけでなく、平面運動での運動量と力積との間に成り立つ関係式をベクトル図から考えることができる。	
				主	- 物体の運動について、運動量と力積を用いて理解しようとしている。 - 身のまわりにある物体どうしの衝突の際に、衝突の前後で変わらない量があり、それが運動量であること、また運動量が衝突の前後で保存する条件を理解しようとしている。 - 運動量保存則を調べる実験に主体的に取り組んでいる。 - 弾みやすいかの衝突を定量的に表すのが反発係数であるということを理解しようとしている。	
				知	波の発生原理や基本事項を理解している。	

		第3部 波 第1章 (物理) 波の性質	・波の伝わり方 ・波の性質 ・正弦波の表し方		・縦波と横波の違いを理解している。 ・位相のずれや進行方向の違いなども考慮して、正弦波の式を正しく表すことができる。 ・定在波が生じるしくみを理解している。 ・水面波の干渉で強めあう点と弱めあう点の条件を理解している。 ・波の反射・屈折の際に、どのような法則があるかを理解している。 ・水面波が干渉するようすを確認できている。 ・水面波が壁で反射することを確認できている。また、水深が変わる境界面で屈折が起こることを確認できている。 ・水面波がすき間を通して回折するようすを確認できている。	12
				思	・波の伝わるようすを、グラフで表現することができる。 ・横波と縦波の違いについて説明できる。 ・縦波を横波の形で表現できている。 ・正弦波の式に $x=0$, $t=2T$ を代入した式について、それぞれが何を表す式かを説明することができる。 ・2つの波源から出た波が、強めあう条件と弱めあう条件を説明することができる。	
				主	・身近な波の現象に興味をもち、波の発生原理や基本事項について理解しようとしている。 ・横波と縦波の実験に主体的に取り組んでいる。 ・身近な波の現象に興味をもち、波の発生原理や基本事項について理解しようとしている。 ・正弦波を数式で表す方法について理解しようとしている。 ・波の干渉や反射、屈折、回折などの波の伝わり方に興味をもち、理解しようとしている。 ・水面波の干渉の実験や、水面波の反射と屈折の実験、水面波の回折の実験に主体的に取り組んでいる。	
		第2章 (物理) 音	・音波の性質 ・音源の振動 ・ドップラー効果	知	・日常生活での体験を通して、音の波としての性質を理解している。 ・うなりについて、音の干渉の知識を用いて定量的に扱うことができる。 ・音の波形をオシロスコープを用いて観察できる。 ・弦や気柱の振動と音の高さの関係について理解している。 ・気柱の振動の際、管内に生じる定在波の腹は管口より外にできることを理解している。 ・気柱共鳴装置を用い、気柱の共鳴音からおんさの振動数を求めることができ、理解できている。 ・糸の長さを何種類かに変えた振り子で振り子の共振を観察することで、振り子の性質を理解できている。 ・音の干渉について、音が強めあう条件と弱めあう条件を理解している。 ・音が干渉して強めあったり、弱めあったりすることを確認できている。 ・ドップラー効果の式を用いて、観測者が聞く音の振動数を求めることができる。	9
				思	・音を伝える際、空気などの媒質が必要であることを説明できる。 ・うなりとはどのような現象であるかを説明できる。 ・弦楽器の音にはどのようなことが関係しているかを、これまでの学習内容を踏まえて考えることができる。 ・倍音とはどのような振動数の音であることを説明できる。 ・音源が特定の時間だけ音を出す場合のドップラー効果について、観測者が音を観測する時間を考えることができる。 ・運動している音源から出た音の波長が、音源の前方と後方でどのように変化するかを説明することができる。 ・観測者が動く場合(音源は静止)のドップラー効果がなぜ起きるか説明することができる。 ・ドップラー効果を利用した簡易スピード測定の原理について考えることができる。 ・音源が等速円運動をする場合のドップラー効果について、その周囲で音がどのように変化するかを考えることができる。	
				主	・身近な音の現象に興味をもち、基本事項について理解しようとしている。 ・音の波形の観察について、主体的に取り組んでいる。 ・弦楽器や管楽器について、どのようにして音の高さを変えているかについて、自分の考えを述べることができる。 ・弦や気柱の振動の実験や、振り子の共振の実験において、主体的に取り組んでいる。 ・音が関係する現象に興味をもち、音の性質と音の伝わり方について理解しようとしている。 ・音の干渉の実験に主体的に取り組んでいる。 ・身近な現象である音のドップラー効果に興味をもち、なぜそのような現象が起こるか理解しようとしている。	
		(物理)	・光の性質	知	・光は進んでいくとき、反射、屈折、分散、散乱を行うこと、またその際にどのような法則が成り立っているのかを理解している。	17

		光の回折と干渉	・ レンズと球面鏡 ・ 光の回折と干渉	・実験で光の散乱を確認できている。 ・レンズと鏡によって生じる像を作図することができる。また、写像公式を理解し、式を利用して像のできる位置や像の大きさなどを求めることができる。 ・写像公式を利用して凸レンズの焦点距離を測定することができる。		
				思	・光が2つの媒質の境界面で屈折するようすの図から、どちらの媒質のほうが光が伝わるのが速いか判断できる。 ・台形ガラスを用いて、光の屈折の様子を作図できる。 ・副虹がどのように見えるか、主虹の場合から類推して考えることができる。 ・プリズムで白色光が分散する理由を説明することができる。 ・晴れた日の昼の空が青く、夕焼けが赤く見える理由を説明することができる。 ・凸面鏡が、平面鏡よりもカーブミラーに適している理由を説明することができる。	
				主	・光が関係する現象に興味をもち、光についての基本事項と光の進み方について理解しようとしている。 ・屈折率の測定の実験、光の散乱の実験に主体的に取り組んでいる。 ・レンズや鏡に興味をもち、それによってどのような像ができるかについて理解しようとしている。 ・凸レンズの焦点距離の測定の実験に主体的に取り組んでいる。	
	第2部 熱 第1章 熱とエネルギー	・ 熱と温度 ・ 熱量 ・ 熱の利用	知	・温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などが正しく理解されている。 ・熱量の保存について理解し、熱量保存の式を立てることができる。 ・仕事と熱の関係や熱力学第一法則について理解している。 ・熱機関と熱機関の効率について理解している。	4	
			思	・日常的な事象を、学習内容に照らし合わせて説明できる。 ・温度や熱容量、比熱はどのような物理量か、自分の言葉で説明できる。 ・日常的な現象を熱と仕事の関係を踏まえて説明できる。 ・不可逆変化とはどのような変化かを説明できる。		
			主	・ものの温まりやすさなど、熱にかかわる現象について興味関心をもち、理解しようとしている。 ・熱と仕事の関係について興味関心をもち、理解しようとしている。 ・ジュールの法則について理解している。		
	第4部 電気と磁気 第1章 静電気と電流 第2章 交流と電磁波	・ 静電気 ・ 電流	知	・物体の帯電するしくみについて理解している。 ・導体・不導体、半導体の違いについて理解している。 ・電流と電圧の基礎について理解している。 ・オームの法則、抵抗の接続、抵抗率の基礎について理解している。 ・オームの法則、抵抗の接続、抵抗率の基礎について理解している。	2	
			思	・ガラス棒を絹などでこすった際に、それぞれどのような帯電状態になるかを説明できる。 ・家庭にcomingている電気の電圧・電流の値から、使用できる電気器具の数の上限を類推することができる。 ・金属の抵抗率が小さいほど電気をロスなく通しやすく、大きいほど熱として消費しやすいことを理解している。 ・ダイオードの電流・電圧グラフから、さまざまな状況の抵抗値を類推できる。 ・電気回路における、接続ごとの電流、電圧の大きさについて適切に理解しており、説明できる。 ・導体の抵抗値は、形状とどのような関係があるかを説明できる。 ・抵抗率、消費電力について理解しており、それをもとに考えることができる。		
			主	・身近な静電気現象について、なぜそうなるかを述べることができる。 ・電気回路の抵抗の接続のしかたを変えたとき、抵抗に加わる電圧と流れる電流の値がどのようなかについて、主体的に考えることができる。 ・オームの法則の検証実験や物体の抵抗率の測定(長さ・面積・材質の違いによる抵抗値の測定)の実験において、主体的に取り組んでいる。 ・日常で使う電気を踏まえて、ジュール熱や電力について、主体的に考えることができる。		
		・ 電磁誘導と発電機 ・ 交流と電磁波	知	・交流電圧の基本について理解している。 ・変圧器と送電の基本について理解している。 ・電磁波の振動数と波長の関係を理解している。また、ラジオ放送やテレビ放送、携帯電話など、身近に使われている電磁波の周波数についても把握している。 ・デジタルカメラなどを利用し、身近な赤外線の活用例に関して、観察することができる。	2	
			思	・モーターの回る原理について説明できる。 ・直流と交流の違いについて理解しており、それを説明することができる。 ・送電における電力損失の理由を理解しており、説明できる。		
			主	・モーターの回転する機構について興味をもち、主体的に原理を考えることができる。 ・電流の流れる向きと磁場の向きの関係について、主体的に考えることができる。		

				・直流と交流の違いや送電時の工夫について、主体的に考えることができる。 ・赤外線を観察について、主体的に取り組んでいる。	
	第5部 物理と私たちの生活 第1章 エネルギーとその利用 第2章 物理学が拓く世界	・様々なエネルギーとその利用 ・見えないものを見る ・電磁波で地球を見る ・巨大な橋を支える物理学 ・地震から建造物を守る技術	知	・エネルギーにはどのような種類があるか、また、身近なさまざまな事象でどのようなエネルギー変換がなされているかを理解している。 ・エネルギー資源にはどのようなものがあるか把握し、それらの長所と短所を理解している。 ・原子力発電に関連して、原子核の構成などを理解している。 ・身のまわりの放射線量を測定器を用いて測定できる。また、放射性物質についても、放射線量を測り、身のまわりの放射線量とどの程度異なるかを確認できる。 ・物理基礎で学習してきた内容が、スポーツ、防災、自動車とどのように関連しているかについて理解している。	2
			思	・ある事象に対して、どのようなエネルギー変換が行われているかを考察し、説明することができる。 ・再生可能エネルギーについて、枯渇性エネルギーとの違いを考え、説明できる。 ・火力、原子力、水力、風力の発電の共通点について説明できる。 ・私たちの暮らしを支える技術に、高校で学んだ物理学の知識がどのように活用されているかを説明できる。	
			主	・太陽電池などでどのように電気エネルギーを得ているのかを主体的に考えることができる。 ・新しいエネルギーである再生可能エネルギーに興味をもち、さまざまな発電方法における共通点を探するなど、主体的に取り組むことができる。 ・スポーツや防災、自動車となどの身近な科学技術に、物理学がどのように活用されているかについて興味をもつ。	

6 学習者へのメッセージなど

私たちは日常生活の中で物理的な現象を体験している。これを自分なりに理解する場合、ミスコンセプションを形成している場合が多い。「力がつり合っていると物体は静止する」などがそれで、静止または等速運動をするが正しい理解である。日常生活で体験した現象を、教室で学習した物理の法則を適用して考えを進めていくことを心がけてほしい。

令和7年度 年間授業計画

都立 戸山 高等学校

科目（講座名）		化学基礎	3 単位	必修	対象学年	2 年
教科書 副教材	東京書籍 化学基礎 第一学習社 セミナー化学基礎＋化学 実教出版 サイエンスビュー化学総合資料		教科担当			

1、教科の目標

- (1)正しい物質観を身につける。
 (2)実験を通して、自然科学の基礎的な方法を習得する
 (3)化学を通して 科学的な思考を養い、自然科学の社会的機能を認識する。

2、科目の目標

- (1)正しい物質観を身につける。
 (2)実験を通して、自然科学の基礎的な方法を習得する
 (3)化学を通して 科学的な思考を養い、自然科学の社会的機能を認識する。

3、学習内容と学習方法

物質の構成：物質の探究、原子の構造と元素の周期表、化学結合
 物質の変化：物質と化学反応式、酸と塩基、酸化還元反応
 以上の内容を中学で学習した内容と連動させながら発展的な内容（身近な無機化合物、有機化合物）まで学習する。実験を多く取り入れ、身近な存在であることを確認しながら進めていく。講義は教室、実験室、化学講義室にて行う。講義用プリントを用いた授業で、大学入試に十分対応できるレベルである。その為、授業進度は通常と比べて速くなる。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達 目標並び に評価の 観点	化学分野の基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	学習内容や日常の現象において問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	化学に関する事象・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	- 授業中の取り組み - テスト - レポート	- 授業中の取り組み - テスト - レポート	- 授業中の取り組み - テスト - 授業プリント - 課題提出 - 実験レポート

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	ポリエンテーション 物質の構成	・物質の成分と構成元素 ・原子の構造と元素の周期表 ・化学結合 ・物質と化学反応式 中間考査	知	・化学と物質についての実験などを通じて物質の分離精製、熱運動について理解していると共に実験に関する技能を身につけている。 ・物質の構成粒子について電子配置と周期表の基本的概念原理などを理解していると共に、科学的に探求するための実験などに関する操作、技能を身につけている。 ・化学結合について基本的概念や原理原則を理解していると共に、科学的に探求するための実験などに関する操作、技能を身につけている。 ・物質と化学反応式についての実験などを通じて、物質、化学反応式の基本的概念原理などを理解していると共に、科学的に探求するための実験などに関する操作、技能を身につけている。	18
	5			思	・物質の分離精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態について見通しをもって実験などを行い、化学的に考察できる。 ・原子の構造、電子配置と周期表について問題を見出し、見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探求している。 ・イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合について見通しをもって実験などを行い、化学的に考察できる。 ・物質と化学反応式について、見通しをもって実験などを行い、化学的に考察できる。	
	6			主	・物質の分離精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態に関する事物、現象について主体的にかかわり、化学的に探求しようとしている。 ・原子の構造、電子配置と周期表について主体的にかかわり、見通しを持ったり振り返ったりするなど科学的に探求しようとしている。 ・イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合について見通しをもって実験などを行い、科学的に探求しようとしている。 ・物質と化学反応式について、見通しをもって実験などを行い、科学的に探求しようとしている。	
	7	物質の変化	・酸と塩基の反応 ・中和滴定 ・酸化還元反応 ・金属の酸化還元反応 期末考査	知	・酸塩基と中和の基本的概念や原理原則を理解していると共に、科学的に探求するための実験などに関する操作、技能を身につけている。 ・酸化還元の基本的概念や原理原則を理解していると共に、科学的に探求するための実験などに関する操作、技能を身につけている。	18
				思	・酸と塩基、中和について見通しをもって実験などを行い、科学的に考察できる。 ・酸化還元、イオン化傾向について見通しをもって実験などを行い、科学的に考察できる。	
				主	・酸と塩基、中和について見通しをもったり振り返ったりするなど、化学的に考察できる。 ・酸化還元、イオン化傾向について見通しをもったり振り返ったりするなど、化学的に考察できる。	
2 学期	9		・電池 ・電気分解	知	・化学反応とエネルギーについて電池電気分解について理解すると共に科学的に探求するための実験などに関する操作、技能を身につけている。 ・無機物質についての実験などを通じて、周期表と元素の基本的な概念や原理原則などを理解していると共に、科学的に探求するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的技術を身につけている。	18
				思	・電池電気分解について問題を見通しをもって実験などを行い、科学的に考察して表現するなど科学的に探求している。	

2 学 期	10	無機物質	・周期表と元素 ・水素と希ガス ・ハロゲン ・酸素・硫黄 ・窒素・リン ・炭素・ケイ素 中間考査	主	・周期表と非金属元素について見通しをもって実験などを行い、科学的に考察できる。 ・電池電気分解について主体的にかかわり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。 ・周期表と非金属元素について主体的にかかわり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。	18
	11	無機物質	・アルカリ金属元素 ・2族元素 ・両性元素 ・遷移元素 ・金属元素の分離	知	・典型金属元素、遷移元素について理解すると共に科学的に探求するための実験などに関する操作、技能を身に着けている。	
	12		期末考査	思	・典型金属元素、遷移元素についての問題に見通しをもって実験などを行い、科学的に考察して表現するなど科学的に探求している。	
3 学 期	1	有機物質	- 有機化合物の特徴 - 有機化合物の構造決定 - 炭化水素 - 酸素を含む有機化合物 - 芳香族化合物	知	・有機化合物について、実験などを通じて、炭化水素の基本的な概念や原理原則などを理解していると共に科学的に探求するために必要な実験などに関する基本的操作や記録などの基本的な技術を身に着けている。	26
	2		学年末考査	思	・炭化水素、芳香族などについて問題を見出し、見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探求している。	
	3			主	・炭化水素、芳香族について主体的にかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。	

学習者へのメッセージなど

化学は、無限ともいえる物質を扱う学問である。そのため、記憶に頼る科目と勘違いされる。しかし、本当は少数の基本的な考え方を理解することにより、物質相互の関連性をつかみ、全体を把握できるのである。記憶に頼るような学習をしないほしい。

また、化学では原子・分子・イオンを扱う。原子・分子のようなミクロな世界は、直接見ることはできない。しかし、目に見えるマクロな現象から、観察力と洞察力によって、頭の中でミクロな世界を見ることができるようになる。また、ミクロな世界の原子分子の動きを考え、実際にマクロな世界で起こる現象を予測することもできる。ミクロの世界とマクロな世界をつなげるような、洞察力と観察力を身につけてほしい。

年間授業計画

科目(講座名)	「体育」	単位	2単位必修	学年	2学年
教科書、副教材	大修館「新高等 保健体育」	教科担当			

1 教科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かかで活力ある生活を営む態度を養う。

2 体育科目の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

3 保健体育の科目及び内容構成

保健体育		
「体育」	「保健」	
A 体づくり運動 (1)知識及び運動 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	現代社会と健康	ア知識 イ思考力、判断力、表現力等
B 器械運動 (1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	安全な社会生活	ア知識及び技能 イ思考力、判断力、表現力等
C 陸上競技 (1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性		

D 水泳	(1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	生涯を通じる健康 ア知識 イ思考力、判断力、表現力等 健康を支える環境づくり ア知識 イ思考力、判断力、表現力等
E 球技	(1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	
F 武道	(1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	
G ダンス	(1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	
H 体育理論	ア知識 イ思考力、判断力、表現力等 ウ学びに向かう力、人間性等	

4 授業内容と学習方法

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
学習到達 目 標 並 び に 評 価 の 観 点	【知識】 運動を継続する意義や、体の構造、運動の原則などを理解すること、技術や名称や行い方を理解すること、体力の高め方を理解すること、伝統的な考え方を理解すること、競技会、試合、発表の仕方や文化的背景を理解し学ぶこと、運動観察の方法や見取り稽古の仕方を学ぶこと 【技能】 運動種目などの固有の技能や動きを身に付けさせること、各領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができるようにすること	合理的な動きと比較し成果や改善すべきポイントと理由を伝えようとする こと、課題解決のための計画を立て練習方法など仲間に伝えること、危険を回避するための活動の仕方を提案すること、よりよいルールやマナーについて提案すること、状況に応じて役割を提案すること、合意形成のためにかかわり方を見付け、調整すること、一人一人の違いを越えて楽しむための調整の仕方を見付けること、運動を継続して楽しむためのかかわり方を見付けること、	自主的・主体的に取り組もうとすること、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、フェアプレイを大切にしようとする、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、良い演技を讃えようとする、互いに助け合い高め合おうとすること、自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いを大切にすること、健康・安全を確保すること
具 体 的 な 評 価 方 法	①定期考査による確認テスト ②各種目における実技テスト ③毎授業における技術習得過程の観察	①タブレットを活用したグループワーク、課題解決学習レポート ②担当教員による助言・観察	①参加状況 ②基本的な心構え・取り組み ③仲間同士の教え合い、グループワークでの積極性

(1) 自主的・創造的精神に満ちた社会の有為な形成者の育成、リーダーとして国際社会に貢献できる人の育成

⇒そのためには

- ・「健康」があって初めてエネルギーに活動できる、よって基礎体力の定着を目指す
- ・「健康」とはどういう状況のことなのかを心と体のバランスをしっかりと探求し、自分を客観的に理解する力を育てる
- ・自分を知り、特性を生かす
- ・技能の習得はもちろんだが、思考力・判断力・表現力をより重視する授業展開
- ・何事にも粘り強く、立ち向かえるたくましさややり抜ける力を育成する

(2) 探究活動による深い学びの実践

情報活用力・探求力・情報発信能力・傾聴力・行動力・想像力の6つの力の資質・能力を育てる

⇒そのためには

- ・選択授業をより多く導入
- ・男女共習による共生の意識改革
- ・性別・障害の有無に関係なく互いを認め合い高めあえる心と体の育成
- ・運動を実践する中で、常に批判的思考を育成し、メタ認知できる自己判断能力を育成
- ・公正・協力・責任・参画の場をしっかりと設定し、学びに向かう人間力の育成を強化する
- ・技能の習得はもちろんだが、思考力・判断力・表現力をより重視する授業展開(上の項でも記しました)

(3) カリキュラムマネジメントを通して学問に対する興味・関心を深め自ら学ぶ意欲を向上させる

⇒そのためには

- ・教科の横断的な学び方を通し、保健体育分野でも新たな関心を深められるような授業を展開する(特に保健分野)
- ・自分に合った運動を見つけ長く続けられるような具体的な方法や意思決定能力を育てる

6 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価規準	時数	
1 学期	4	領域 B、F、G 器械運動 武道 ダンス (男女共習)	(1)マット運動 (2)剣道 (3)現代的なリズムダンス (1)(2)(3)のうち 1 種目 選択	知 各種目の技能の習得、記録の相対的評価 技 技の名称の理解、ルールの理解 思 タブレットを活用しながら課題を発見し、解決に向 判 けて思考する、気が付いたことを他者に伝えよう 表 とする 学 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の び 方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	20	
	5	領域 C、E 陸上競技 球技(ネット型)	(1)バレーボール (2)卓球 (3)短距離または跳躍 (1)(2)(3)のうち 1 種目 選択	知 各種目の技能の習得、拾う、つなぐなど攻撃の一 技 連の流れを理解する 思 各種目のルールの理解 判 攻防において自己やチームの課題を発見し、運 表 動の取り組み方を工夫している、自己の考えたこ とを他者に伝えようとしている		
	6		学 球技に自主的に取り組む び フェアなプレイを大切にしようとしている 作戦など話し合いに貢献しようとしている 一人一人の違いに応じたプレイを大切にしよう としている 互いに助け合い教え合おうとしている			
	7	領域 D 水泳 (男女別習)	(1)クロール泳法 (2)平泳ぎ泳法 (3)バタフライ泳法 (4)背泳ぎ泳法 (5)室内トレーニング	知 各種目の技能の習得、記録の相対的評価 技 泳法の名称理解、体力の高め方の理解 思 運動観察方法、ルールの理解 判 泳法について、課題を発見し、解決に向けて思考 表 する、合理的な課題解決を目指す 学 気が付いたことを他者に伝えようとする び 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の 方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	5	
	6	領域 H 体育理論	運動・スポーツの学び 方 (1)スポーツにおける技 術と戦術・戦略 (2)スポーツにおける技 能と体力 (3)技能の上達過程と練 習の考え方	知 クローズドスキルとオープンスキルの違いやそ れぞれの練習の仕方を理解できる 用具の改良やメディアの発達などによる技術や 戦術、ルールの変化を理解できる 思 運動やスポーツの効果的な学習の仕方につい 判 て、概念と自己の状況を関連付けたりして、自己 表 や社会についての課題を発見すること 学 運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の び 仕方について、習得した知識を基に環境の異なる 場所や変化を想定して、危険を予見し回避するた めの自己の提案を言葉や文章などを通して他者 に伝えること	2	
			スポーツの学び方 (1)効果的な動きのメカ ニズム (2)体カトレーニング	知 体の動きはどのような仕組みで開始され、持続 していくのか理解できる よい動きを支える調整力について例を挙げて説 明できる 思 運動やスポーツの効果的な学習の仕方につい 判 て、概念と自己の状況を関連付けたりして、自己 表 や社会についての課題を発見すること 学 運動やスポーツの効果的な学習の仕方につい び 主体的に取り組もうとしている	2	
			仲間と協力して課題を 達成するなど、集団で 挑戦するような運動を おこなう	知 運動を行うことを通して、気付いたり関わり合っ たりする 思 自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて運動 判 の取り組み方を工夫しようとする、他者に自己の 表 考えたことを伝えようとする 学 課題解決の話し合いに貢献しようとしている び	7	
			7			
	夏 休 み	8	D 領域 水泳			
	2 学期	9	D 領域 水泳	(1)クロール泳法 (2)平泳ぎ泳法	知 各種目の技能の習得、記録の相対的評価 技 泳法の名称理解、体力の高め方の理解 運動観察方法、ルールの理解	2

2 学期	10 11 12	(男女別習)	(3)バタフライ泳法 (4)背泳ぎ泳法 (5)室内トレーニング	思 判 表 学 び	泳法について、課題を発見し、解決に向けて思考する、合理的な課題解決を目指す 気が付いたことを他者に伝える 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	8
		E 領域 球技 (男女共習)	(1)ソフトボール (2)テニス (3)バドミントン (1)(2)(3)のうち 1 種目を選択	知 技 思 判 表 学 び	拾う、つなぐ、打つなどの一連の流れで攻撃を組み立てられるようにする、役割に応じたボールの操作ができるようにする ルールを理解、用具の理解 自己や仲間の課題を発見し解決に向けて思考する、気が付いたことを他者に伝える、タブレットを活用し他者と運動観察をおこなおうとしている 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	
		E 領域 球技 (男女共習)	(1)バドミントン (2)テニス (3)アルティメット (1)(2)(3)のうち 1 種目を選択	技 知 思 判 表 学 び	拾う、つなぐ、打つなどの一連の流れで攻撃を組み立てられるようにする、役割に応じたボールの操作ができるようにする、 ルールを理解、用具の理解 攻防において自己やチームの課題を発見し、運動の取り組み方を工夫している、自己の考えたことを他者に伝えようとしている 球技に自主的に取り組む フェアなプレイを大切にしようとしている 作戦など話し合いに貢献しようとしている 一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとしている 互いに助け合い教え合おうとしている	8
		C 領域 陸上競技 (男女別習)	長距離走	知 技 思 判 表 学 び	各種目の技能の習得、記録の相対的評価 体力の高め方の理解 運動観察方法、ルールを理解 自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて思考する、合理的な課題解決を目指す 気が付いたことを他者に伝える 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	
						4
3 学期	1	E 領域 球技 (男女共習)	(1)サッカー (2)バスケットボール (1)(2)のうち 1 種目を選択	技 知 思 判 表 学 び	拾う、つなぐ、打つなどの一連の流れで攻撃を組み立てられるようにする、役割に応じたボールの操作ができるようにする、 ルールを理解、用具の理解 攻防において自己やチームの課題を発見し、運動の取り組み方を工夫している、自己の考えたことを他者に伝えようとしている 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	6
	2					
	3	C 領域 陸上競技 (男女別習)	長距離走	知 技 思 判 表 学 び	各種目の技能の習得、記録の相対的評価 体力の高め方の理解 運動観察方法、ルールを理解 自己や仲間の課題を発見し、解決に向けて思考する、合理的な課題解決を目指す、 気が付いたことを他者に伝える 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	6

7 学習者へのメッセージなど

令和4年度から新学習指導要領が施行され、保健体育の授業の在り方が大きく変容しました。体力や技能の程度及び性別の違いに関わらず、仲間とともに学ぶ体験を通して、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指します。また、運動に関する自己や仲間の課題を発見し、課題解決に向けて仲間とともに真摯に取り組む資質・能力の向上を目指します。体育の授業への取り組み方としては、自己や仲間、チームの課題に対して実直に取り組み、互いを認め合い話し合ったりして主体的に授業へ参画しているかが大切な時間になり、その取り組み姿勢を指導側は授業毎に評価していきます。保健体育の授業を通して、道徳性や人間性をさらに育み、人間として大きく成長することを期待します。

年間授業計画

科目(講座名)	「保健」	単位	必修・1 単位	学年	2年
教科書 副教材	大修館「新高等 保健体育」	教科担当			

1 教科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。

2 科目の目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次の通り育成する。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。

3 授業内容と学習方法

本校の保健のねらいは、健康や安全に関して理解を深め、日常生活に活かすことができるようになることである。週1時間ではあるが、2年生では「生涯を通じる健康」と「健康を支える環境づくり」を中心に社会生活と健康の関わりについて学習していく。保健の内容は心身共に健康に成長する過程で、必要不可欠な内容ばかりである。健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養うために、グループワーク、レポートの作成や研究発表を行うなどの形式も組み込まれる。

学期毎に1回の定期テストで(ア)生涯の各段階における健康、(イ)労働と健康、(ウ)環境と健康、(エ)食品と健康、(オ)保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、(カ)様々な保健活動、(キ)健康に関する環境づくりと社会参加で知識、理解力を身に付け、常に課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともにそれらを表現できる力など、授業への主体的取り組みを評価していく。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、理解したことを言ったり書いたりしている	健康の考え方について自他や社会の課題を発見している。 データや資料に基づいて分析し、課題解決の方法を主体的に取り組み筋道立てて説明し、他者に伝わるように表現しようとしている	健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている

評価方法	活動中の様々な場面で取得する情報の中から、重要な情報を主体的に判断し、選択することができる。複数の知識・技能や自己の経験と統合することで、目的に合った解決策を見出すことができる。習得した知識・技能を使って、課題を解決することができる	他者と協働しながら課題をより良く解決しようとしている。自己の解決策を筋道立てて他者に説明し、理解してもらおうと努力している。自分がとるべき行動を理解し課題解決のために周囲を巻き込んで行動しようとしている。未知の状況でも目的を達成するための手段を創造し、他者により影響を及ぼそうとしている	授業を通して健康に興味関心を持ち、あらゆることに探求心を持って授業に主体的に取り組もうとしている
------	--	---	--

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1～3学期	4	生涯を通じる健康	思春期と健康 性意識の変化と性行動の選択	知 思 主	思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 思春期の心身の変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	3
	5	結婚生活と健康 妊娠・出産と健康 家族計画	結婚生活と健康 妊娠・出産と健康 家族計画	知 思 主	結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解したことを言ったり書いたりしている。家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健医療サービスの活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	3
	6	加齢と健康 高齢社会に対応した取り組み	加齢と健康 高齢社会に対応した取り組み	知	中高年を健やかに過ごすためには、若い時から健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいを持つこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などの良好な関係を保つこと、地域における交流を持つことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。高齢期には加齢に伴い心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解し	

7	9			思	たことを言ったり書いたりしている。高齢社会では、認知症を含む疾病などを含む疾病などの対処、事故の防止、生活の質の保持、介護などの必要性が高まることなどから、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	12
				主	加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取り組みと社会的対策を評価している。生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
				知	生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
10	健康を支える環境づくり	働くことと健康 労災災害の防止 働く人の健康づくり		知	労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことについて理解したことを言ったり書いたりしている。労働災害を防止するには作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 働く人の健康の保持増進は職場の健康管理や安全管理とともに心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 働く人の日常生活においては積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進図っていくことが重要であることについて理解したことを言ったり書いたりしている	7
				思	生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
				主	生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
10	健康を支える環境づくり	大気汚染と健康 水質汚濁・土壌汚染と健康 健康被害を防ぐための環境対策 環境衛生に関わる活動		知	人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。健康への影響や被害を防止するために環境基本法などの法律等が制定されており、環境基準の設定、排出物の規、視体制の整備などの総合的・計画的対策が講	7
				思		
				主		

11			じられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 思 環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 主 環境と健康について課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
	食品の安全性と健康 食品の安全性を確保する取り組み	知 人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。食品の安全性を確保するために、食品衛生法などの法律等が制定されており、様々な基準に基づいて食品衛生活動が行われていることや、食品の製造・加工・保存・流通など、各段階での適切な管理が重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。食品衛生に関わる健康被害の防止と健康の保持増進には、適切に情報を公開、活用するなど行政・生産者・製造者・消費者などが互いに関係を保ちながら、それぞれの役割を果たすことが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 思 生活習慣病などの予防と回復について、健康に関わる原則や概念をもとに整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして自他や社会の課題を発見、分析し、効果的な解決方法を話し合ったり、発表したりしている。 主 生活習慣病とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	2	
	保健制度とその活用 医療制度とその活用 医薬品の制度とその活用	知 我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で、使用法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。”	5	
12	1	様々な保健活動や対策 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり		

				思	保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理している。保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	1
				主	保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
				知	我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	
				思	様々な保健活動や社会的対策について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。地域の保健・医療機関やスポーツ施設の活用の仕方について、関連した情報を整理し、生活の質の向上に向けた課題解決に応用している。様々な保健活動や社会的対策について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
3 学期	2		様々な保健活動や対策	主	様々な保健活動や社会的対策について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	2
				知	自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。一人一人が健康に関心をもち、健康を支える適切な環境づくりに積極的に参加していくことが必要であり、そのことが自分を含めた世界の人々の健康の保持増進につながるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	
				思	ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりへ積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、分析・評価し計画を立てている。	
				主	健康に関する環境づくりと社会参加について、課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
			誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	知	自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。一人一人が健康に関心をもち、健康を支える適切な環境づくりに積極的に参加していくことが必要であり、そのことが自分を含めた世界の人々の健康の保持増進につながるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	2
				思	ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりへ積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、分析・評価し計画を立てている。	
				主	健康に関する環境づくりと社会参加について、課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	
				主	健康に関する環境づくりと社会参加について、課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	

6 学習者へのメッセージなど

保健の授業を通して個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めて下さい。生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育む時間です。そして課題を新たに発見し課題解決のために探求心を持って学習を進めてください。授業では、教師主導で基本的知識を学ぶ時間のみならず、生徒同士で自らの考えを伝え合い、深めていく時間もあります。主体的に自身の意見を伝え、新たな考え方に耳を傾けることも社会では重要な資質ですから、ぜひとも意欲的に学びに向かってください。保健で学んだ教養が体育や他の教科、また日常生活に生かされることを期待しています。

令和7年度 年間授業計画

科目（講座名）	英語コミュニケーションⅡ	3単位	必修	学年	2年
教科書 副教材	ELEMENT English Communication Ⅱ（啓林館） 精読:Change the World Approach(いっずな書店) Cutting Edge Blue（エミル出版） Clues to Reading 英文解釈の徹底演習 Standard （数研出版） 速読:NEWSBREAKS 2024, 2025（エミル出版） Long Journey standard（文英堂） 語彙：速読英単語 必修編 改訂第7版（Z会出版） （1年次より継続使用） 多読教材：年間7冊程度の書籍を読む。 リスニング:大学入学共通テストリスニング分野別 10 min（エミル出版）	教科担当			

1 教科の目標

- ①外国語によるコミュニケーションのための知識・技能を働かせ、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝えあったりする資質・能力・態度を育成する。
- ②入試問題に対応できる語彙力・読解力（文章の展開や書き手の意図を把握する力）の定着を図ると共に、自分の意見や考えを論理的に書いたり話したりできる能力を養う。

2 科目の目標

- 【読むこと】社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。
- 【聞くこと】社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。
- 【書くこと】社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報を考え、気持などを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。
- 【話すこと（発表）】日常的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句を用いて、情報や考え、気持などを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。
- 【話すこと（やりとり）】日常的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持などを詳しく話して伝えあうやり取りを続けることができるようにする。

3 学習目標

- ①昨年度に引き続き、文章の概要や要点を素早く正確に掴む読解力を養成する。具体的に、様々な文章をWPM150程度で読むことができ、文章の概要と要点を捉えることができる。
- ②既習の語彙、構文、文法が英文の中でいかに用いられるかを理解し、また様々な英文の解釈ができる。
- ③昨年度に引き続き、大学受験で求められる基本的な語彙数 5000 語の習得。今年度は使用可能語彙を増やす。
- ④グラフで示されたデータなどを全体と個で分析し、それらの特徴を英語で書くことができる。複数のパラグラフで構成されたエッセイを書くことができる。

4 授業内容と学習方法

教科書・精読教材を中心に展開する。教科書を使用して言語活動を多く行うことによって、英語でコミュニケーションを行う場面を作る。またその際、ペアワーク・グループワークを活用し、主体的・対話的な学習ができるような環境を整える。

精読教材を使用して、読解力やリーディングスキルの育成を行う。また、リスニングや音読活動を通じてコミュニケーションの基礎となる能力を身に着ける。定期テストまでにパフォーマンステストを行う。単語等の小テストを行い、習得状況を把握する。速読・多読活動を継続的に行う。

5 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に着けているか。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができているか。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話されたり書かれたりする文章等を聞いたり、読んだりして必要な情報を読み取ったり、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点などを捉えようとし、また学習を通してその工夫をしている。 日常的な話題や社会的な話題について、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考え、気持ちなどを基本的な語句や文を用いて、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり伝え合ったりしようとしている。
評価方法	①定期考査 ②パフォーマンステスト[プレゼンテーション・ディベート・ライティングテストなど]	①定期考査 ②パフォーマンステスト[プレゼンテーション・ディベート・ライティングテストなど]	①授業内や日常的な学習活動の行動観察 (思考・判断・表現の活用における学習状況) ②パフォーマンステスト[プレゼンテーション・ディベート・ライティングテストなど] ③定期考査

6 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	領域					評価規準	時数
				聞	読	話	話	書		
1 学期	4	ELEMENT English Communication II Lesson 1, 2	・言語活動(リプロダクション、リテリング、ディベートなどのグループ活動、ペアワーク)	○	○				知 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。	9
									技 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた文章を読んでその内容を捉える技術を身につけている。	
									思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題につ	

5				Chnage the World Approach19, 20						いて、必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要、要点を捉えている。				
										主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている。				
				ELEMENT English Communication II Lesson 3 Further Reading1		・言語活動（リプロダクション、リテリング、ディベートなどのグループ活動、ペアワーク）		○		○		知 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。		18
				Cutting Edge 1, 2, 3		・パフォーマンステスト[書くこと、話すこと（発表）]						技 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝える技術を身につけている。		
												思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えている。		
												主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。		
夏季休業期間	8	Cutting Edge 4, 5, 6, 7	・夏季講習 ・夏季長期休暇課題 ・多読											
2 学期		ELEMENT English Communication II Lesson 4, 5 Cutting Edge 8, 9	・言語活動（リプロダクション、リテリング、ディベートなどのグループ活動、ペアワーク） ・パフォーマンステスト[書くこと、話すこと（やりとり）]	○	○	○		○				知 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。	18	
	9											技 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝えあう技術を身につけている。		
	10											思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、話して伝えあうやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝えあったりしている。		
													主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝えあおうとしている。	
		ELEMENT English Communication II Lesson 6, Further Reading 2	・言語活動（リプロダクション、リテリング、ディベートなどのグループ活動、ペアワーク） ・パフォーマンステスト[書くこと、話すこと（発表）]	○	○			○	○			知 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。	12	
11												技 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝える技能を身につけている。		
12		Cutting Edge 10, 11										思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えている。		
												主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。		
夏季休業期間	1	Cutting Edge 12, 13, 14, 15, 16												
3 学期		ELEMENT English Communication II Lesson 7, 8	・言語活動（リプロダクション、リテリング、ディベ	○	○	○	○	○				知 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。	24	
												技 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題につ		

		Cutting Edge 17, 18	トなどのグループ活動、ペアワーク)							いて話された文などを聞いて、その内容を捉える技能を身につけている。
1										思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点を捉えている。
2			・パフォーマンス							主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。
3			スト[書くこと、話すこと(発表)]							

7 学習者へのメッセージなど

英語コミュニケーションⅡでは、コミュニケーションの基本である「聞く」「読む」「話す(やり取り)」「話す(発表)」「書く」の5領域の能力を伸ばします。「話す」は「話すこと(やりとり)」と「話すこと(発表)」の2項目に分けて指導と評価を行います。

1年次に学習した語彙、文法、読解方法、表現方法を用いて、情報や考え方などを的確に理解したり、適切に表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る能力を養います。2年生の英語目標を共通テストの高得点レベルと考え、基礎力定着を図ると良いでしょう。また検定教科書のほかに、週末課題では時事問題を、多読では小説を主に扱います。社会的な事柄を英語で読み日ごろから時事問題に関連した知識を取り入れるとともに、洋書では異文化やそれぞれの国の歴史・背景に思いを馳せて英語で読書を楽しむことも味わってほしいと考えています。

学校で扱う教材以外にも、英語に触れられる機会が日常生活の中にたくさんあります。映画、ドラマ、ラジオの英語講座、英字新聞・雑誌、また最近ではインターネットで海外のニュースを簡単に見ることもでき、アプリで英会話の勉強をすることもできます。楽しみながら英語を学べる素材を探してみるのも良いでしょう。

令和7年度 年間授業計画

科目（講座名）	論理・表現Ⅱ	2単位	必修	学年	2年
教科書 副教材	Genius English Logic and Expression Ⅱ（大修館） 英作文：和文分析から始める英作文 Steady steps to Writing 改訂版（数研出版） Write to the Point 入試必携英作文（数研出版） 文法・語法：Breakthrough 改訂二版英文法 3 6 章（美誠社） Breakthrough 改訂二版英文法 3 6 章ワークブック（美誠社） Breakthrough 総合英語 改訂二版（美誠社） Vintage 英文法・語法 4th Edition リスニング：ALL EARS PRE-ADVANCED 美誠社） Focus on Listening スタンダード（エミル出版）	教科担当			

1 教科の目標

- ① 外国語によるコミュニケーションのための知識・技能を働かせ、読むこと、話すこと、書くこと、聞くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝えあったりする資質・能力・態度を育成する。
- ② 1 年次に学習した知識を用いて、大学入試に対応できる書く力の育成を図る。複数のパラグラフから成る文章、論理性や構成を考えながら書く力を育成する。
- ③ 1 年次に学習した語彙や表現を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えあう力を育成する。

2 科目の目標

【書くこと】

社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報を考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

【話すこと（発表）】

日常的话题について、一定の支援を活用すれば、多様な語句を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。

【話すこと（やりとり）】

日常的话题について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝えあうやり取りを続けることができるようにする。

3 学習目標

- ① 1 年次に学習した言語材料（基本的な文法知識、語法）の定着を図る。
- ② 情報や考え、気持ちなどを文法や語法に注意して書いて表現することができる。
- ② 情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに話して伝えることができる。
またその際、ディスコースマーカ―や導入や順序、対比などの表現を使って論理的に、また展開を工夫して情報や考え、気持ちを相手に伝えることができる。

4 授業内容と学習方法

2 クラスを3 グループに分けて授業を行う。1 グループは advanced、残り 2 グループは intermediate クラスとする。扱う言語材料や教材は同一のものを扱うが、advanced クラスではより発展的な内容を扱う。
予習必須。予習をして授業に臨み、予習でわからなかったところを授業で理解できるようにする。授業で理解できたところ、気づいた点を中心に復習を行う。ワークブックや自習用教材の演習を通じて、知識の定着を目指す。詳しくは授業最初の担当の先生の指示を聞くこと。

5 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	自分の意見や主張を伝えるために必要となる論理の構成や展開及び表現を理解している。 自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して詳しく書く技能を身に着けている。	読み手に理解してもらえるように、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えている。	読み手に理解してもらえるように、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の意見や主張を、論理の構成や展開を工夫して複数の段落を用いて詳しく書いて伝えてようとしている。
評価方法	① 定期テスト ② パフォーマンステスト[ディスカッション・即興スピーチ（ライティング）を含む]	① 定期テスト ② パフォーマンステスト[ディスカッション・即興スピーチ（ライティング）を含む]	① 授業内や日常的な学習活動での行動観察 （思考・判断・表現の活用における学習状況） ② パフォーマンステスト[プレゼンテーション・ディベート・ライティングテストなど] ③ ワークシートなど提出物

6 授業計画

期	月	学習内容 (言語材料)	学習活動	領域					評価規準	時数
				聞	読	話	話	書		
1 学期	4 5	・接続詞 ・様々な構文	・言語活動（情報や考えを書いて表現する活動）			○		○	知 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 技 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝える技能を身につけている。	10
									思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えている。	
									主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。	
	6 7	Part1 動詞の表現 ・時制(1)～(3) ・助動詞(1)(2) ・条件仮定(1)(2) ・態	・言語活動（情報や考えを書いて表現する活動）			○		○	知 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 技 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝える技術を身につけている。	12
									思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えている。	
									主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝えあおうとしている。	
夏季休業期間	8	1学期のまとめ	夏季講習 夏季休暇課題						知 思 主	10
2 学期	9	Part2 準動詞の表現					○	○	知 関係詞について基礎的な規則を理解できている。 技	

	10	- 不定詞・動名詞 (1) (2) Part 3 名詞の表現 - 分詞 - 関係詞 (1) (2) Part 4 構文表現 - 比較 - 否定	言語活動 (情報や考えを書いて表現する活動)							コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝える技能を身につけている。 思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝えている。 主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。	
	11	- 主語の決定①, ② - 目的の表現 - 理由の表現 - 時制①, ② - 動詞の語法 - 関係詞 - 時間の表現	言語活動 (情報や考えを書いて表現する活動)			○	○			知 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 技 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝える技能を身につけている。 思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えている。 主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。	
	12										
3 学期	1 2 3	- 数字の表現 - 仮定・条件の基本 - 仮定・条件の応用 - 比較の基本 - 比較の応用 - 譲歩の表現 - 重要表現① - 重要表現② - A は…だ	言語活動 (情報や考えを書いて表現する活動)			○	○			知 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 技 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝える技能を身につけている。 思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えている。 主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。	16

7 学習者へのメッセージなど

論理・表現Ⅱでは、英語で自分の考えや意見を多様な表現や方法で表すための応用力を育成します。コミュニケーションを図る際の正確性を高めると同時に、多様な表現を学びます。特にハイコンテキスト文化で言語を扱ってきた私たちが、どのようにローコンテキスト文化を理解し、英語話者に理解しやすい英語を話し書くかに力点を置いて、この授業を学んでいきましょう。

またこの授業では毎時間リスニング演習を行います。今年度の目標は共通テストレベルの英語を確実に聞けるようになることですが、試験問題のみならず様々な英語に触れ、クラス内でも英語で対話を行うことによって、将来実際に使えるリスニング力、コミュニケーション能力を培ってほしいと思います。

年間授業計画

科目（講座名）	家庭基礎	2 単位	必修・選択	学年	2 年
教科書 副教材	Agenda 家庭基礎（実教出版） 2025 最新生活ハンドブック（第一学習社）	教科担当			

1 教科の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

2 科目の目標

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

3 学習目標

- (1) 日常の家庭生活に関心を持ち、生活の現実認識をして見直すことができる。
- (2) 生活の根底にある原理・原則について、科学的に追求して理解する。
- (3) 実際の生活の場で実践できる技術・技能を身に付ける。
- (4) どうすればよいかを判断して、意思決定しよりよい生活を創造することができる。

4 授業内容と学習方法

自立の意味と、自立の基礎となる食・衣・住、そして消費生活についての知識や技術を習得すると共に、その背景にある社会や文化、政治・経済のしくみも学習する。また、家族、子ども、高齢者などさまざまな人たちについて学び、共に生きる社会を築くためにはどうしたらよいのかを考える。

- (1) 実践的・体験的に学ぶ…実験・実習、ふれあい体験、観察により五感で情報を整理する。
- (2) 問題解決的に学ぶ…家庭や社会に関する問題を発見・分析し、主体的に判断、解決する。
- (3) つながりながら学ぶ…他教科で学んだ知識と関連づけ、理解を深める。
- (4) 事前学習、事前準備…実験・実習を効果的に進めるための計画・目標をたてる。

5 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
評価方法	◎ペーパーテスト等 ○実技・実習等 提出物等	◎提出物等 ○パフォーマンス等 ○ペーパーテスト等 実技・実習等	◎パフォーマンス等 ○提出物等 ○実技・実習等

6 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価基準	時数
1 学期	4	A 人の一生と家族・家庭及び福祉	(1) 生涯の生活設計	知	人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解しているとともに、自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。	4
				思	生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
				主	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
	5	C 持続可能な消費生活・環境	(2) 消費行動と意思決定	知	消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解しているとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。	6
				思	自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
				主	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
	6		(1) 生活における経済の計画	知	家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。	6
				思	生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
				主	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
	7		(3) 持続可能なライフスタイルと環境	知	生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解しているとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。	6

		B 衣食住の生活の自立と設計	(2) 衣生活と健康	思	持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
				主	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
				知	・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解しているとともに、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。 ・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解しているとともに、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。	6
				思	被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
夏休み	8	D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	主	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
				知	ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。	
				思	自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
				主	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
2学期	10	B 衣食住の生活の自立と設計	(1) 食生活と健康	知	・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解しているとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解しているとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。	8
				思	食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
				主	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
			(3) 住生活と住環境	知	ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解しているとともに、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。	10
				思	住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
				主	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
	11					

	12		(3) 子供の生活と保育	知	乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解しているとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。	10
				思	子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
				主	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
3 学期	1	A 人の一生と家族・家庭及び福祉	(4) 高齢期の生活と福祉	知	高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解しているとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。	4
				思	高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
				主	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
	2		(5) 共生社会と福祉	知	生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。	4
				思	家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
				主	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	
	3		(2) 青年期の自立と家族・家庭	知	生涯発達の視点で青年期の課題を理解しているとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。	4
				思	家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
				主	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	

7 学習者へのメッセージなど

「家庭基礎」では個人の生活を人の一生から見ていきます。また、授業を通して生活者としての自分を考える時間をもってほしいと思います。さらには個人と家族、社会との関係から生活を捉えていきます。生活の課題の解は一つではありません。そのため高校で学ぶ地理・倫理・日本史・世界史・公民・国語・英語・美術・情報・生物・化学・保健体育などの学びと繋ぐことで、新たな発見があるはずです。意思と行動力を持った消費者市民としてのライフスタイルを築く、その第一歩を戸山で踏み出しませんか。「考える」こと、「省みる」こと、「生活に実践する」こと。“P l a n D o S e e”

【関連する大学学部】 家政学部・生活科学部・生活環境学部

年間授業計画

科目(講座名)		情報Ⅰ	1単位	必修	学年	2年
教科書 副教材	数研出版 高等学校 情報Ⅰ 数研出版 情報Ⅰ 徹底演習 ラーンズ WINSTEP 情報Ⅰ		教科担当			

1 教科の目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 科目の目標

効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う

3 授業内容と学習方法

コンピュータの仕組みとその扱いを学習する。
 情報社会に参画する能力を身につけ法規を学び違法行為・犯罪行為・トラブルから身を守る。
 データの活用、情報機器の操作・活用スキルの向上。各単元の「ねらい」を理解し活用できるようにする。
 授業内のプリントや課題の完成。コンピュータの操作方法の学習と習得。実習課題の提出する。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達 目標並び に評価の 観点	・情報や情報メディアの特性をふまえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身につけている。 ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任および情報モラルについて理解している。 ・アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し、技能を身につけている。	・情報に関する法規や制度およびマナーの意義、情報社会において個人のはたす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的にとらえ、考察している。 ・目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用するとともに、その過程を評価し改善している。	・情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。 ・情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。 ・問題の発見・解決にコンピュータを積極的に活用しようとしている。 ・問題解決の結果を振り返り改善しようとしている。
評価方法	レポートの作成 定期テスト 演習課題	演習課題 定期テスト	レポートの作成 演習課題

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	コミュニケーション	通信、マスコミュニケーションの進展 実習	知	メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷もふまえて科学的に理解している。	2
				思	メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的にとらえ、それらを目的や状況に応じて適切に選択している。	
				主	情報と情報技術を活用して効果的なコミュニケーションを行おうとしている。	
	5	ネットワークのしくみ	コンピュータネットワーク プロトコルとパケット 実習	知	・LAN, WAN, インターネットの構造などに関する知識を身につけている。 ・インターネットのプロトコルを適切に説明することができる。 ・パケット通信のしくみや、その利点と欠点を理解している。	2
				思	・LAN やインターネットなどの通信とその利便性について考えている。 ・プロトコルが 4 階層で構成されていることについて考え、判断している。 ・ルータによる経路制御のしくみについて考え、判断している。	
				主	・LAN やインターネットなどの通信を効果的に活用しようとしている。 ・パケット通信のしくみを理解しようとしている。	
			IPアドレス 暗号化 実習	知	・IP アドレス、ドメイン名、DNS のしくみを理解している。 ・暗号やデジタル署名のしくみを理解している。 ・SSL などの暗号技術を利用するための技能を身につけている。	2
				思	・ドメイン名の階層構造や DNS の利点について考えている。 ・どのような場面で暗号やデジタル署名などの技術が必要かを考え、判断している。	
				主	・IP アドレスやドメイン名のしくみを理解しようとしている。 ・暗号やデジタル署名などを効果的に活用しようとしている。	
	6	データ分析2	データの収集方法 実習	知	・一次データと二次データのちがいについて理解している。 ・目的に応じたデータの収集方法を選択している。	3
				思	・一次データと二次データのちがいを判断できる。 ・二次データを扱う際、その権利や信頼性について考えている。	
				主	・データの収集方法について知ろうとしている。	
	7		データ分析 実習	知	・欠損値、異常値、外れ値などの扱いについて理解している。 ・度数分布表とヒストグラム、データの代表値、分散と標準偏差、散布図と相関係数について、定義に従った式を表計算ソフトウェアに入力し、それらを計算することができる。	3
				思	・データを分析する前に、適切なデータの整理を行っている。 ・データの分析において、目的に応じた分析の方法を考え、その結果を適切に表現している。	
				主	・データを整理・分析し活用しようとしている。	
2 学期	9	情報社会における法とセキュリティ	情報社会の法規 個人情報と知的財産権	知	・情報社会を支える法規・制度について理解している。 ・個人情報やプライバシーの保護・活用に関連する法律の意義や目的、内容について理解している。 ・著作権などの知的財産権を保護する必要性や、その法律の目的について理解している。	3
				思	・法を遵守した判断や情報モラルに配慮した適切な判断ができる。 ・著作権などの知的財産権を保護することの必要性について考え、判断し、その結果を適切に表現している。	
				主	・情報社会を支える法規・制度について意欲的に学ぼうとしている。 ・著作権などの知的財産権を適切に扱い、法律を守ろうとしている。	
	10		情報セキュリティとその対策	知	・マルウェアやサイバー攻撃など、情報セキュリティを脅かすさまざまな問題について理解している。 ・ユーザ認証やアクセス制御など、情報セキュリティを確保するために必要な知識を身につけている。	3
				思	・セキュリティを脅かす問題に対する適切な対応について考え、判断している。 ・セキュリティを確保するために、ユーザ認証やアクセス制御などの必要性について考え、判断している。	
				主	・情報セキュリティを守るために情報技術を適切に活用しようとしている。 ・自分が使用しているパスワードの安全性や管理方法について改めて見直し、考えようとしている。	
	11	プログラミング	アルゴリズム	知	・問題解決の手順・解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を理解している。 ・アルゴリズムをフローチャートを用いて表現する技能を身につけている。	4

	12			思	・探索法のアルゴリズムを評価し、適切な探索法を判断している。	
				主	・アルゴリズムを、ことばやフローチャートで表そうとしている。	
			アルゴリズム2	知	・それぞれの探索法の特性を理解し、その手順をアルゴリズムを用いて表現することができる。	4
				思	・探索法のアルゴリズムを例に、アルゴリズムの効率について考えている。	
				主	・アルゴリズムを、ことばやフローチャートで表そうとしている。	
	3 学期	1	プログラミング	知	・コンピュータによる処理手順の自動実行の有用性を理解している。 ・プログラムの作成を通してアルゴリズムやプログラミングの基本を理解している。	4
		2		思	・アルゴリズムを適切なプログラミング言語と適切な記述で表現している。 ・プログラムの不具合に対して適切な処理ができる。	
				主	・アルゴリズムやプログラミングの基本を身につけようとしている。	
		3	プログラミング演習	知	・問題に対してプログラミングの基本をあてはめ記述することができる。	5
				思	・問題に対して適切な変数や配列を使用して記述している。	
				主	・問題に対し多くの手法を用い解決しようとしている。	

6 学習者へのメッセージなど

1年次に引き続き情報Ⅰを学びます。昨年と同様に身の回りの出来事や事象に興味をもって取り組んでくれるとよいと思います。スマートフォンやタブレットの情報機器や校内のネットワークは既にあります。あとは皆さんの好奇心とやる気です。2年次は論理的な内容が多くなります。ただ覚えるだけの勉強では身に付きません。今まで以上に理解に時間がかかるかもしれません。ひとつひとつの手順を面倒くさがらずに学習に取り組んでください。またわからない部分は復習を欠かさないようにしてください。

年間授業計画

科目(講座名)		論理国語	2単位	必修	学年	3年
教科書 副教材	「論理国語」(筑摩書房) 「新版七訂新訂総合国語便覧」(第一学習社)、 「上級入試漢字・語彙」(桐原書点)、 「現代評論文キーワード講義」(三省堂)、 「共通テスト+センター試験国語過去問題現代文」(尚文出版)、 「2026共通テスト対策実力養成重要問題演習現代文」(ラーンズ)、 「現代文記述講座 発展編」(数研出版)、 「近現代文学名作選」(明治書院)		教科担当			

1 教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 科目の目標

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 授業内容と学習方法

授業(学習)内容

- ・論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、要約等をしながらか論述したり、話し合ったりして考察を深める。
- ・異なる形式で書かれた複数の文章や図表等を伴う文章を読み、解釈したことをまとめたり、発表したりして情報活用力、発信力を伸ばす。
- ・漢字や語彙の学習、話し合いや意見の発表等の学習活動を通して、語彙力や表現力、論述力、行動力、創造力を伸ばす。
- ・演習を繰り返し、実践的な力を伸ばす。

学習方法

- ・論理的な文章の構成を意識して筆者の主張を的確に読み取り、論理的な思考力を高める。
- ・文章や話に含まれている情報について主張と論拠、推論、妥当性等、情報と情報の関係について理解を深める。
- ・課題を解決したり考えを深めたりするために、話を聴き合う場をつくり、表現に留意した上で話し合いを行う。
- ・要約や自分の考えをまとめることを通して、説得力のある文章を書く。
- ・ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするために、語彙を増やし、読書に親しむことを継続する。
- ・進路実現のための力をつけるために演習を繰り返す。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	実社会に必要な、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、言語文化に関することや読書等、国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。また、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言語文化に関心をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
評価方法	言葉や漢字、情報、知識等の獲得について、定期考査、課題に対する取り組み状況、提出物、小テスト、出席状況・学習態度などをもとに評価する。	知識や技能を活用して上記の目標達成を評価するために、定期テストや小テストに加えて論述や課題の作成、話し合いや発表等の活動、出席状況・学習態度などをもとに判断する。	知識・技能の獲得や思考力、判断力、表現力等を身に付けるための取り組みや試行錯誤を行おうとしていることを評価するために、課題、提出物、小テスト、レポート、アンケート、出席状況・学習態度等をもとに総合的に判断する。

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	「「自然を守る」ということ」(森岡正博)	・多様な主張を論じた文章を吟味し、新たな価値観に出会う。	知	教科書本文について内容を理解するとともに、国語の知識や技能を身につけるようにしている。	6
				思	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	
	5	「物語と歴史のあいだ」(野家啓一)	・抽象的な対象についての思考を具体的にまとめる力をつける。	主	教科書本文に関心をもちようとしている。態度は積極的で、他の人の説明等も注意深く聞き、ものの見方、考え方を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	
	6	「真実の百面相」(大森荘蔵)	・社会の変化をつかみ取る。	知	教科書本文について内容を理解するとともに、国語の知識や技能を身につけるようにしている。	6
				思	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	
	7	「ことばへの問い」(熊野純彦)	・ことばによって語るという行為の意味を捉える。	主	教科書本文に関心をもちようとしている。態度は積極的で、他の人の説明等も注意深く聞き、ものの見方、考え方を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	
2 学期	9	「日本文化私観」(坂口安吾)	・既成概念を覆す創造的な思考を身につける。	知	教科書本文について内容を理解するとともに、国語の知識や技能を身につけるようにしている。して、語感を磨き豊かにしている。	6
				思	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	
				主	教科書本文に関心をもちようとしている。態度は積極的で、他の人の説明等も注意深く聞き、ものの見方、考え方を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	
	10	「何のための「自由」か」(仲正昌樹)	・異なる時代の先見的文章から現代を考える。	知	教科書本文について内容を理解するとともに、国語の知識や技能を身につけるようにしている。	6
				思	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	
				主	教科書本文に関心をもちようとしている。態度は積極的で、他の人の説明等も注意深く聞き、ものの見方、考え方を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	
	11	共通テスト演習	共通テスト(センター試験過去問)演習	知	本文について内容を理解するとともに、国語の知識や技能を身につけるようにしている。	6

	12	特別授業	文章読解のまとめ	思	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	6
				主	本文に関心をもとうとしている。態度は積極的で、ものの見方、考え方を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	
				知	本文について内容を理解するとともに、国語の知識や技能を身につけるようにしている。	
	3 学期	1 2 3	特別授業 直前共通テスト対策 私大・国公立2次試験対策	思	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	18
				主	本文に関心をもとうとしている。態度は積極的で、ものの見方、考え方を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	
				知	本文について内容を理解するとともに、国語の知識や技能を身につけるようにしている。	

6 学習者へのメッセージなど

言葉によって理解し、表現する力を伸ばすために、教材をより深く理解し、読解力、思考力、判断力、表現力を高める努力をしましょう。語彙を増やすために各教材の語句の意味調べ等の予習をしましょう。また副教材での学習、小テスト、読書にも積極的に取り組みましょう。

本を読み、他者と話し合い、自ら考えていくことで、情報を選ぶ力と発信する力がつき、社会で生きる力が育まれます。本校で友人とともに学ぶことが、みなさんの成長につながることを願っています。

(なお上記教材は、省略したり、学ぶ順番を入れ替えたりする場合があります。)

年間授業計画

科目(講座名)	政治・経済	2単位	必修	学年	3年
教科書 副教材	『政治・経済』東京書籍 『最新 政治・経済資料集 2025』第一学習社	教科担当			

1 教科の目標

広い視野に立って、政治・経済・国際関係などについて多角的に理解させるとともに、現代社会の基本的な問題について、主体的に考え、公正に判断する力を養う。そして、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。また、共通テストの「公共、政治・経済」、「公共、倫理」でも高得点をとれる力を身につける。

2 科目の目標

- ・大学入学共通テストで80%を上回る点をとれる学力を身につける。
- ・自分の意見をまとめる作業を通じて、情報収集能力と読解力、表現力を身につける。

3 授業内容と学習方法

中学で学んだ「公民」の知識をベースとして、経済分野を中心に基本的仕組みを理解し、日本と国際社会の課題について学習する。課題(テーマ)については、広い視野に立って、様々な観点からアプローチする方法と論点を学ぶ。

各自、教科書を読んでから授業に臨む。資料集、プリントを主に用いて、学習を進める。単元の学習が終わるごと、小テスト等で知識の定着を図る。復習しやすいように、各自工夫して、ノートをつくっていくこと。時事問題は、適宜取り上げて解説するが、日頃から、ニュースや新聞をみて、関心を持つこと。

4 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	様々な社会事象について、正確に理解し、現代社会の諸課題を複合的に理解することができる。	社会的事象の繋がりを意識して、複雑な社会事象の解決策を考え、それを表現することができる。	知識の統合の上に、課題の発見が論理的にでき、表現することができる。 獲得した知識を活用し、諸課題について整理することができる。
評価方法	考查による記述・分析【知識・技能】 小テストによる記述・分析【知識・技能】	課題プリントによる記述・分析【思考力・表現力】 考查による記述・分析【思考力・表現力】	授業への取組(小テストを含む)【主体的な学習に向かう力】 授業での学習活動や提出・発表【主体的な学習に向かう力】

5 授業計画

期	月	学習内容	学習活動		評価規準	時数
1 学期	4	現代の経済社会と政府	経済社会の変容	知	学習項目について、複合的な関係に着目して、正確にその事象の意味や役割などに関する知識を獲得する。	24
	5	民主政治の基本原理	経済主体・市場経済			
	6	日本経済の発展と課題	市場の失敗 (中間考査) GDP・物価 金融	思	学習事項の複合的な関係を理解したうえで、社会的課題に対して、検討し、自分なりの考えを表激できるようになる。	
	7	日本経済の諸課題	財政 (期末考査) 労働問題・社会保障	主	自ら、社会的事象を選択し、それに対して「問い」を立てたり、「疑問」を持ったりする姿勢を身につけ、探究しようとしている。	
2 学期	8	日本社会の諸課題 基本的人権の尊重 国民経済と国際経済 国際社会における日本	時事問題	知	学習項目について、複合的な関係に着目して、正確にその事象の意味や役割などに関する知識を獲得する。	28
	9		自由権・社会権			
	10		貿易と国際収支 経済対立と国際協調	思	学習事項の複合的な関係を理解したうえで、社会的課題に対して、検討し、自分なりの考えを表激できるようになる。	
	11		国際社会における日本の役割 消費者問題			
	12		農業・食料問題 日本経済史	主	自ら、社会的事象を選択し、それに対して「問い」を立てたり、「疑問」を持ったりする姿勢を身につけ、探究しようとしている。	
3 学期	1	特別授業	共通テスト向け問題演習と解説	知	学習項目について、複合的な関係に着目して、正確にその事象の意味や役割などに関する知識を獲得する。	18
	2		時事・資料問題対策	思	学習事項の複合的な関係を理解したうえで、社会的課題に対して、検討し、自分なりの考えを表激できるようになる。	
	3			主	自ら、社会的事象を選択し、それに対して「問い」を立てたり、「疑問」を持ったりする姿勢を身につけ、探究しようとしている。	

6 学習者へのメッセージなど

授業を大切にして、正確な基礎知識を身につけていきましょう。疑問に思ったことは教員にいつでも質問にきてください。入試では、時事問題に関連した出題もあるので、是非とも毎日、ニュースに接することを習慣づけましょう。そして、現代社会が抱える課題を自らの関わる課題としてとらえ、今後日本は、そして自分はどうあるべきかを考えてください。

年間授業計画

科目(講座名)	「体育」	単位	2単位必修	学年	3 学年
教科書、副教材	大修館「新高等 保健体育」	教科担当			

1 教科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かかで活力ある生活を営む態度を養う。

2 体育科目の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

3 保健体育の科目及び内容構成

保健体育		
「体育」	「保健」	
A 体づくり運動 (1)知識及び運動 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	現代社会と健康	ア知識 イ思考力、判断力、表現力等
B 器械運動 (1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	安全な社会生活	ア知識及び技能 イ思考力、判断力、表現力等
C 陸上競技 (1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性		

D 水泳	(1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	生涯を通じる健康 ア知識 イ思考力、判断力、表現力等 健康を支える環境づくり ア知識 イ思考力、判断力、表現力等
E 球技	(1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	
F 武道	(1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	
G ダンス	(1)知識及び技能 (2)思考力、判断力、表現力 (3)学びに向かう力、人間性	
H 体育理論	ア知識 イ思考力、判断力、表現力等 ウ学びに向かう力、人間性等	

4 授業内容と学習方法

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
学習到達 目 標 並 び に 評 価 の 観 点	【知識】 運動を継続する意義や、体の構造、運動の原則などを理解すること、技術や名称や行い方を理解すること、体力の高め方を理解すること、伝統的な考え方を理解すること、競技会、試合、発表の仕方や文化的背景を理解し学ぶこと、運動観察の方法や見取り稽古の仕方を学ぶこと 【技能】 運動種目などの固有の技能や動きを身に付けさせること、各領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができるようにすること	合理的な動きと比較し成果や改善すべきポイントと理由を伝えようとする こと、課題解決のための計画を立て練習方法など仲間に伝えること、危険を回避するための活動の仕方を提案すること、よりよいルールやマナーについて提案すること、状況に応じて役割を提案すること、合意形成のためにかかわり方を見付け、調整すること、一人一人の違いを越えて楽しむための調整の仕方を見付けること、運動を継続して楽しむためのかかわり方を見付けること、	自主的・主体的に取り組もうとすること、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、フェアプレイを大切にしようとする、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、良い演技を讃えようとする、互いに助け合い高め合おうとすること、自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いを大切にすること、健康・安全を確保すること
具 体 的 な 評 価 方 法	①定期考査による確認テスト ②各種目における実技テスト ③毎授業における技術習得過程の観察	①タブレットを活用したグループワーク、課題解決学習レポート ②担当教員による助言・観察	①参加状況 ②基本的な心構え・取り組み ③仲間同士の教え合い、グループワークでの積極性

(1) 自主的・創造的精神に満ちた社会の有為な形成者の育成、リーダーとして国際社会に貢献できる人の育成

⇒そのためには

- ・「健康」があって初めてエネルギーに活動できる、よって基礎体力の定着を目指す
- ・「健康」とはどういう状況のことなのかを心と体のバランスをしっかりと探求し、自分を客観的に理解する力を育てる
- ・自分を知り、特性を生かす
- ・技能の習得はもちろんだが、思考力・判断力・表現力をより重視する授業展開
- ・何事にも粘り強く、立ち向かえるたくましさややり抜ける力を育成する

(2) 探究活動による深い学びの実践

情報活用力・探求力・情報発信能力・傾聴力・行動力・想像力の 6 つの力の 資質・能力を育てる

⇒そのためには

- ・選択授業をより多く導入
- ・男女共習による共生の意識改革
- ・性別・障害の有無に関係なく互いを認め合い高めあえる心と体の育成
- ・運動を実践する中で、常に批判的思考を育成し、メタ認知できる自己判断能力を育成
- ・公正・協力・責任・参画の場をしっかりと設定し、学びに向かう人間力の育成を強化する
- ・技能の習得はもちろんだが、思考力・判断力・表現力をより重視する授業展開(上の項でも記しました)

(3) カリキュラムマネジメントを通して学問に対する興味・関心を深め自ら学ぶ意欲を向上させる

⇒そのためには

- ・教科の横断的な学び方を通し、保健体育分野でも新たな関心を深められるような授業を展開する(特に保健分野)
- ・自分に合った運動を見つけ長く続けられるような具体的な方法や意思決定能力を育てる

6 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	評価規準	時数
1 学期	4	領域 E 球技(男女共習)	アルティメット、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、テニス、ソフトボール、サッカーより2種目選択	知 各種目の技能の習得、記録の相対的評価 技の名称の理解、ルールを理解 ゴール型種目については、攻撃や守備の一連の流れ、チームプレイを理解する。ネット型種目については、相手の動きに応じた状況判断、技能発揮について理解する。ダブルスを行う場合には、仲間同士の連携したプレイを理解し、実践する。	18
	5			思 タブレットを活用しながら課題を発見し、解決に向けて思考する、気が付いたことを他者に伝えようとする。攻防において自己やチームの課題を発見し、運動の取り組み方を工夫している、自己の考えたことを他者に伝えようとしている	
	6	体力テスト 領域 D 水泳 (男女別習)		学 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の方法を工夫し、積極的な参画をしようとする 球技に自主的に取り組む フェアなプレイを大切にしようとしている 作戦など話し合いに貢献しようとしている 一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとしている 互いに助け合い教え合おうとしている	
	7	D 領域 水泳 (男女別習)	(1)クロール泳法 (2)平泳ぎ泳法 (3)バタフライ泳法 (4)背泳ぎ泳法 (5)室内トレーニング	知 各種目の技能の習得、記録の相対的評価 泳法の名称理解、体力の高め方の理解 運動観察方法、ルールを理解 泳法について、課題を発見し、解決に向けて思考する、合理的な課題解決を目指す 気が付いたことを他者に伝えようとする 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	5
2 学期	8	D 領域 水泳 (男女別習)	(1)クロール泳法 (2)平泳ぎ泳法 (3)バタフライ泳法 (4)背泳ぎ泳法 (5)室内トレーニング	知 各種目の技能の習得、記録の相対的評価 泳法の名称理解、体力の高め方の理解 運動観察方法、ルールを理解	2
	9			思 泳法について、課題を発見し、解決に向けて思考する、合理的な課題解決を目指す 気が付いたことを他者に伝える 学 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	2
		領域 E 球技(男女共習)		知 各種目の技能の習得、記録の相対的評価 技の名称の理解、ルールを理解 ゴール型種目については、攻撃や守備の一連の流れ、チームプレイを理解する。ネット型種目については、相手の動きに応じた状況判断、技能発揮について理解する。ダブルスを行う場合には、仲間同士の連携したプレイを理解し、実践する。 思 タブレットを活用しながら課題を発見し、解決に向けて思考する、気が付いたことを他者に伝えようとする。攻防において自己やチームの課題を発見し、運動の取り組み方を工夫している、自己の考えたことを他者に伝えようとしている 学 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の方法を工夫し、積極的な参画をしようとする 球技に自主的に取り組む。フェアなプレイを大切にしようとしている。作戦など話し合いに貢献しようとしている。一人一人の違いに応じたプレイを大切にしようとしている。互いに助け合い教え合おうとしている	18
3 学期	1	特別授業	アルティメット、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、テニス、ソフトボール、サッカーより1～2種目選択	技 拾う、つなぐ、打つなどの一連の流れで攻撃を組み立てられるようにする、役割に応じたボールの操作ができるようにする、 知 ルールの理解、用具の理解、 思 攻防において自己やチームの課題を発見し、運動の取り組み方を工夫している、自己の考えたことを他者に伝えようとしている 学 授業への参加意欲を自己評価する、運動観察の方法を工夫し、積極的な参画をしようとする	6
	2				
	3				

7 学習者へのメッセージなど

令和4年度から新学習指導要領が施行され、保健体育の授業の在り方が大きく変容しました。体力や技能の程度及び性別の違いに関わらず、仲間とともに学ぶ体験を通して、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指します。また、運動に関する自己や仲間の課題を発見し、課題解決に向けて仲間とともに真摯に取り組む資質・能力の向上を目指します。体育の授業への取り組み方としては、自己や仲間、チームの課題に対して実直に取り組む、互いを認め合い話し合ったりして主体的に授業へ参画しているかが大切な時間になり、その取り組む姿勢を指導側は授業毎に評価していきます。保健体育の授業を通して、道徳性や人間性をさらに育み、人間として大きく成長することを期待します。

令和7年度 年間授業計画

科目(講座名)		英語コミュニケーションⅢ	4単位	必修	学年	3年
教科書 副教材	啓林館 Blue Marble English Communication Ⅲ Cutting Edge orange 英単語 LEAP, 英熟語ターゲット(継続使用) Clues to reading 2026 年大学共通テスト英語リーディング対策 80min 2026 年大学共通テスト英語リスニング対策 30min 2026 年パワーマックス共通テスト対応模試 英語リスニング×8		教科担当			

1 教科の目標

- ①外国語によるコミュニケーションのための知識・技能を働かせ、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝えあったりする資質・能力・態度を育成する。
- ②入試問題に対応できる語彙力・読解力(文章の展開や書き手の意図を把握する力)の定着を図ると共に、自分の意見や考えを論理的に書いたり話したりできる能力を養う。

2 科目の目標

- ①【聞くこと】
社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。
- ②【読むこと】
社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。
- ③-1【話すこと[やり取り]】
社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができるようにする。
- ③-2【話すこと[発表]】
社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。
- ④【書くこと】
社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。

3. 学習の目標

1. 教科書や副教材で、時事的な話題を英語で理解しながら、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能について総合的な英語力の伸長を図る。
2. 速読や精読の訓練を行うことで、文章の概要や要点を素早く正確につかむ読解力を養成する。
3. debate 等の output 活動を通じて、即興の論理的思考、英作文能力等を養う。

4 授業内容と学習方法

教科書・精読教材を中心に展開する。教科書を使用して言語活動を多く行うことによって、英語でコミュニケーションを行う場面を作る。またその際、ペアワーク・グループワークを活用し、主体的・対話的な学習ができるような環境を整える。

精読教材を使用して、読解力やリーディングスキルの育成を行う。また、リスニングや音読活動を通じてコミュニケーションの基礎となる能力を身に着ける。定期テストごとにパフォーマンステストを行う。単語の小テストやボキャブラリーコンテストを行い、語彙力を定着させる。

5 評価方法並びに学習到達目標と評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
学習到達目標並びに評価の観点	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に着けているか。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができているか。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話されたり書かれたりする文章等を聞いたり、読んだり、して必要な情報を読み取ったり、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点などを捉えようとしている。日常的な話題や社会的な話題について、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考え、気持ちなどを基本的な語句や文を用いて、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり伝え合ったりしようとしている。
評価方法	①定期考査・小テスト	①定期考査 ②パフォーマンステスト[プレゼンテーション・ディベート・ライティングテストなど]	①授業内での行動観察 (思考・判断・表現の活用における学習状況) ②パフォーマンステスト[プレゼンテーション・ディベート・ライティングテストなど]

6 授業計画

期	月	学習内容	学習活動	領域					評価規準	時数
				聞	読	話	話	書		
1学期	4	English Communication III Lesson 2	・言語活動(リプロダクション、リテリング、ディベートなどのグループ活動、ペアワーク) ・パフォーマンステスト[聞くこと、読むこと]	○	○				知 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 技 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた文章を読んでその内容を捉える技術を身につけている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について話された文などを聞いて、その内容を捉える技能を身につけている。	9
	5	Cutting Edge Chapter 3, 5							思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題につ	

									いて、必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要、要点を捉えている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点を捉えている。	
		English Communication III Lesson 3,4 Cutting Edge Chapter 7, 9, 1	・言語活動（リプロダクション、リテリング、ディベートなどのグループ活動、ペアワーク） ・パフォーマンステスト[話すこと（やりとり）]	○		○			主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている。 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。	
夏季休業期間	8		・夏期講習							
2学期	9 10	English Communication III Lesson 5, 7 Cutting Edge Chapter 10, 12 共通テスト演習	・ボキャブラリーコンテスト ・言語活動（リプロダクション、リテリング、ディベートなどのグループ活動、ペアワーク） ・パフォーマンステスト[書くこと・（聞くこと）]	○			○		知 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 技 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝える技能を身につけている。 思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えている。 主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。	18
	11 12	English Communication III Lesson 8, 9 Cutting Edge Chapter 13, 14 共通テスト演習	・ボキャブラリーコンテスト ・言語活動（リプロダクション、リテリング、ディベートなどのグループ活動、ペアワーク） ・パフォーマンステスト[話すこと（発表）]	○		○	○		知 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 技 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝える技術を身につけている。 思 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えている。 主 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。	12
冬季休業期間	1	共通テスト演習	・共通テスト演習							
3学	1		・共通テスト演習						知 技	8

2	特別授業	・2次試験対策						思	
3		・ライティング添削						主	

7 学習者へのメッセージなど

英語コミュニケーションⅢでは、コミュニケーションの基本である「聞く」「読む」「話す（やり取り）」「話す（発表）」「書く」の5領域の能力を伸ばします。「話す」は「話すこと（やりとり）」と「話すこと（発表）」の2項目に分けて指導と評価を行います。

1～2年次に学習した内容を用いて、ディベートを中心としたアウトプットを繰り返し行うことで、英語を素早く、自然に表現できるようになることを目指します。そのために、英語で何が言えないか（書けないか）に自分で気づくことが重要です。英語コミュニケーションⅢの授業では、社会的な英文を扱います。社会的な事柄に関連した知識を日ごろから学習しておくことが不可欠です。英語以外の他の科目の教養を得るために、他教科もしっかりと学習してください。

日々の予習や復習をしっかりと行い、入試に対応できる力を育成しましょう。